第2期佐久穂町コミュニティ創生戦略策定に係る
住民意識調査結果報告書

令和2年3月

本書の構成

**１．調査の概要・・・

1. 調査の概要

(1)調査目的

第2期佐久穂町コミュニティ創生戦略の策定に向けて、第1期戦略の取組みの成果・課題を把握するとともに、コミュニティ活動などの状況や課題を整理し、今後求められる施策の方向性について示すことを目的に実施した。

(2)調査の概要

- 実施期間:令和2年1月20日(月)～令和2年2月7日(金)
- 配布調査票数:2,000票
- 調査対象者:無作為抽出の16歳以上の男女
- 有効回答数:1,131票　白票:1票
- 回収率:56.6%

(3)調査結果の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答の設問は、回答数を有効回答者数で除した割合を示しているため、割合の合計が100%を超える場合がある。
- クロス集計は、集計を行っている項目のどちらか一方が無回答となっている場合集計されないため、クロス集計における各項目の合計値は、その設問の単純集計の合計値と一致しない場合がある。
- 過年度比較している項目は、「第1期佐久穂町コミュニティ創生総合戦略策定に係る住民意識調査」の結果および、この調査結果を加工した第1期佐久穂町コミュニティ創生総合戦略内の数値目標・KPIの基準値と比較をしている。

2. 調査結果の概要

(1)第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略の評価

① 総合戦略の施策の認知度は低く、住民に取組みがあまり知られていない状況である。特に町への定着を図りたい若い世代において、認知度が低く、ターゲットに適切に情報を届けるための工夫が求められる。

② 地域コミュニティ、子育て・教育コミュニティ、地域経済創造コミュニティ、コミュニティを下支えする基盤のそれぞれについて関連する分野で生活の変化を実感したか、という設問に対して、「わからない」という割合が高く、多くの取組みは住民が評価を判断できる水準まで浸透していないといえる。取組みを認知している人(「わからない」と回答した者以外)で、特に子育て・教育環境の充実に対する評価が高く、第1期戦略の成果が出ている分野といえる。一方で、地区での話し合いの進捗は地区により差が見られたため、取組みの遅れている地区のフォローが求められる。また、地域の産業に対する施策は地産地消等を意識する人は一定数いるものの、地域ブランドの構築等は実感されていない。

(2)地域コミュニティの状況【基本目標Ⅰ】

① 隣近所のコミュニティの状況は経年で見ると大きな変化は見られず、近所の住民との関係は維持されていることがうかがえる。年代別に見ると、年代が高くなるにつれてご近所づきあいをしている傾向にあり、40代以下は隣近所とは挨拶程度のつきあいが約半数以上を占める。これらの世帯は地域で利用したいサービスは特にないとするものの、担い手になる意向も低い。今後の一層の高齢化・人口減少を見据えて、若い世代の隣近所での支え合いの関係の構築を促進することが必要である。

② 居住地区に対する満足度は横ばいであり、前回調査時の水準が維持されている。満足度の高さと地区活動への参加状況には関連が見られ、活動を促進していくことは効果的であると考えられる。町への愛着は前回調査時より上昇しており、特に20代、30代で上昇している。

③ 16～19歳の町への「継続居住＋Uターン意向」は上昇したが、回答保留者が減少したことにより、町外への転出意向も高まっており、町の魅力を伝えていく必要がある。また、定住意向は通勤・通学先が遠いほど、下がる傾向にあるが、高速道路の開通等交通環境の改善によって通学・通勤がしやすくなったとの声が見られた。町外通学者・通勤者も町に住み続けたいと感じる近隣市町村と差別化した施策立案が求められる。

（2）地域コミュニティの状況【基本目標Ⅰ】の続き

④ 集落の今後についての話し合いの状況は、地区により取組みに差が見られるが、話し合いに参加意向が高い人ほど、集落への愛着度が高く、集落の現状に危機感を抱いており、移住促進等について積極的な意見を持っていた。10代は比較的楽観的な見通しを持つ傾向が見られたが、こうした話し合いに若い世代の参加を促すことで、集落活動への参画を促進することも有効と考えられる。

（3）子育て・教育コミュニティの状況【基本目標Ⅱ】

① 行政および民間の子育て・教育の取組みの評価は高まっており、第1期戦略中に充実してきているといえる。特に「こどもセンター」が完成して子育てに関する支援が充実したことは、子育てに関わる世帯からは高い評価を得ている。一方で、依然として子育てに対する経済的な不安や高齢出産に対する不安があり、理想的な人数の子どもを持つことができていないという意見がある。希望する人数の出産を実現するためには、一層の経済的な支援が求められる。

② 結婚については、結婚していない理由として男性では出会いの場が少ないことが多く挙げられているのに対して、女性では結婚自体の必要性を感じない、仕事や学業に取組みたいという意見が多く、結婚自体に対する考え方の違いが浮き彫りになっている。出会いの機会を創出する取組み（交流を促進する）を行うとともに、仕事と家庭の両立に向けた支援などが必要であると考えられる。

（4）地域経済創造コミュニティの状況【基本目標Ⅲ】

① 町内での買物や住宅の増改築の施工依頼が減少しており、地産地消を意識する人は一定数いるものの、町内での消費は縮小傾向となっている様子がうかがえる。

② 高速道路の開通は、佐久市や小諸市等への通学者・通勤者から評価されており、このような通勤・通学の利便性向上も転出抑制に有効と考えられる。

③ 若い世代の地域の求人情報に対する興味は喚起できておらず、地域の雇用を若い世代に結びつけることができていない可能性がある。また、佐久市・小諸市に通勤する人ほど転出意向が高いことから、今後も地域内での雇用を拡充し、その情報を若い世代に届ける工夫が求められる。

（5）コミュニティを下支えする基盤の状況【基本目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ横断】

① コミュニティ活性化の基盤となる町民のコミュニティへの参加度は上昇している。特に地区コミュニティへの参加度が高まっているが、年代が高いほど役職付きになり地区コミュニティへの参加が増える傾向があることから、高齢化による影響もうかがえる。スポーツや趣味等のグループでの活動も同様の傾向が見られる。参加していない理由として、仕事・家事・介護・育児で時間がないという声もあり、働き方改革の推進や家事・育児への支援が若い世代のコミュニティへの参加度を高めることに寄与する可能性がある。

② 第1期総合戦略の内容を全く知らなかったという住民も多く、今後は第2期戦略の施策をどのように周知し、一層のコミュニティの活性化を図るかが課題である。住民にとって有用な情報を積極的に発信するとともに、発信するメディアを多様化させることも有効と考えられる。特に、現在はSNSを通じて町政情報を得ている住民は少ないものの、60代でも既に半数はSNSを利用していることから、従来の広報等に加えて、LINE等で情報を発信することで町政情報を広く伝えられる可能性がある。

住民意識調査結果の一部は、数値目標やKPIとなっている。下表は政策体系との対応状況を整理したものである。

基本目標	施策	数値目標／KPI	本書の対応ページ	
			ページ	関連図表ページ
Ⅰ 地域コミュニティ		**住民の居住地区満足度**	35	35～38
	1.地域コミュニティの実態把握、集落運営や組織再編のための支援			
	2.地域コミュニティによるケア体制の強化			
	3.地域コミュニティが主体の人口定着、U･Iターン促進に係る取組への支援			
	4.地域コミュニティが取り組む、集落の歴史･文化･行事･景観･まちなみの継承や形成の支援	**町への愛着度**	39	39～40
Ⅱ 子育て･教育コミュニティ		**16～19歳における「継続居住＋Uターン意向」**	45	45
		生産年齢人口における「子育て･教育環境魅力指数」	63	63
	1.「こどもセンター」や親子に寄り添うコミュニティの充実			
	2.地域で支える、生きる力を涵養する保育、乳幼児教育			
	3.子どもたちが佐久穂町に住む魅力に気づき動機を養う愛郷教育、キャリア教育の推進			
Ⅲ地域経済創造コミュニティ		**主に町内で買い物する家庭の割合**	80	80～82
		過去3年間の住宅の購入･リフォームの際の町内への発注棟数	83	83～84
	1.地域資源棚卸と地域に根差した事業ふ化の仕組みづくり			
	2.地域の資源や町のくらしに根差すしごと、産品、風土のPRとブランド化			
	3.地域のみんなが稼いだお金を地域で循環			
Ⅰ Ⅱ Ⅲ横断	**コミュニティを横断的に下支えする基盤の形成**	**コミュニティ活性度に係る指数**	97	97～112
	1.コミュニティの魅力やニーズに対応した情報発信によるコミュニケーションの活発化			
	2.コミュニティ創生戦略の推進体制の構築と進捗管理			

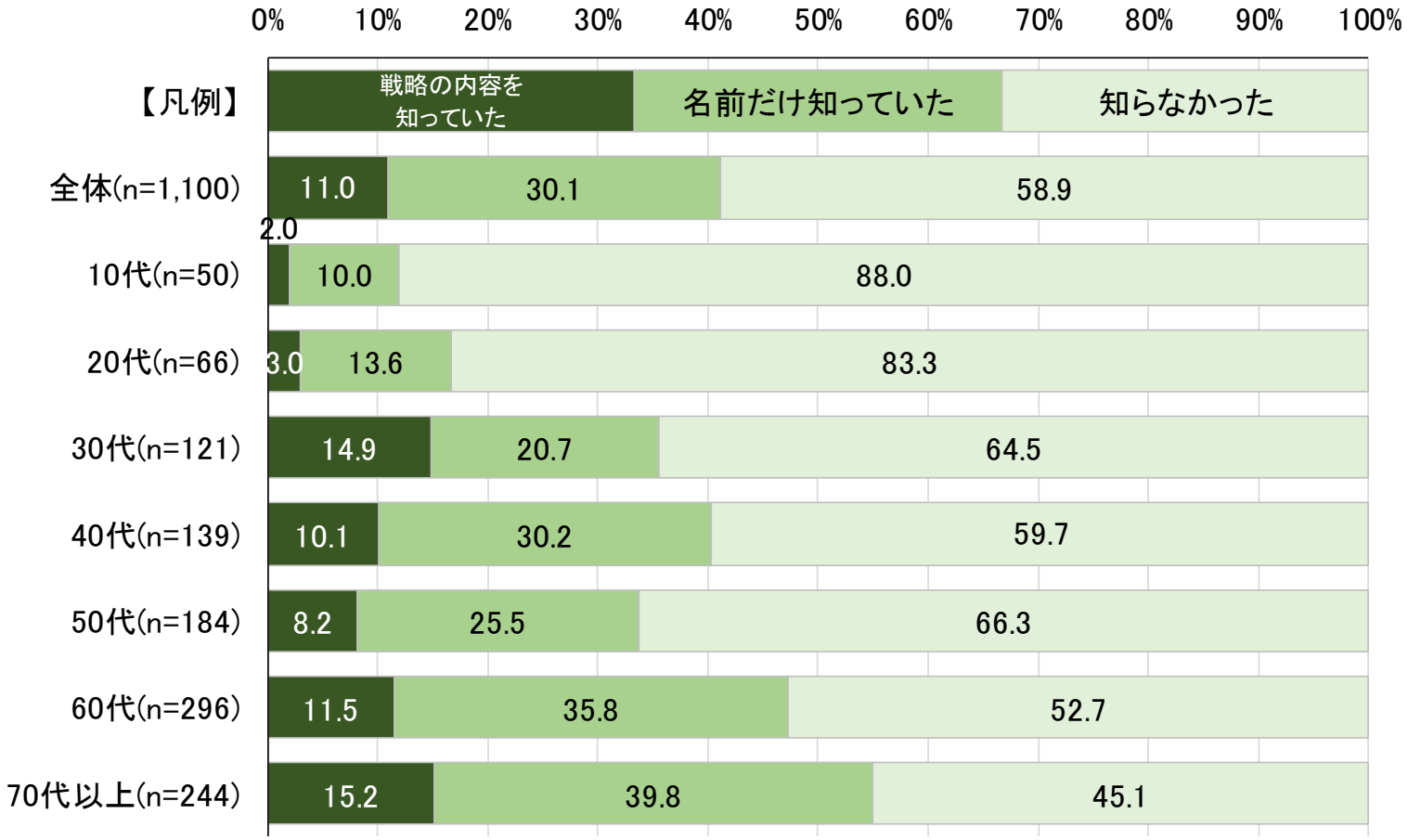
3. 第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略の評価に関する設問

①「第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略」の認知度

- 「第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略」の認知度を見ると、「戦略の内容を知っていた」と回答した人は全体では11.0%に留まっている。
- 年代が高いほど、「戦略の内容を知っていた」「名前だけ知っていた」とする割合は高い傾向にある。

※下記の問番号はアンケートの設問番号です。次ページ以降、同様の表記をしている

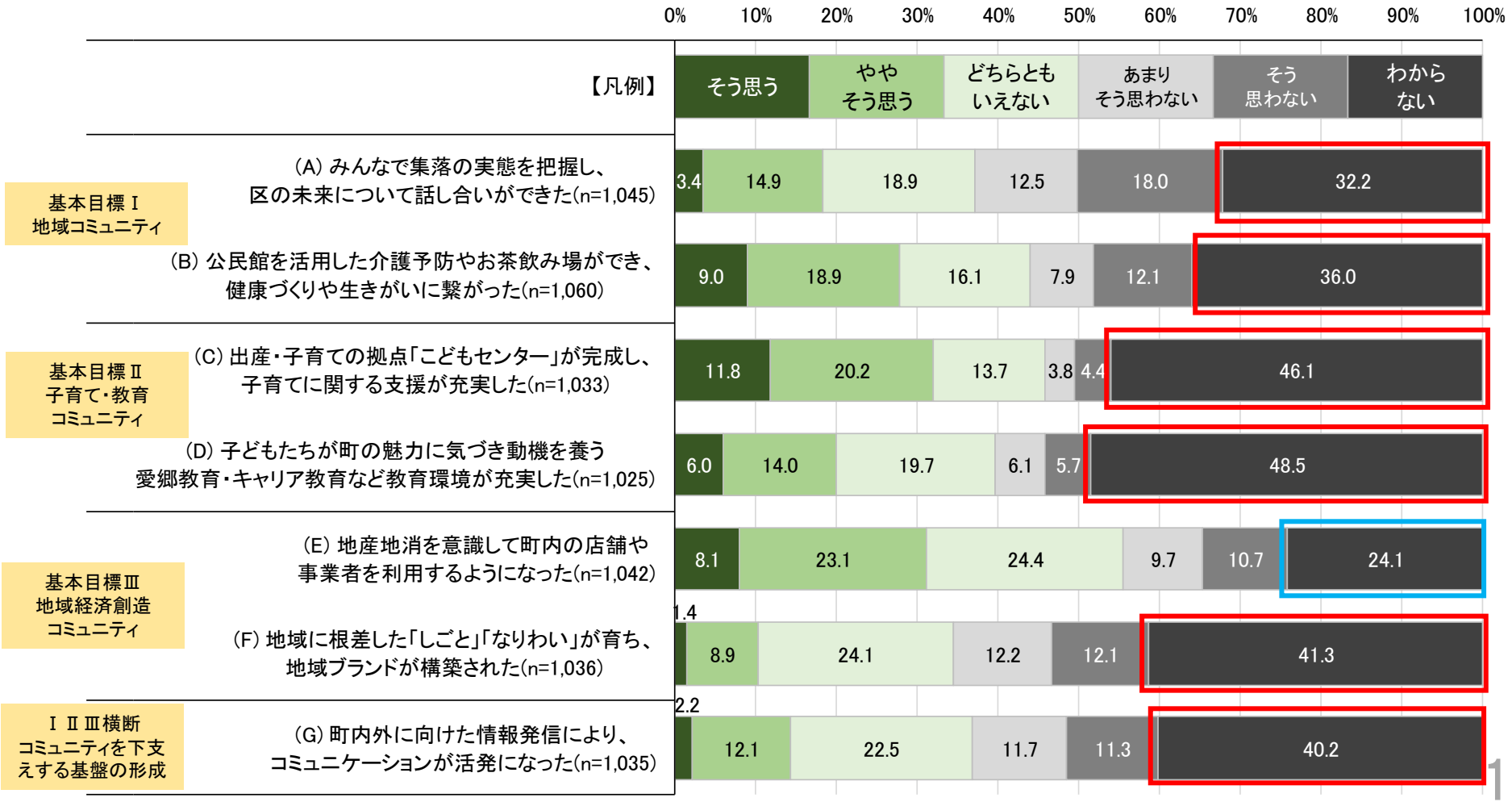
問48　「第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略」の認知度



②自身の生活や佐久穂町におけるこの数年の変化

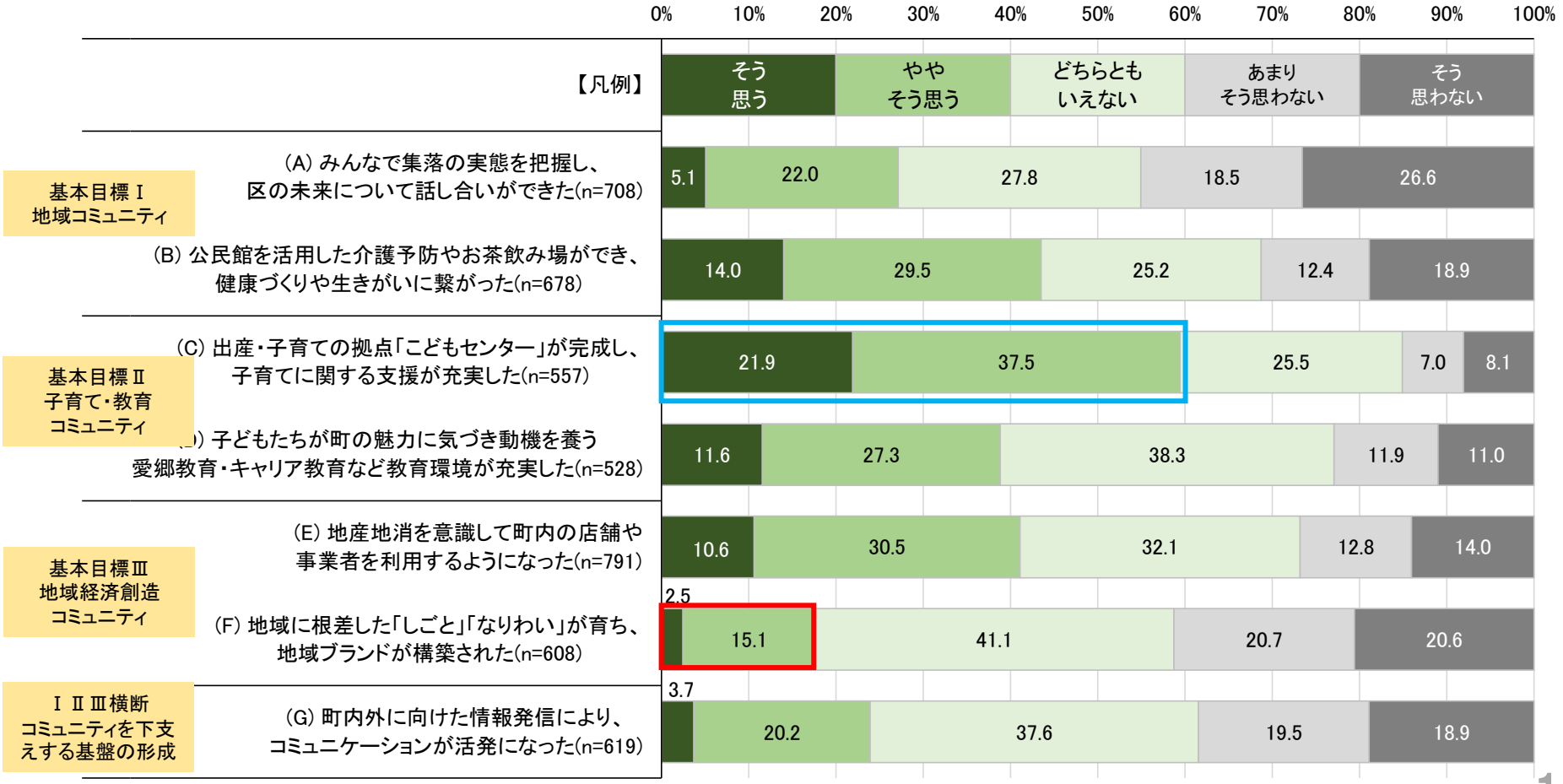
- 総合戦略の基本目標ごとに項目を設定し、ここ数年の変化を聞いたところ、「(E)地産地消を意識して町内の店舗や事業者を利用するようになった」以外の設問で、「わからない」の割合が30%を超えており、総合戦略の取組みによる変化を感じていない層が一定数いる結果であった。

問50　自身の生活や佐久穂町におけるこの数年の変化　※次ページ以降に一部クロス集計あり



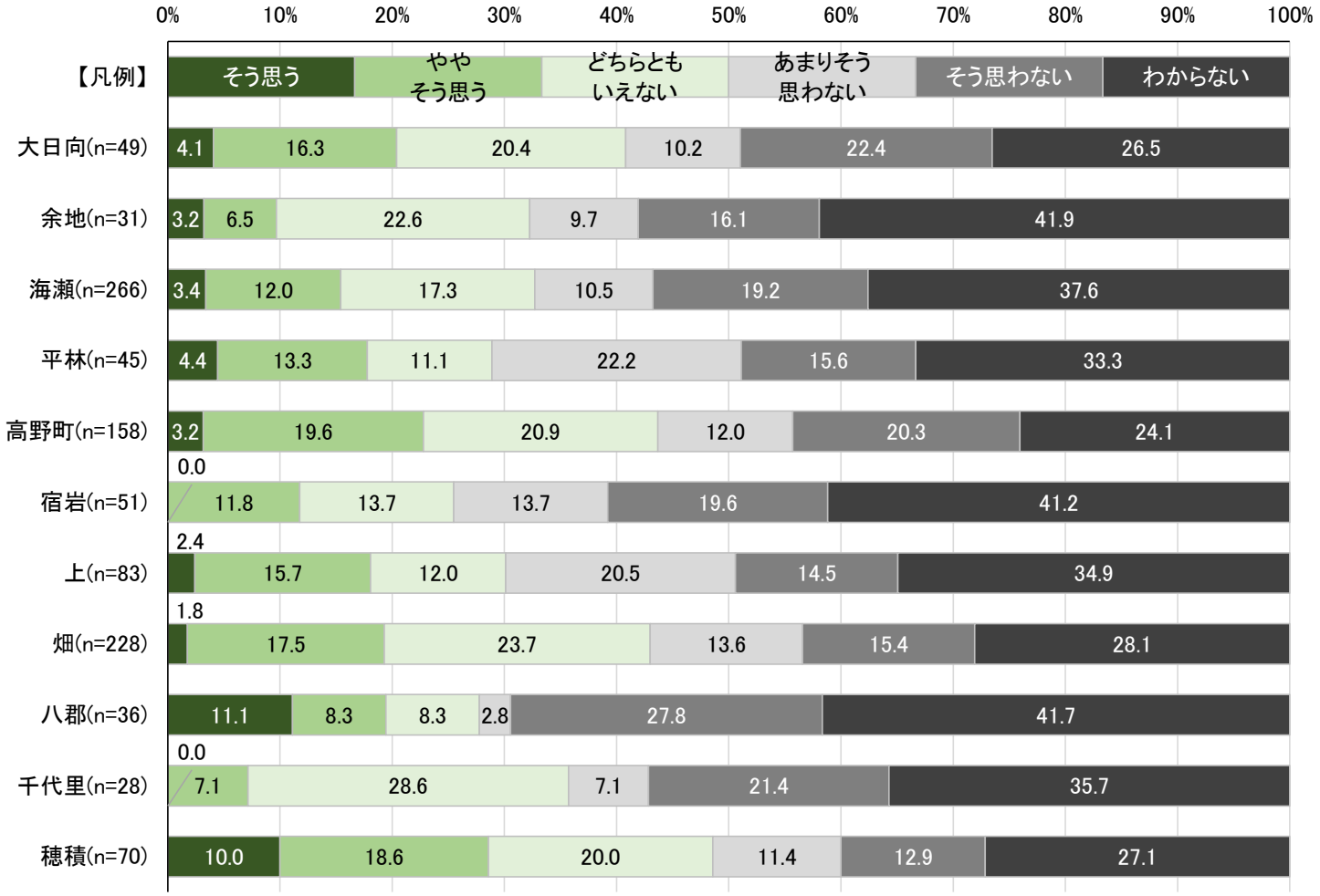
- 前頁の設問について、「わからない」を除き集計した結果、「(C)出産・子育ての拠点『子どもセンター』が完成し、子育てに関する支援が充実した」は、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が59.4%であり、変化が実感されている。一方で、「(F)地域に根差した「仕事」「なりわい」が育ち、、地域ブランドが構築された」は、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が17.6%であり、変化を実感している人が最も少ない。

問50　自身の生活や佐久穂町におけるこの数年の変化(「わからない」を除いた集計)



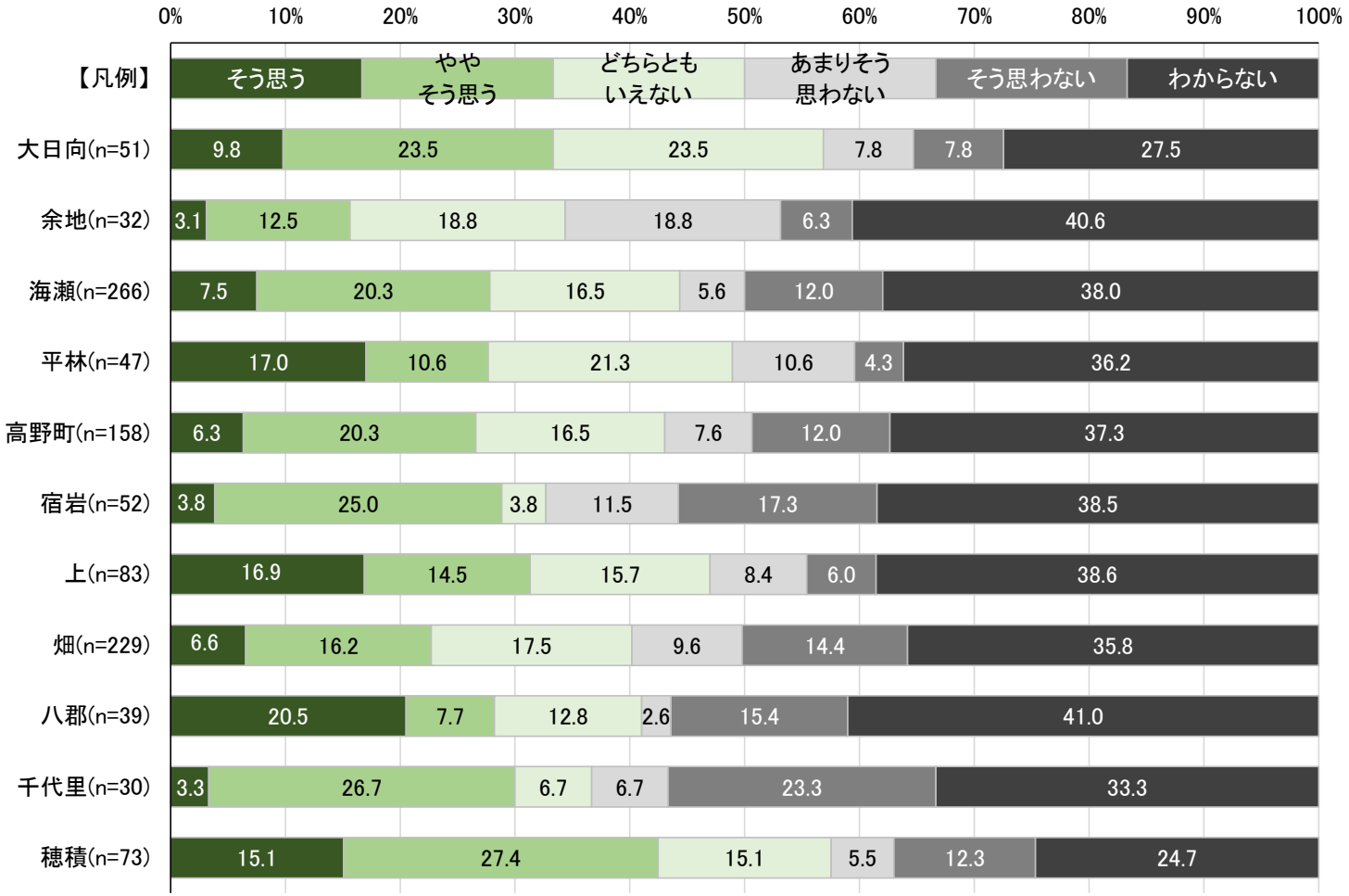
- 「(A)みんなで集落の実態を把握し、区の未来について話し合いができた」について地区別に見たところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、穂積地区で28.6%と最も多く、ついで高野町地区が22.8%である。

地区別　(A)みんなで集落の実態を把握し、区の未来について話し合いができた



- 「(B)公民館を活用した介護予防やお茶飲み場ができ、健康づくりや生きがいに繋がった」について地区別に見たところ、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合は、穂積地区で42.5%と最も高く、ついで大日向地区が高くなっている。

地区別　(B)公民館を活用した介護予防やお茶飲み場ができ、健康づくりや生きがいに繋がった



4. 基本目標Ⅰ【地域コミュニティ】の状況

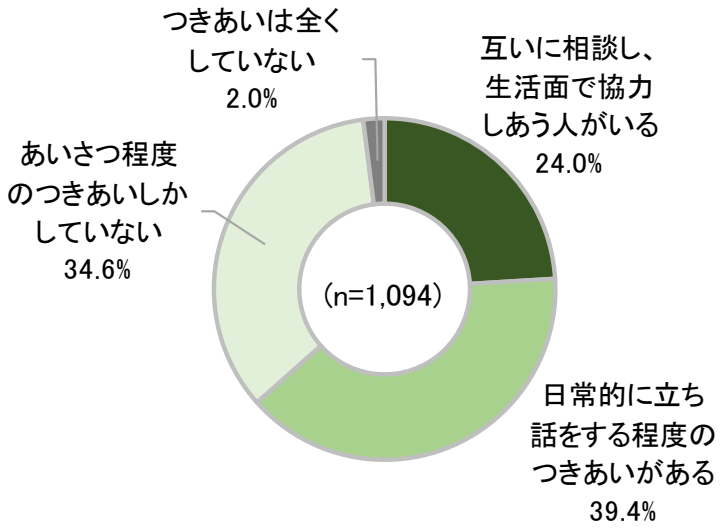
（1） ご近所づきあい・交流について

①ご近所づきあいの状況/ご近所の方とのあいさつの頻度

- ご近所づきあいの状況を見ると、「日常的に立ち話をする程度のつきあいがある」の割合が39.4%と最も高く、ついで「あいさつ程度のつきあいしかしていない」が多い。
- ご近所の方とのあいさつの頻度は、「週に数回程度」が最も多く48.3%となっている。

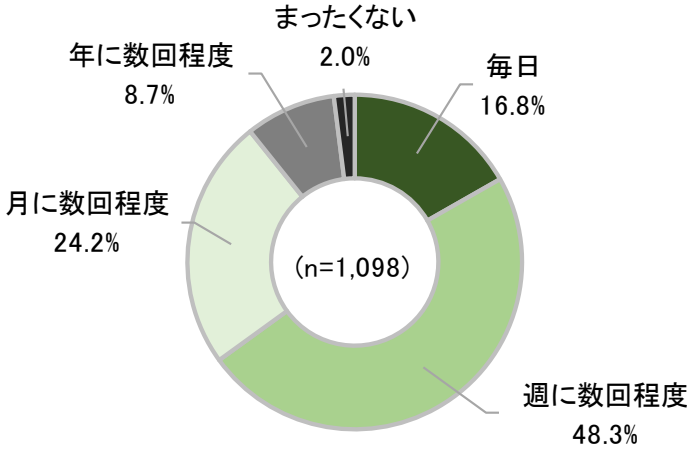
問18　ご近所づきあいの状況
※次ページ以降にクロス集計、過年度比較あり

	度数（人）	割合（%）
互いに相談し、生活面で協力しあう人がいる	263	24.0
日常的に立ち話をする程度のつきあいがある	431	39.4
あいさつ程度のつきあいしかしていない	378	34.6
つきあいは全くしていない	22	2.0
合計	1,094	100.0



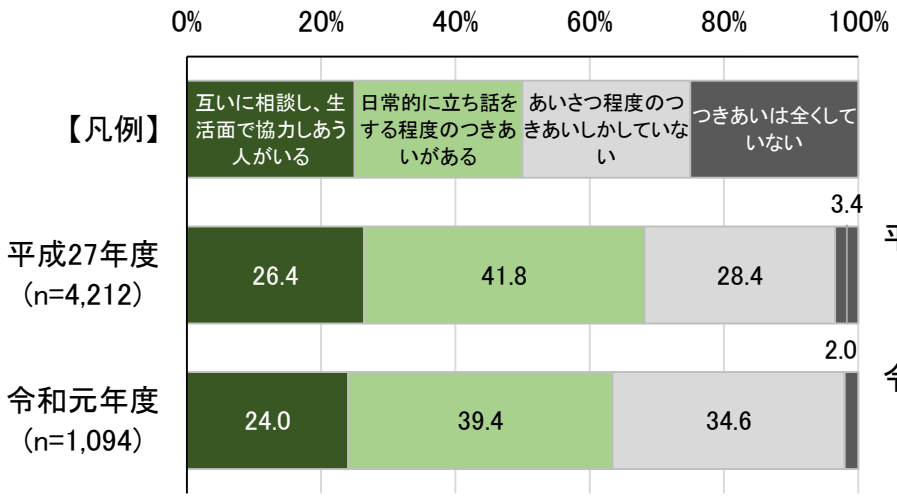
問19　ご近所の方とのあいさつの頻度
※次ページ以降にクロス集計、過年度比較あり

	度数（人）	割合（%）
毎日	184	16.8
週に数回程度	530	48.3
月に数回程度	266	24.2
年に数回程度	96	8.7
まったくない	22	2.0
合計	1,098	100.0

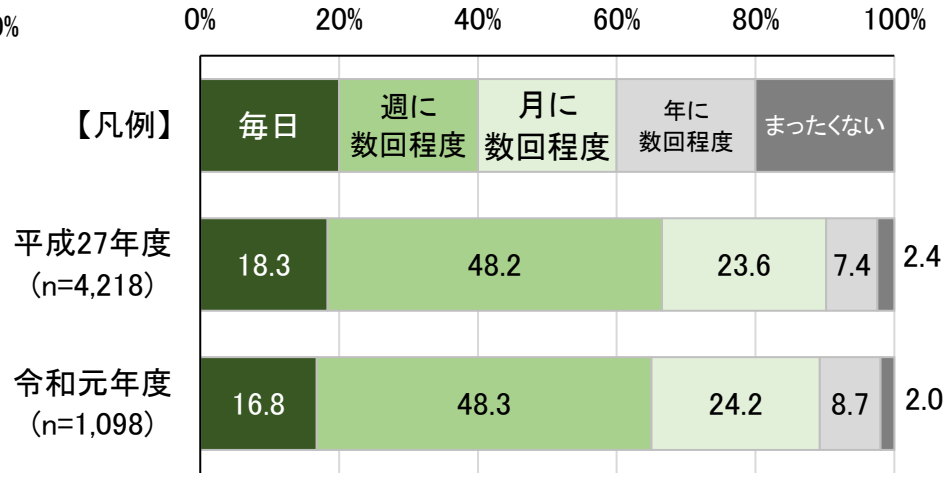


- ご近所づきあいの状況やご近所の方とのあいさつの頻度について、平成27年度の結果と比較したところ、同程度の結果となっており、ご近所との関係は変化していないといえる。

過年度比較　ご近所づきあいの状況

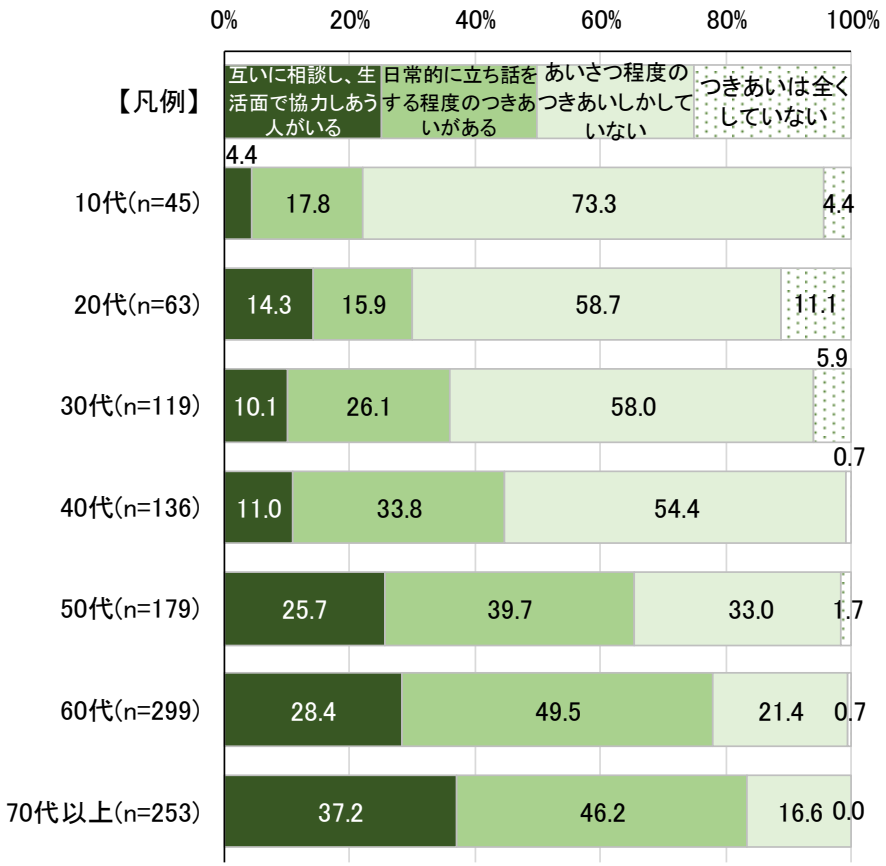


過年度比較　ご近所の方とのあいさつの頻度

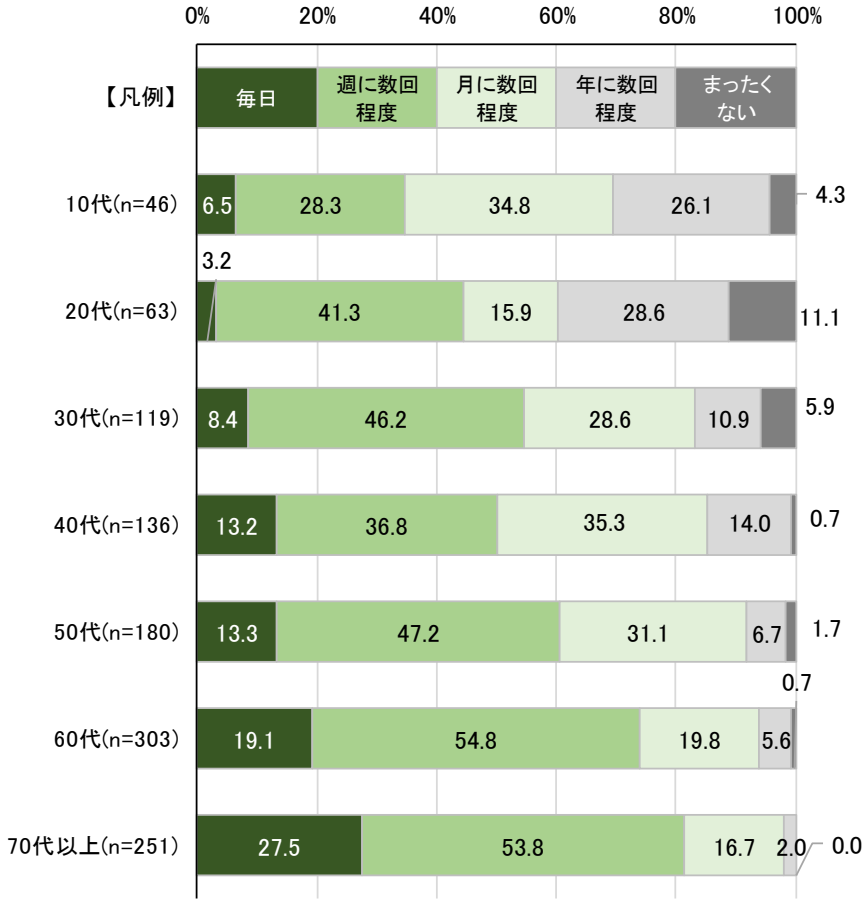


- 年代別にご近所づきあいの状況を見ると、年代が上がるほどご近所づきあいをしている傾向にある。40代までは「あいさつ程度のつきあいしかしていない」の割合が最も高く、ご近所との関係が薄い人が多いといえる。
- 年代別にご近所の方とのあいさつの頻度を見ると、60代以上で頻度が高い一方、10代、20代は「年に数回程度」または「まったくない」で3～4割を占める。

年代別　ご近所づきあいの状況

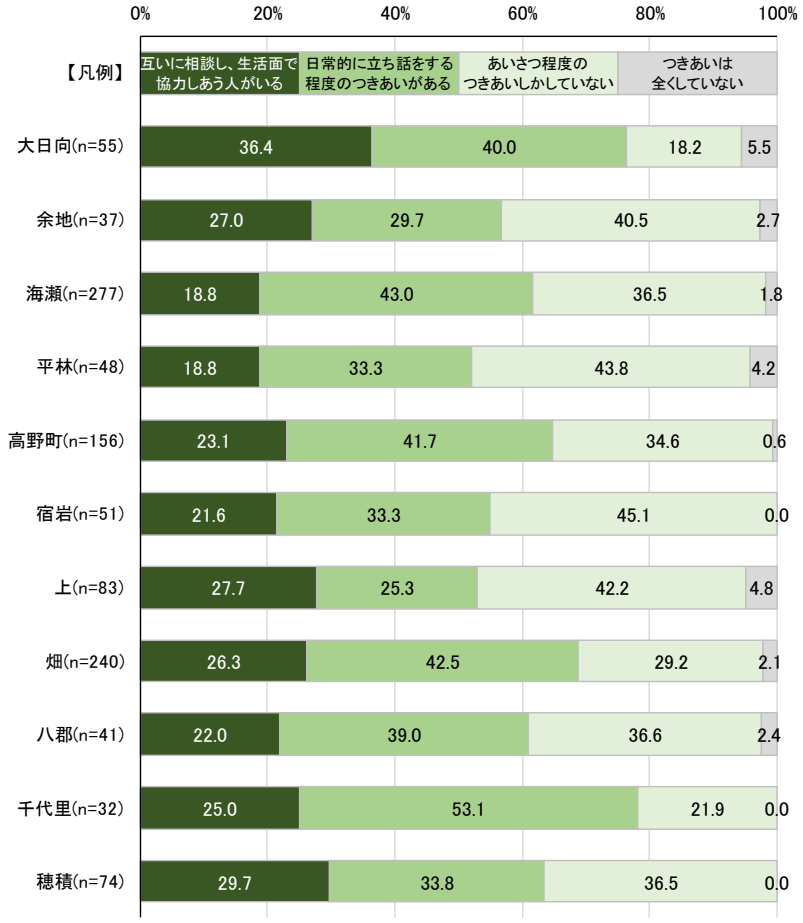


年代別　ご近所の方とのあいさつの頻度

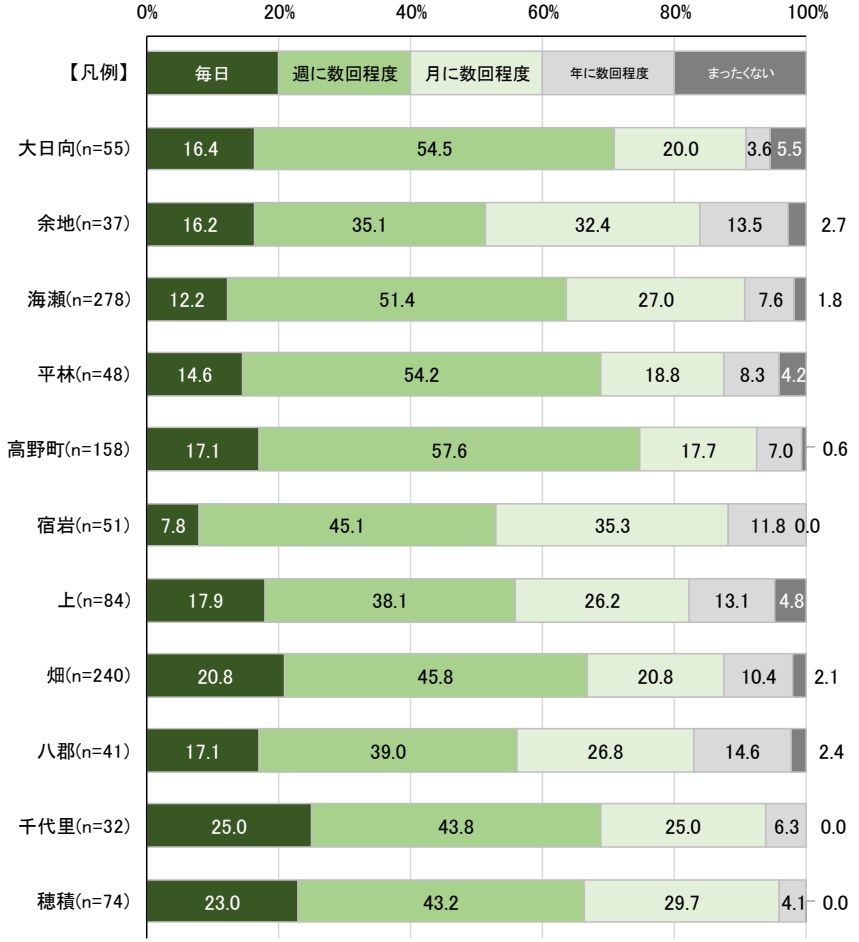


- 地区別にご近所づきあいの状況を見ると、「互いに相談し、生活面で協力しあう人がいる」の割合が最も高いのは大日向地区で36.4%である。
- 地区別にご近所の方とのあいさつの頻度を見ると、余地地区、宿岩地区は比較的あいさつの頻度が低い。

地区別　ご近所づきあいの状況



地区別　ご近所の方とのあいさつの頻度

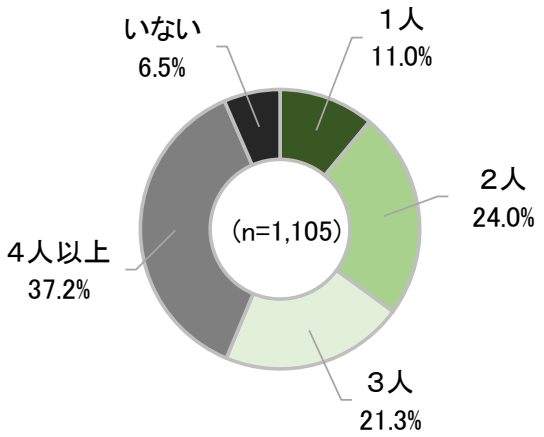


②日常的に相談できる人数/定期的に家事等を手伝いに来る親族の有無

- 日常的に気軽に困りごとを相談できる人数は、「いない」の割合は6.5%であり、約9割が相談できる人がいる。
- 家事や農作業を定期的に手伝いに来てくれる親族が「いる」と回答したのは37.9%である。手伝いに来てくれる親族の居住地は、63.5%が町内在住である。

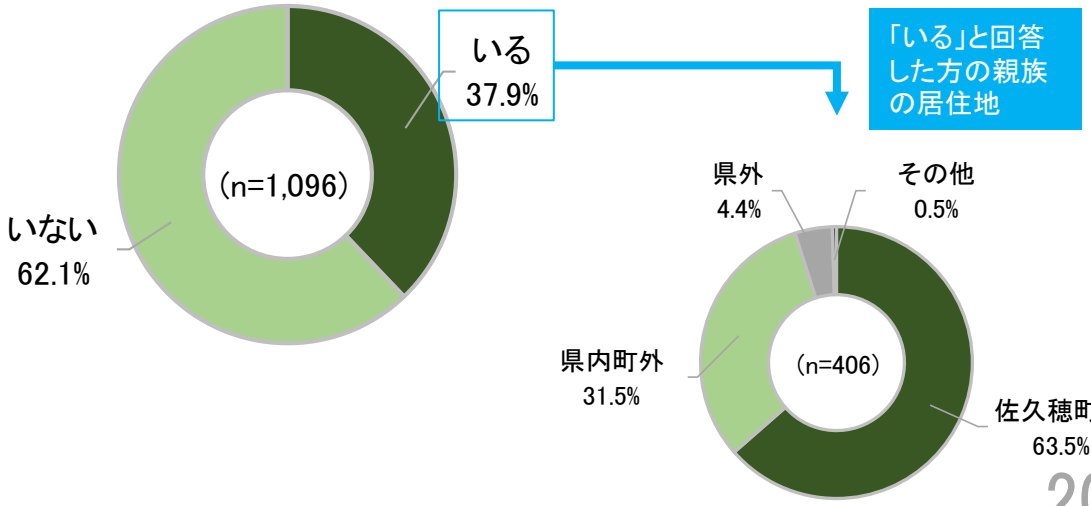
問20　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数

	度数（人）	割合（%）
1人	122	11.0
2人	265	24.0
3人	235	21.3
4人以上	411	37.2
いない	72	6.5
合計	1,105	100.0



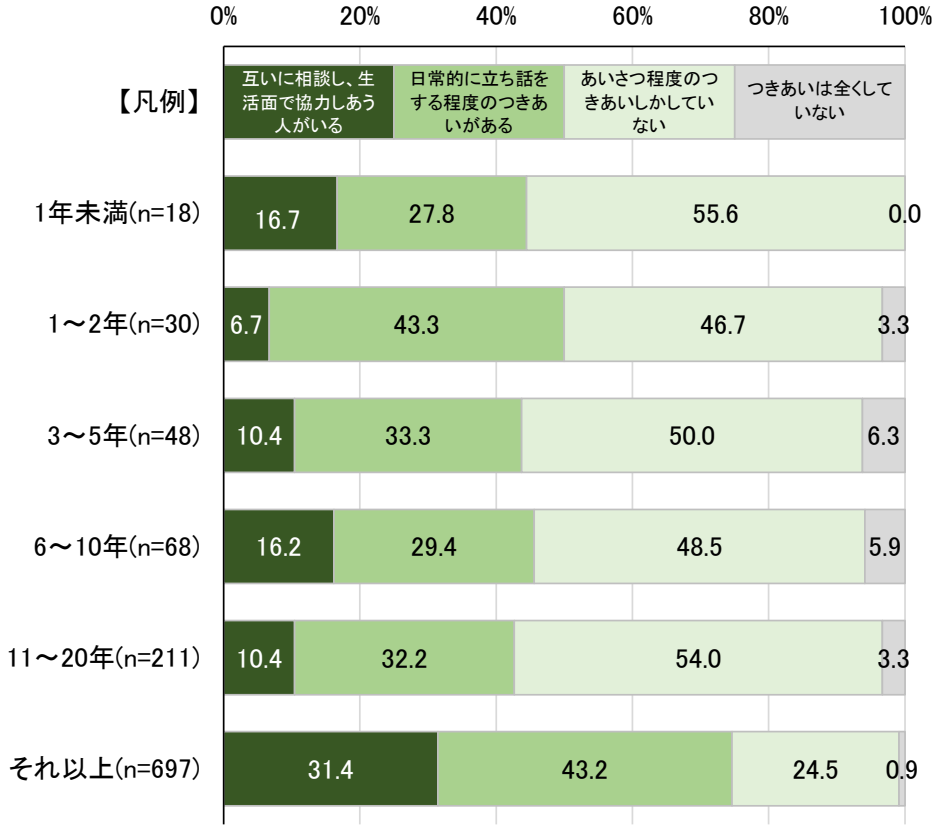
問21　家事や農作業を定期的に手伝いに来てくれる親族の有無

	度数（人）	割合（%）
いる	415	37.9
いない	681	62.1
合計	1,096	100.0

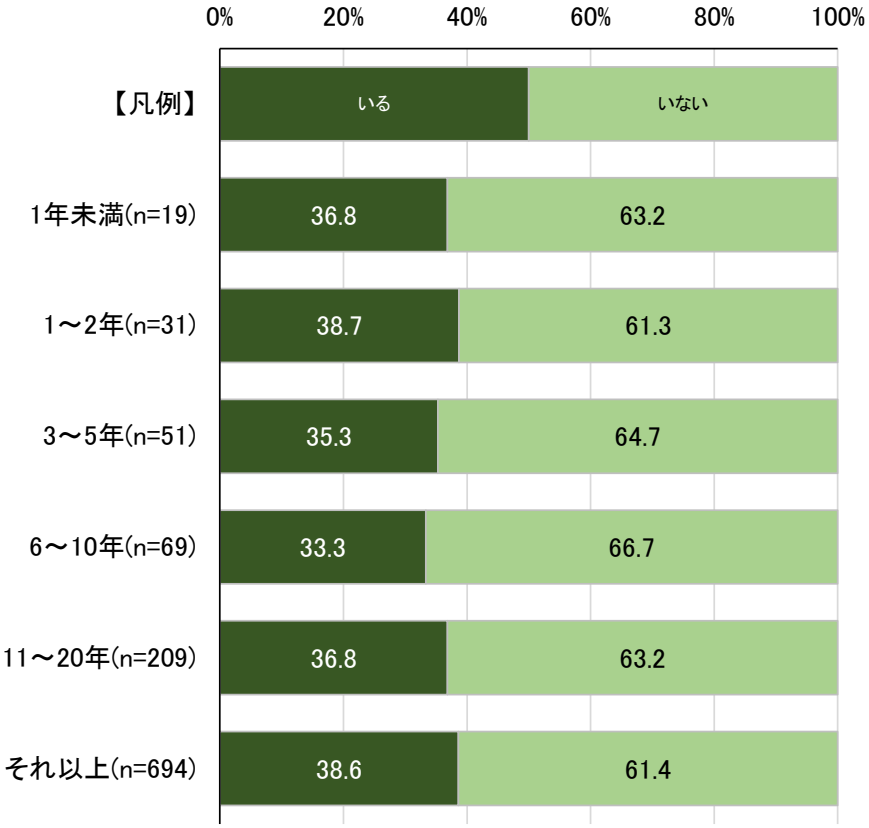


- 居住年数別に、ご近所づきあいの状況を見ると、居住年数が20年以上と回答した人は、「互いに相談し、生活面で協力しある人がいる」の割合が31.4%となっており、突出して高くなっている。
- 家事や農作業を定期的に手伝いに来てくれる親族の有無は、居住年数による大きな差は見られなかった。

居住年数別　ご近所づきあいの状況



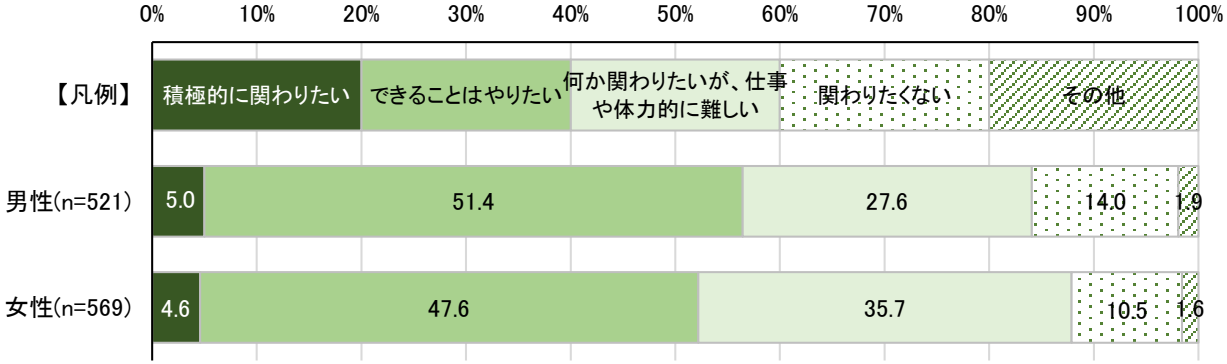
居住年数別　家事や農作業を定期的に手伝いに来てくれる親族の有無



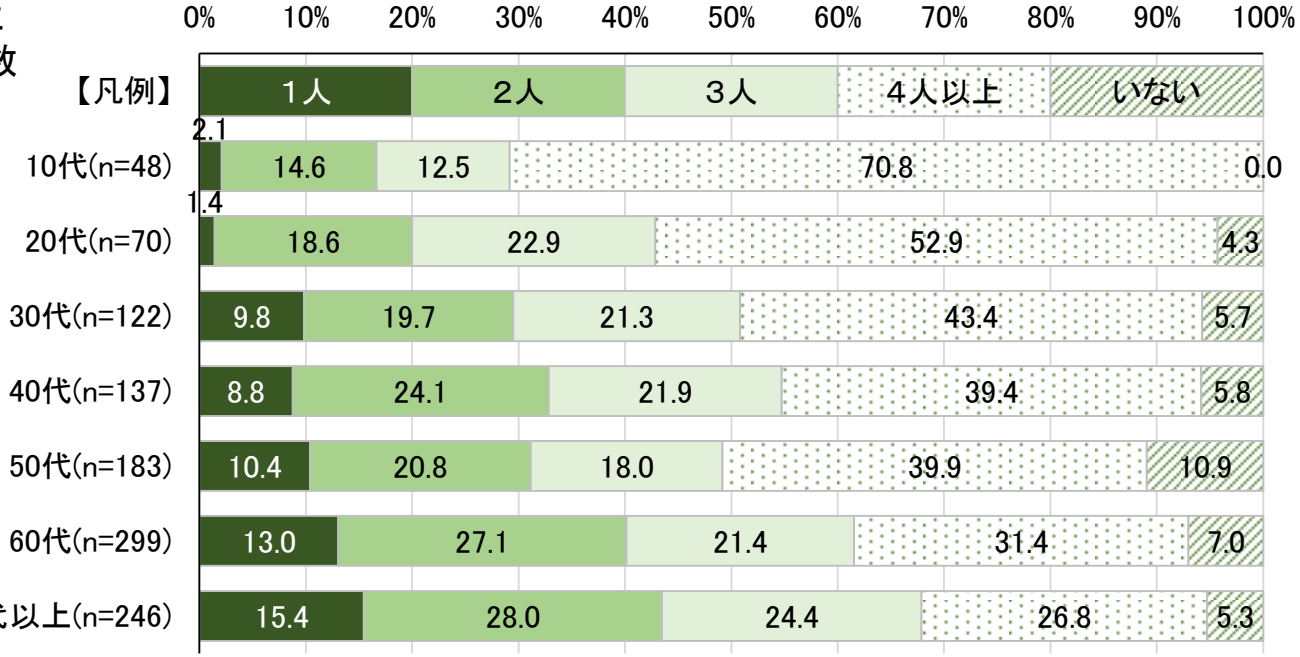
③日常的に相談できる人数　クロス集計

- 日常的に気軽に困りごとを相談できる人数について、男女別に見ると、男性の方が「いない」の割合がやや高い。年代別に見ると、50代で「いない」の割合が高い。相談できる人数は年代が上がるにつれて少なくなる傾向にある。

男女別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数

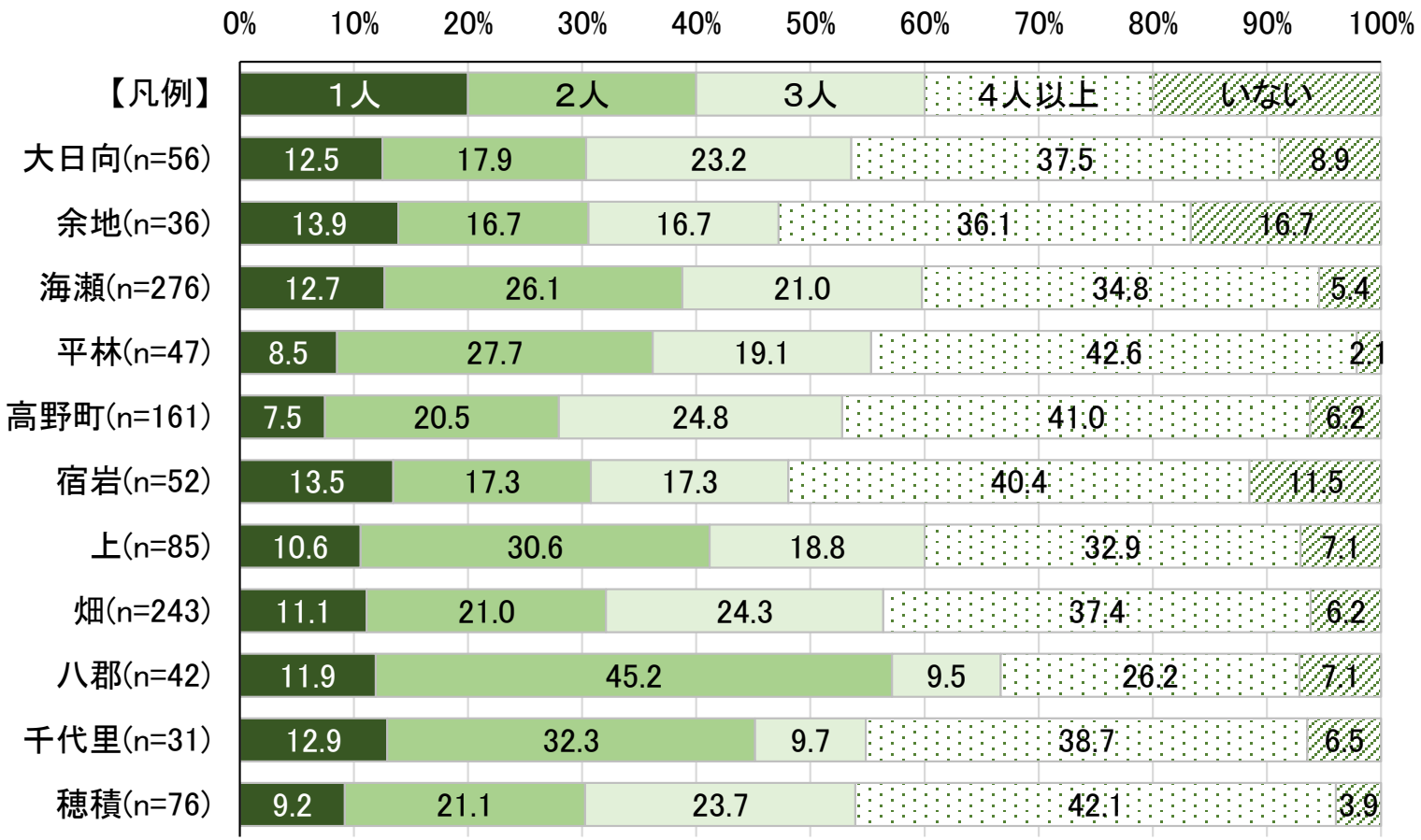


年代別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数



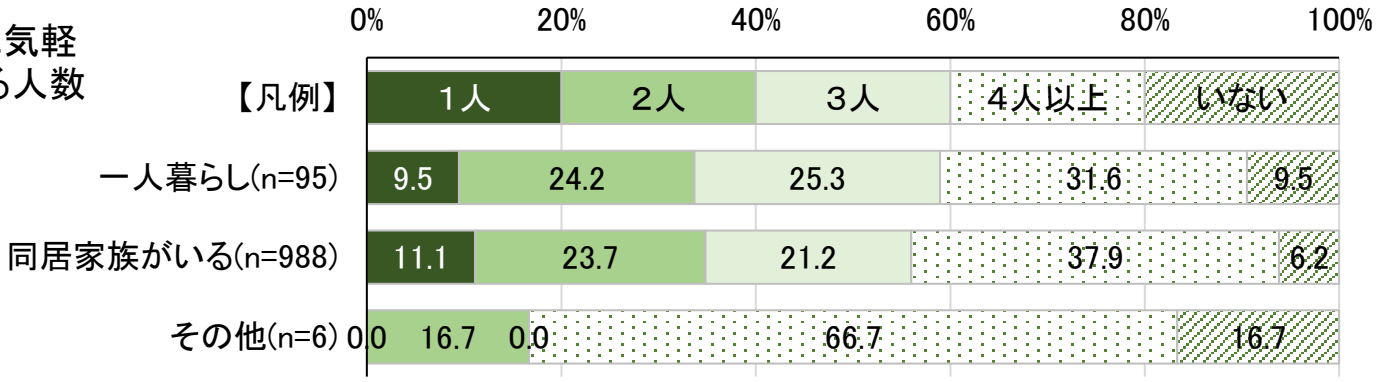
- 地区別に、日常的に相談できる人数を見ると、余地地区、宿岩地区で「いない」の割合が1割を超えている。「4人以上」の割合を見ると、八郡地区で最も低く、ついで上地区、海瀬地区で低い。

地区別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数

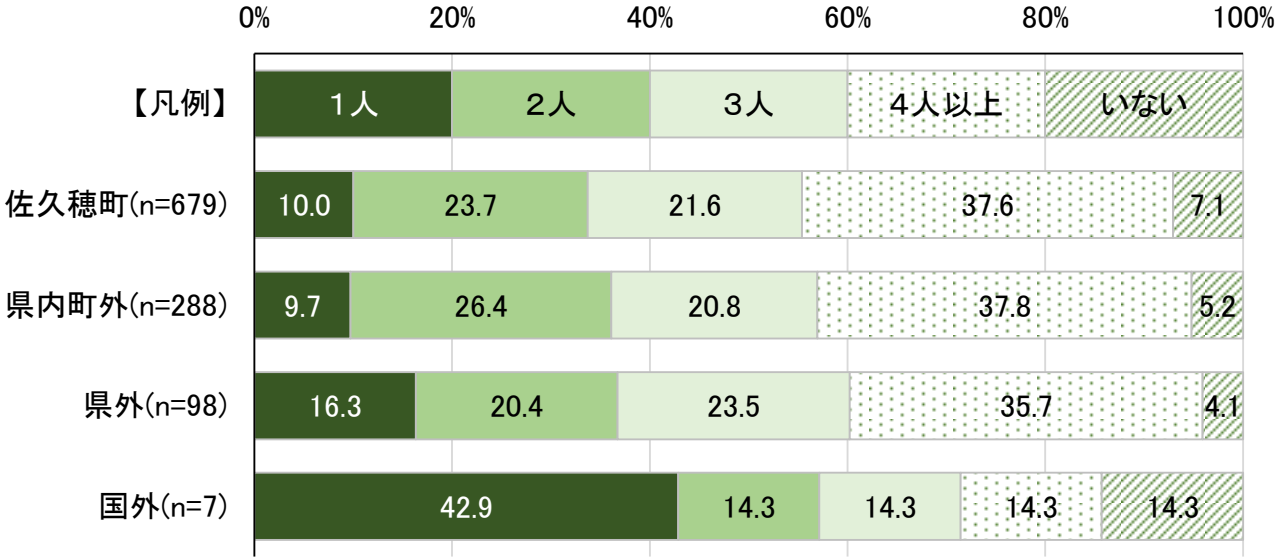


- 同居人数別に、日常的に相談できる人数を見ると、「4人以上」の割合は「一人暮らし」の方が、「同居家族がいる」と比較して低くなっている。出身地別に見ると、「県外」出身者で「1人」の割合が高い。

同居人数別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数

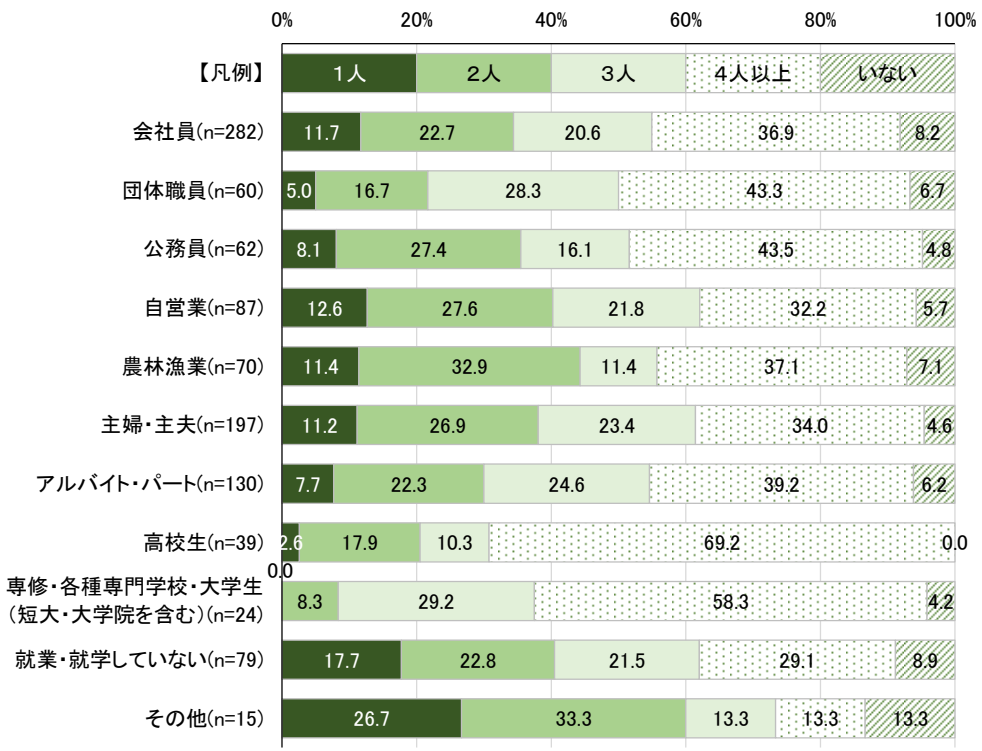


出身地別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数

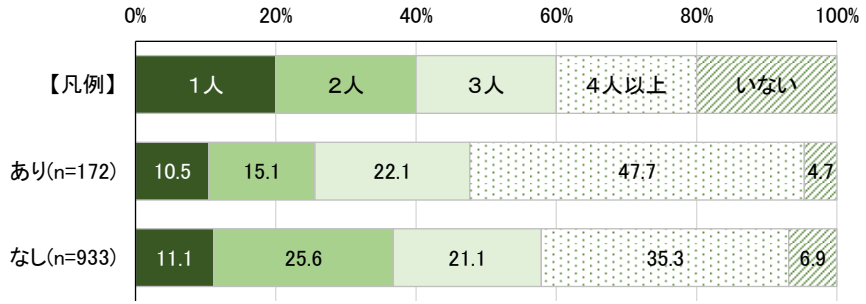


- 職業別に、日常的に相談できる人数を見ると、「4人以上」の割合は「高校生」「専修・各種専門学校・大学生」が特に高い。一方で、「就業・就職していない」が最も低く、ついで「自営業」「主婦・主夫」が低くなっている。
- 高校生以下の子どもの有無別に見ると、高校生以下の子どもがいる人の方が、日常的に相談できる人数が多くなっている。

職業別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数



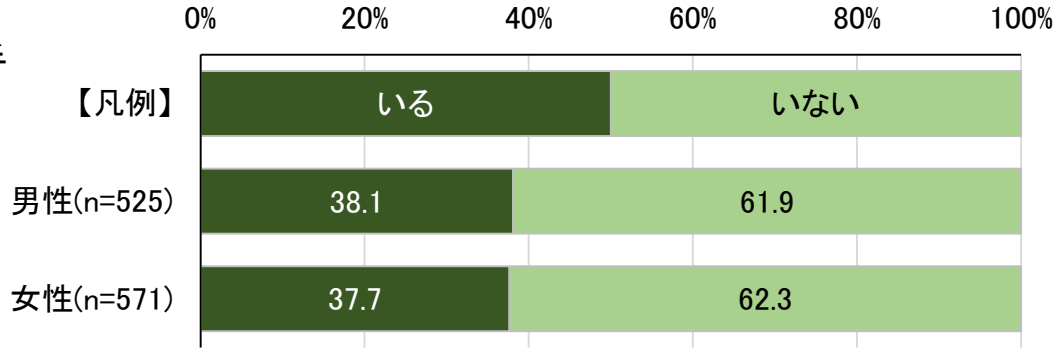
高校生以下の子供の有無別　日常的に気軽に困りごとを相談できる人数



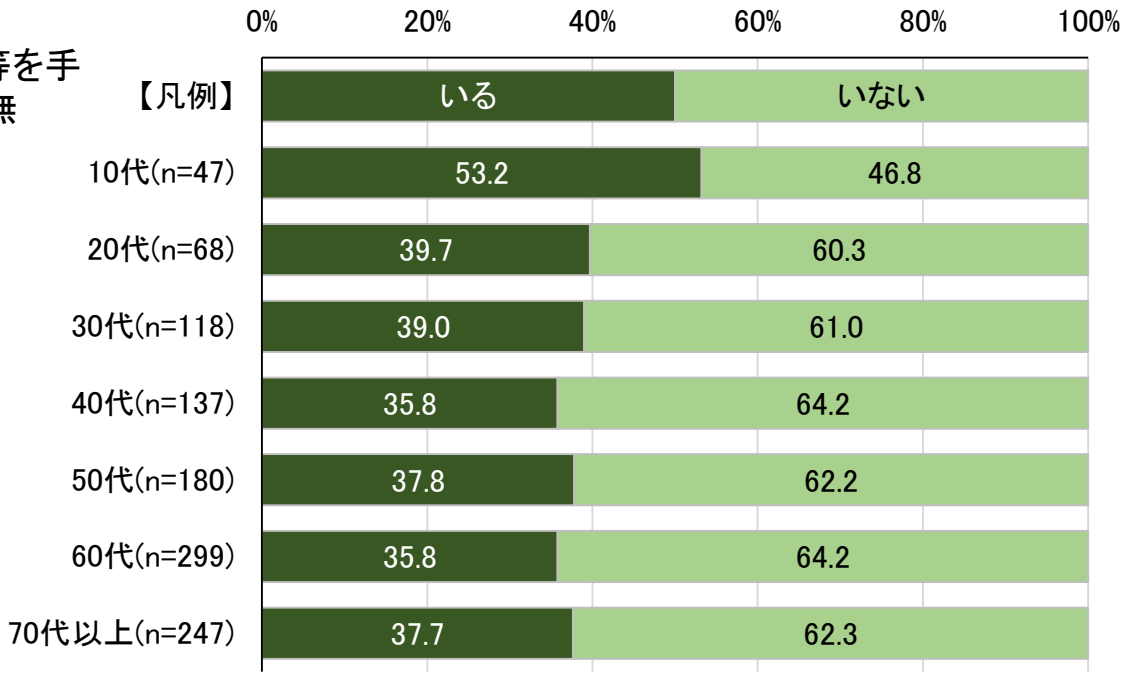
④定期的に家事等を手伝いに来る親族の有無　クロス集計

- 男女別に、定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無を見ると、差は見られなかった。
- 年代別に見ると、「いる」と回答した人の割合は、10代で53.2%と高いが、それ以外の年代では40%以下となっている。

男女別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無

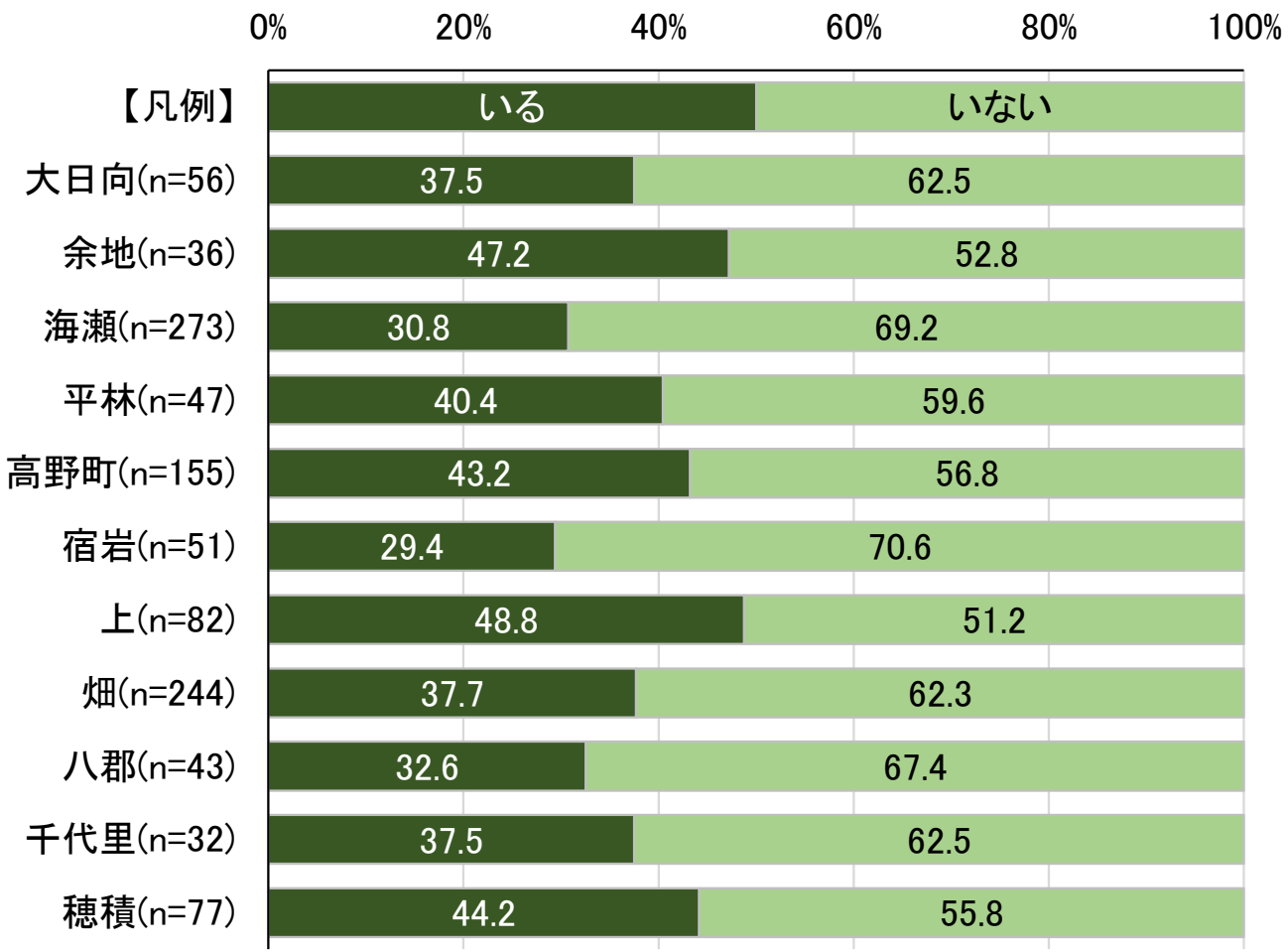


年代別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無



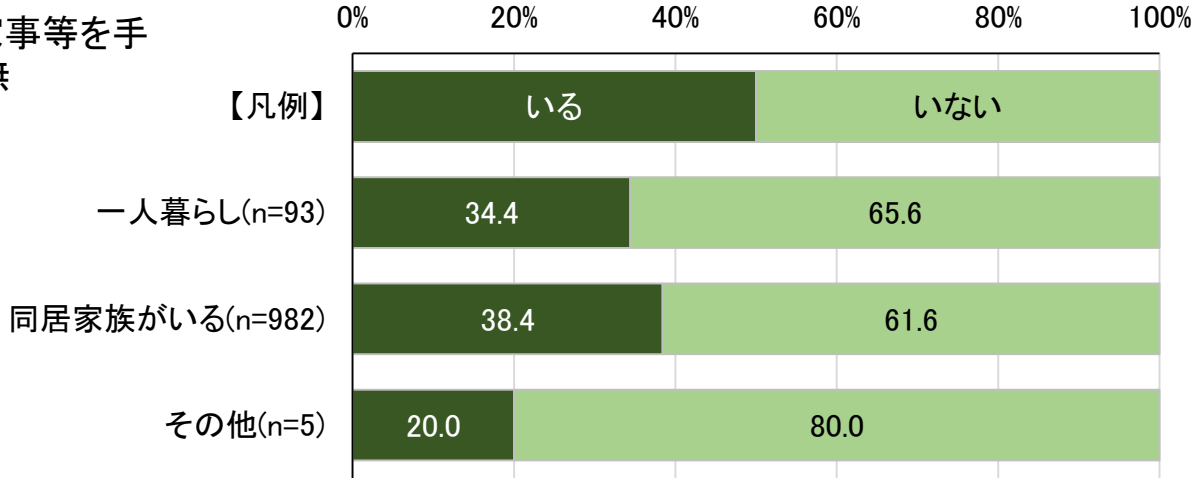
- 地区別に、定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無を見ると、「いない」と回答した人の割合は、宿岩地区が70.6%で最も高く、ついで海瀬地区、八郡地区が高くなっている。

地区別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無

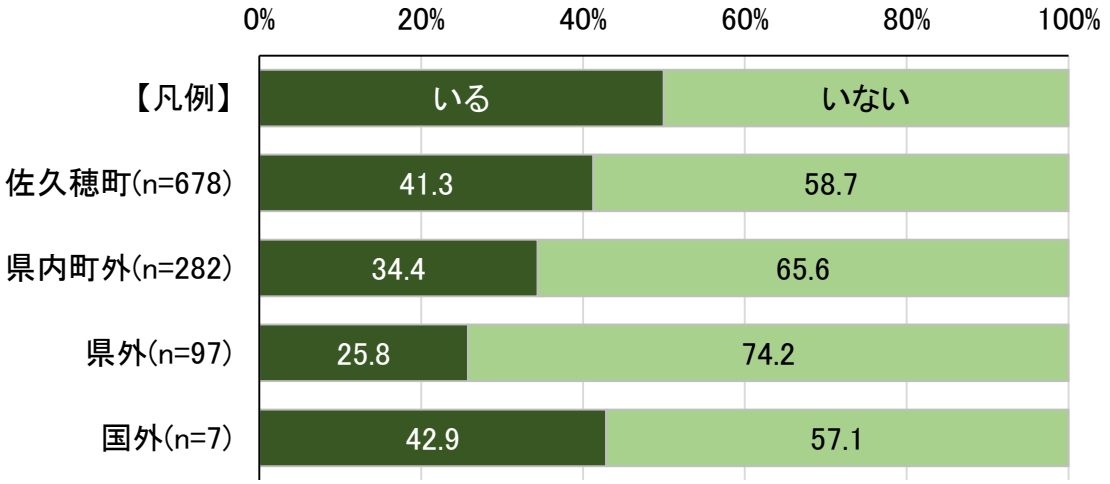


- 同居状況別に、定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無を見ると、「いない」と回答した人の割合は、「一人暮らし」の人の方がやや高くなっている。
- 出身地別に見ると、「いない」と回答した人の割合は「県外」出身者が最も高く、ついで「県内町外」出身者が高い。町外出身者は定期的に家事等を頼れる親族等がいない傾向にある。

同居状況別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無

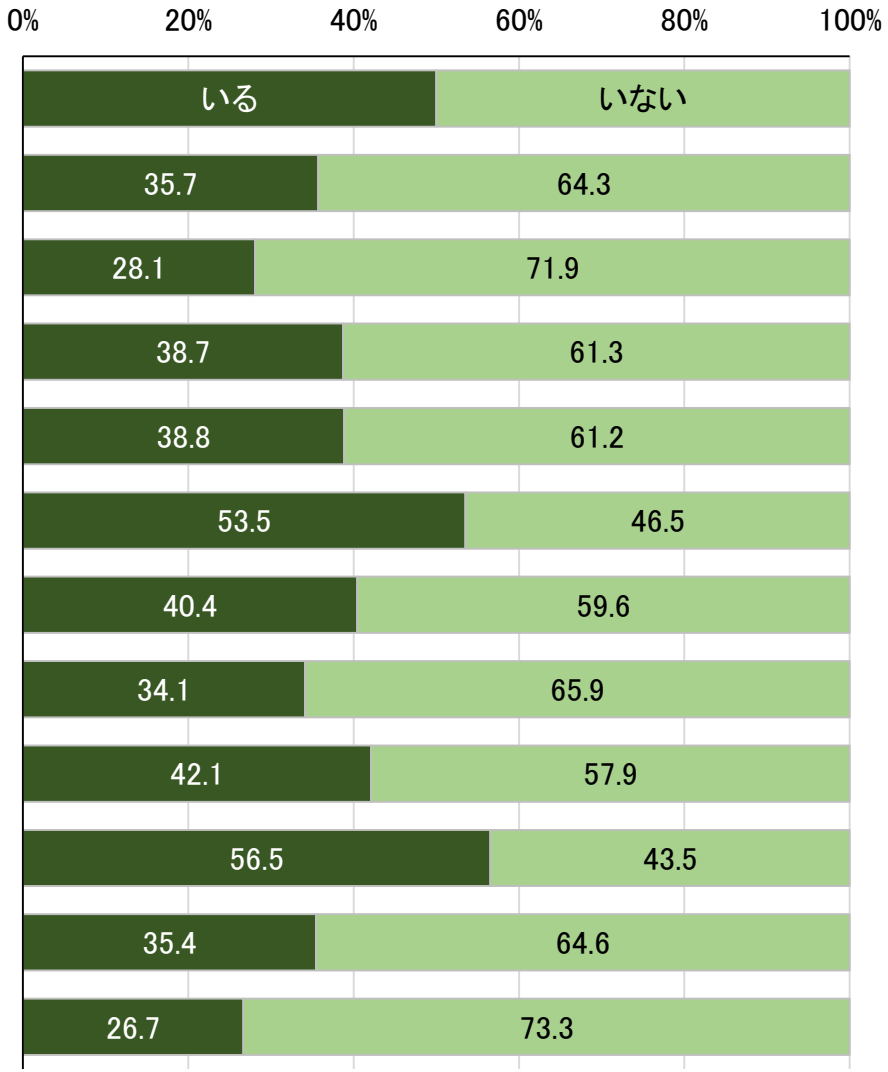


出身地別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無



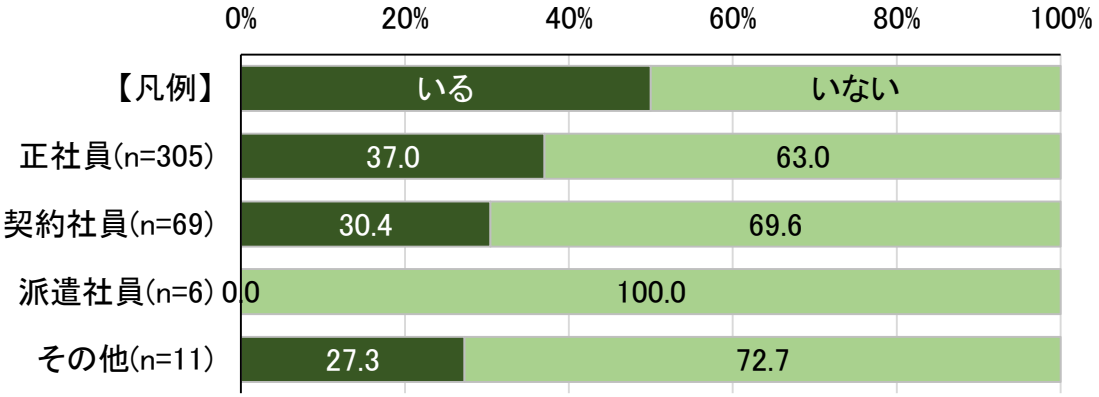
- 職業別に、定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無を見ると、「いる」と回答した人の割合は、「専修・各種専門学校・大学生」「農林漁業」で比較的高くなっている。

職業別　定期的に家事等を手伝いに来る親族の有無

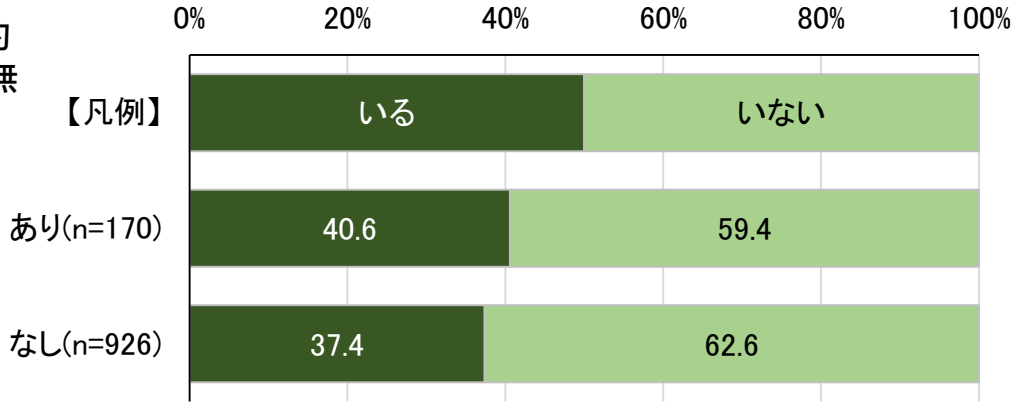


- 雇用形態別に、定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無を見ると、「いない」と回答した人の割合は、「正社員」と比較して、「派遣社員」「契約社員」の方が高くなっている。
- 高校生以下の子どもの有無別に見ると、子どもがいない人の方が、定期的に家事等を手伝いに来る親族等が「いない」とする人が多い。

雇用形態別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無



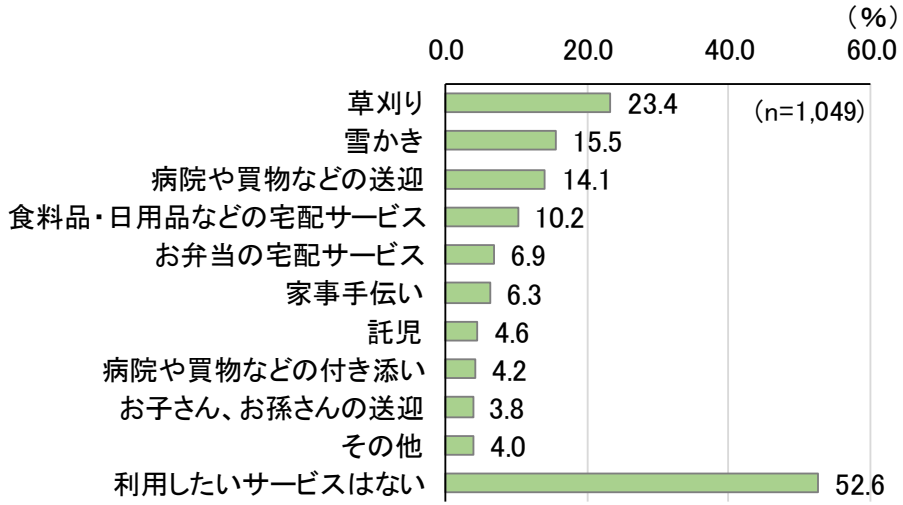
高校生以下の子どもの有無別　定期的に家事等を手伝いに来る親族等の有無



⑤利用したい生活支援サービス/担い手としての関わりの意向

- お金を支払ってでも利用したい暮らしを支えるサービスとしては、「草刈り」が23.4%で最も高くなっている。回答者のうち、52.6%は「利用したいサービスはない」と回答している。
- 暮らしを支えるサービスへの担い手としての関与意向としては、「積極的に関わりたい」は4.8%、「できることはやりたい」は49.4%であり、約半数に関与意向が見られる。

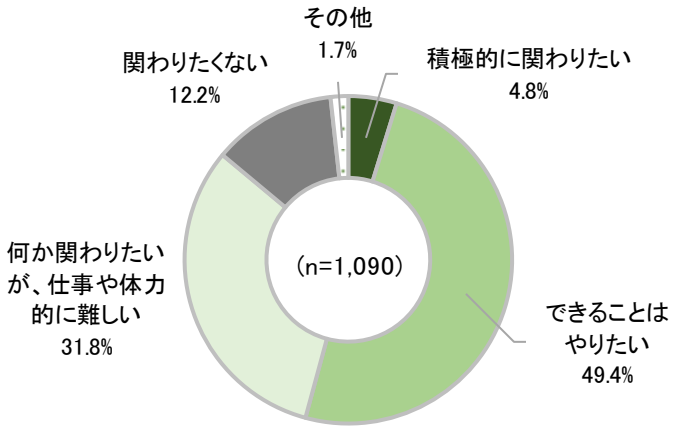
問22　お金を支払ってでも利用したい暮らしを支えるサービス（複数回答）



その他の内容

意見	回答数
高所・屋外作業	3
介護、見守り	2
空き家の管理	1
水路管理	1
農作業	1
不用品の始末	1
墓の管理	1
自分の仕事の代行	1

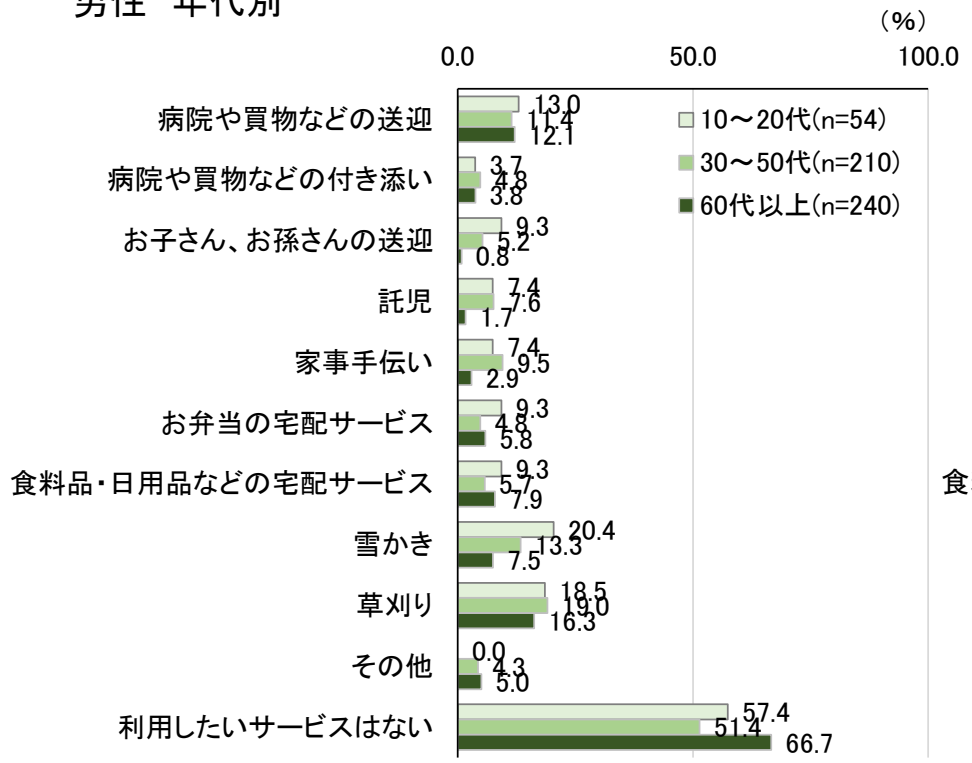
問23　問22のような暮らしを支えるサービスに担い手として関わりたいか



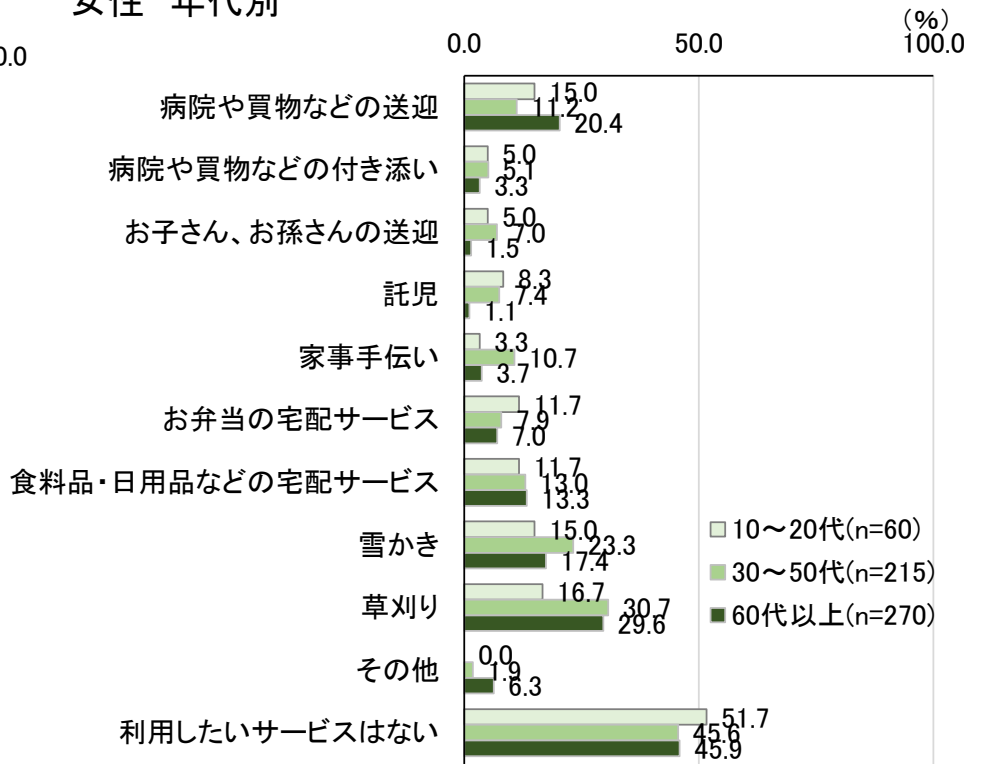
- 男女別・年代別に、お金を支払ってでも利用したい暮らしのサービスを見ると、男性はどの年代でも女性よりも「利用したいサービスはない」の割合が高くなっている。
- 女性の利用したいサービスを年代別に見ると、60代以上では「草刈り」が最も多く、ついで「病院や買物などの送迎」が多くなっている。

男女別・年代別　お金を支払ってでも利用したい暮らしを支えるサービス（複数回答）

男性　年代別

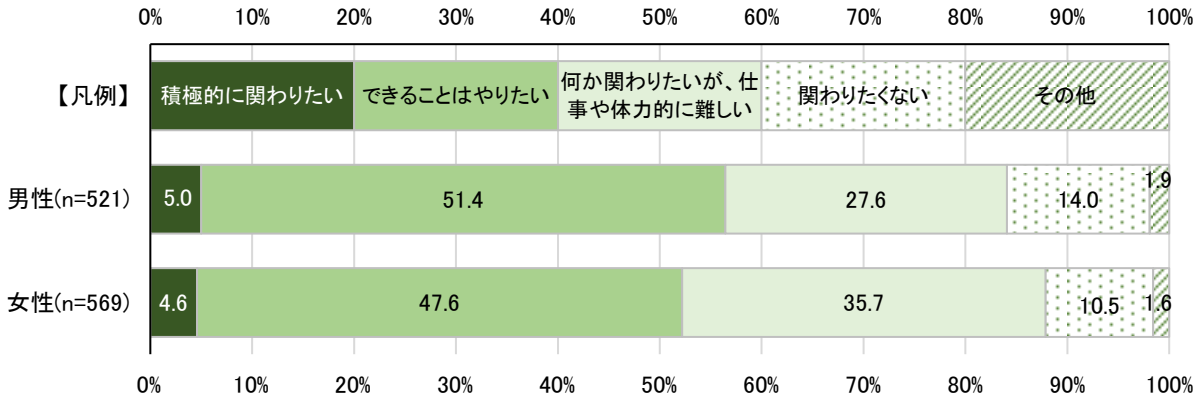


女性　年代別

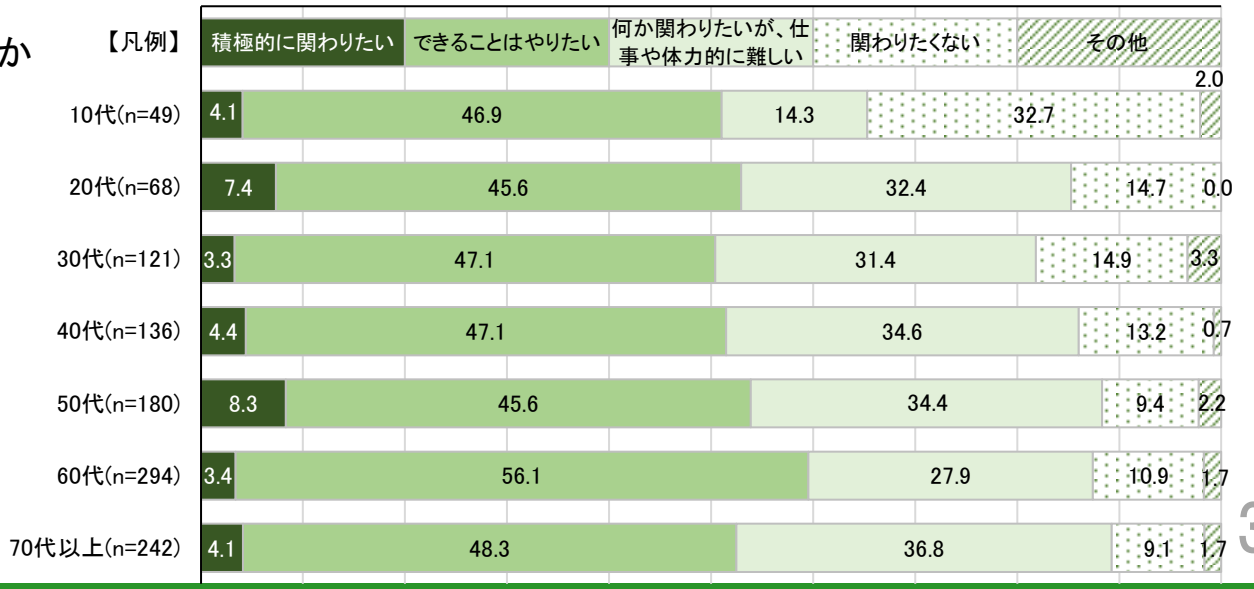


- 男女別に、暮らしを支えるサービスへの担い手としての関与意向を見ると、「何か関わりたいが、仕事や体力的に難しい」の割合は女性の方が高い。「積極的に関わりたい」「できることはやりたい」の割合は男性の方が高い。
- 年代別に見ると、「積極的に関わりたい」と「できることはやりたい」を合わせた割合は、60代が最も高くなっている。一方で、10代で「関わりたくない」の割合が突出して高くなっている。

男女別　担い手として関わりたいか



年代別　担い手として関わりたいか



（2） 暮らしの満足度・愛着・定住意向について

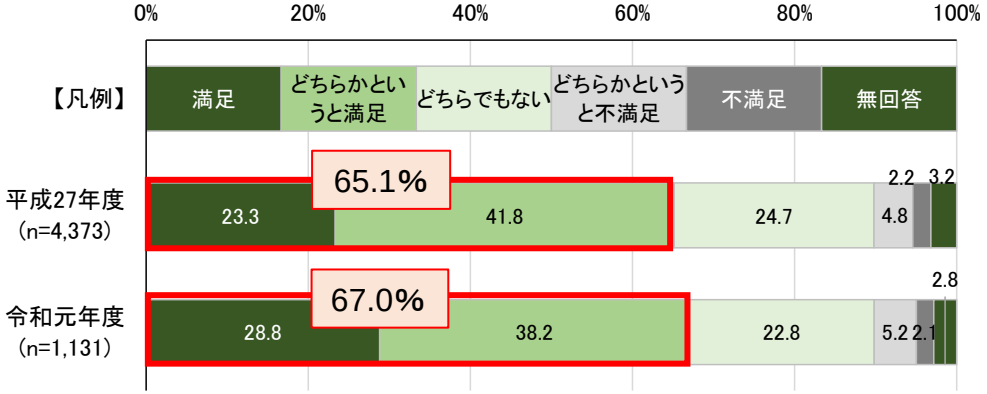
①地区での暮らしの満足度

数値目標　住民の居住地区満足度

- 居住地区での暮らしの満足度は、「満足」と「どちらかという満足」を合わせた割合は67.0%であり、第1期佐久穂町コミュニティ創生戦略策定時の65.1%から大きくは変化していない。
- 満足と回答した人は「利便性がよい」「人間関係がよい」という理由が多く挙がっている。一方で、不満と回答した人は「不便」「地区活動に不満」を理由に挙げた人が多い。

指標	指標種類	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
住民の居住地区満足度	数値目標	①集落別：次ページ参照 ②全体平均：65.1%	①過半数の集落で増加 ②基準値以上	①次ページ参照 ②67.0%	①達成 ②達成

問32　現在住んでいる地区での暮らしの満足度



	平成27年度		令和元年度	
	度数（人）	割合(%)	度数（人）	割合(%)
満足	1,020	23.3	326	28.8
どちらかというと満足	1,829	41.8	432	38.2
どちらでもない	1,078	24.7	258	22.8
どちらかというと不満足	210	4.8	59	5.2
不満足	97	2.2	24	2.1
無回答	139	3.2	32	2.8
合計	4,373	100.0	1,131	100.0

令和元年度
【自由記述】 満足度の回答理由

▼満足

理由	回答数
利便性がよい	92
人間関係がよい	68
地元だから	64
自然環境がよい	38
現状に満足	35
のどか	24
災害が少ない	6
その他	11

▼不満

理由	回答数
不便	26
地区活動に不満	13
少子高齢化	9
行政への不満	8
その他	14

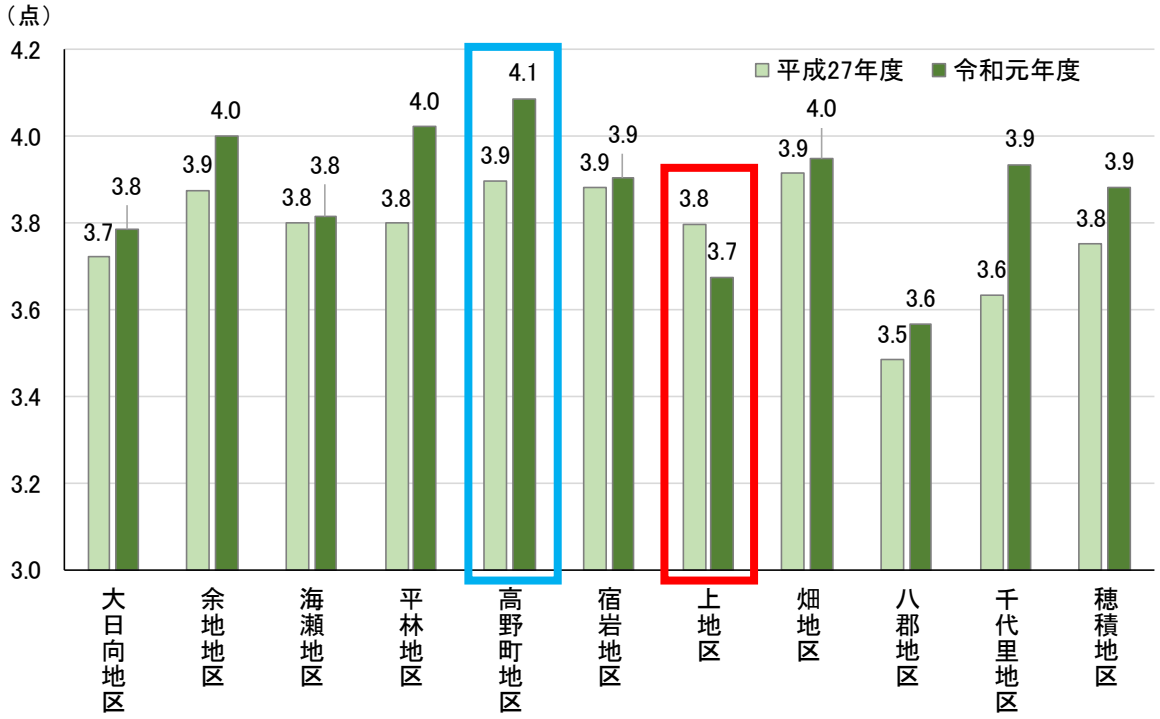
▼どちらでもない

理由	回答数
不便	18
地区活動に不満	9
利便性がよい	9
少子高齢化	5
人間関係がよい	5
自然環境がよい	3
現状に満足	3
地元だから	2
のどか	2
行政への不満	1
災害が少ない	1
その他	31

- 地区での暮らしの満足度について、地区別に、平成27年度と比較すると、令和元年度に満足度が上がったのは11地区中10地区であり、目標を達成している。
- 唯一、上地区は満足度が低下している。

過年度比較　現在住んでいる地区での暮らしの満足度（地区別に得点化）

増加した地区数	10地区
減少した地区数	1地区



回答者数　（人）

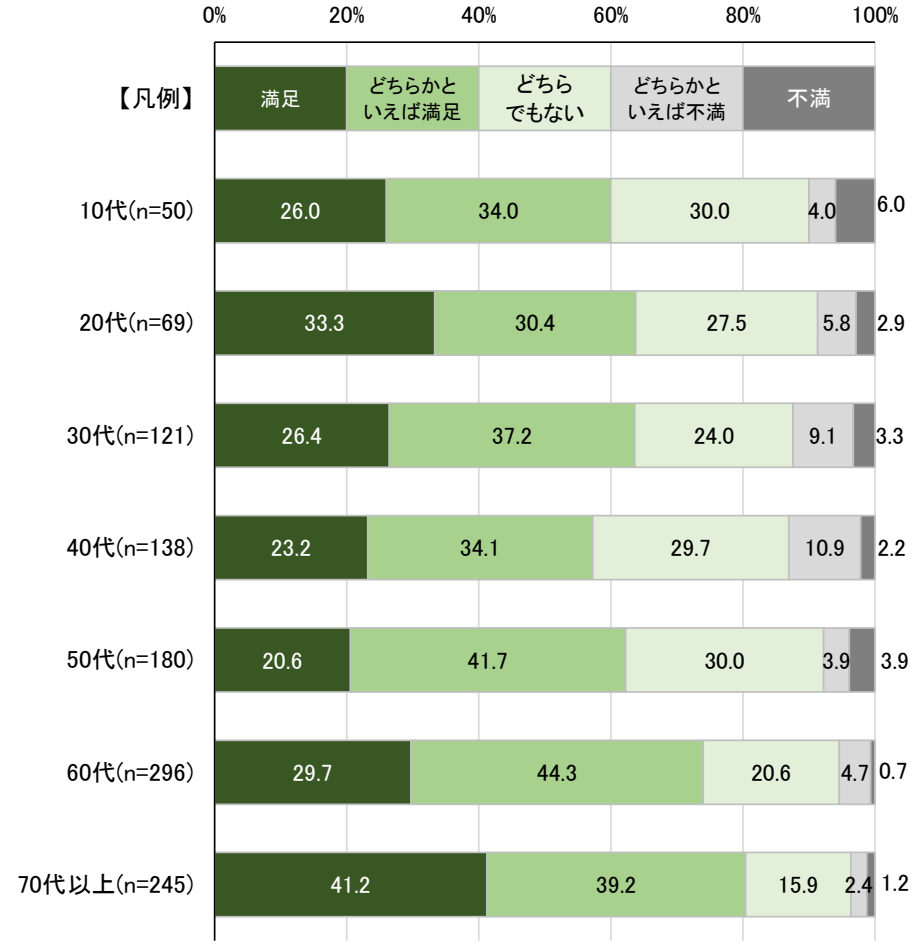
地区	平成27年度	令和元年度
大日向	216	51
余地	107	33
海瀬	942	260
平林	176	44
高野町	529	165
宿岩	96	27
上	273	80
畑	819	224
八郡	159	42
千代里	96	26
穂積	302	72
合計	3,715	1,024

以下のように選択肢ごとに得点を設定し、平均点を算出しています。

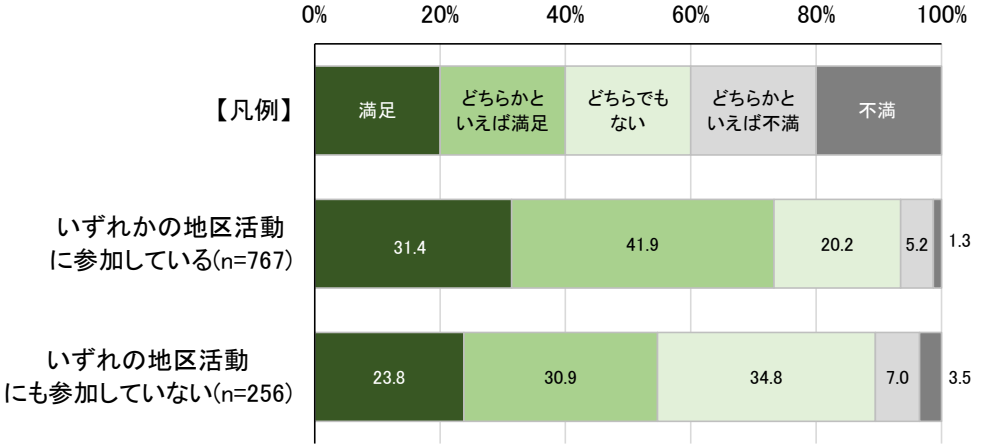
「満足」:5点
「どちらかといえば満足」:4点
「どちらでもない」:3点
「どちらかといえば不満」:2点
「不満」:1点

- 年代別に、居住地区への満足度を見ると、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた割合は10代と40代で他の年代と比べて低くなっている。
- 地区活動の参加状況別では、「いずれかの地区活動に参加している」人の方が満足度が高くなっている。

年代別　居住地区への満足度



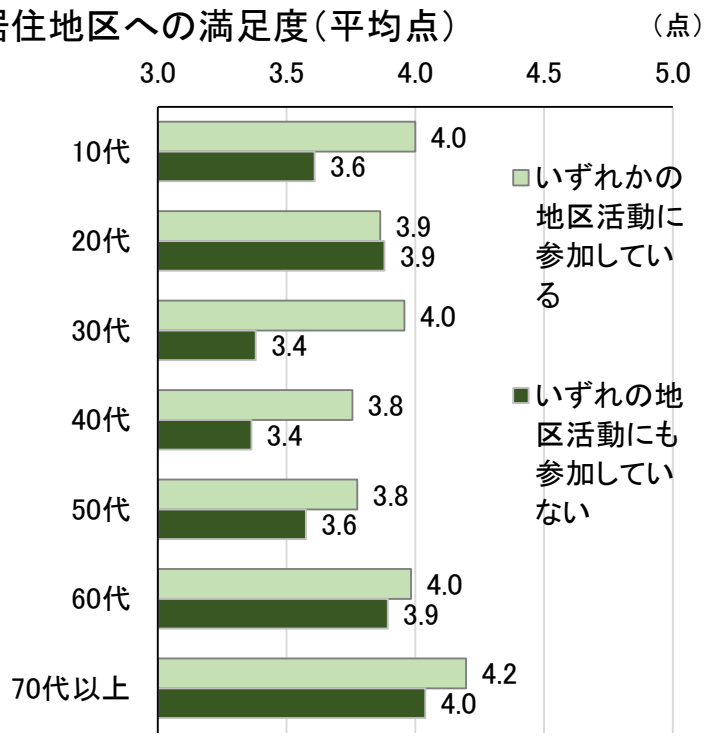
地区活動の参加状況別　居住地区への満足度



※地区活動のいずれかに参加しているか、どうかで分類している。
●地区活動：常会・区活動、常会役員、分館活動、青年部、女性部、高齢者クラブ、消防団、児童会・育成会、その他の地区活動

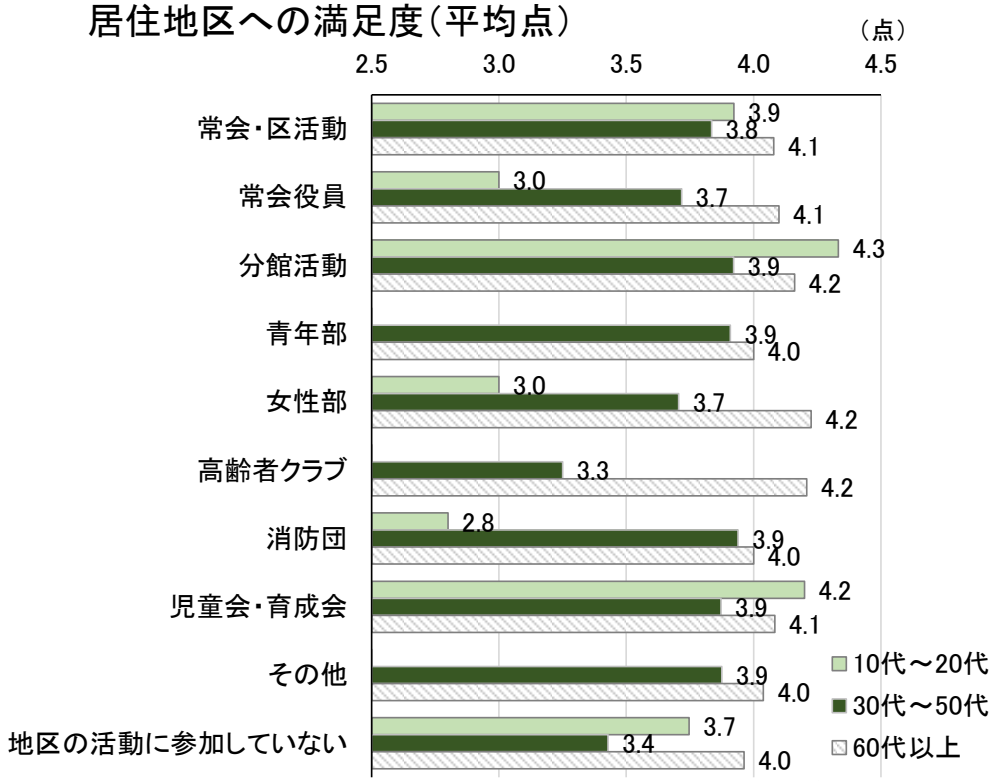
- 年代別・地区活動への参加状況別に、居住地区への満足度を見ると、多くの年代で「いずれかの地区活動に参加している」と回答した人の方が参加していない人よりも満足度が高くなっている。しかし、40代、50代では地区活動に参加していても他の年代より満足度が低くなっている。
- 年代別・参加している地区活動別に居住地区への満足度を見ると、10代～20代では「分館活動」参加者の満足度が高い。30代～50代では「女性部」「高齢者クラブ」「常会役員」などの活動参加者の満足度がやや低い。

年代別・地区活動への参加有無別
居住地区への満足度（平均点）



※地区活動のいずれかに参加しているか、どうかで分類している。
●地区活動
常会・区活動、常会役員、分館活動、青年部、女性部、高齢者クラブ、消防団、児童会・育成会、その他の地区活動

年代別・参加している地区活動別
居住地区への満足度（平均点）



※10代～20代は地区活動に参加している人が少なく、サンプル数が少ない

②町への愛着度

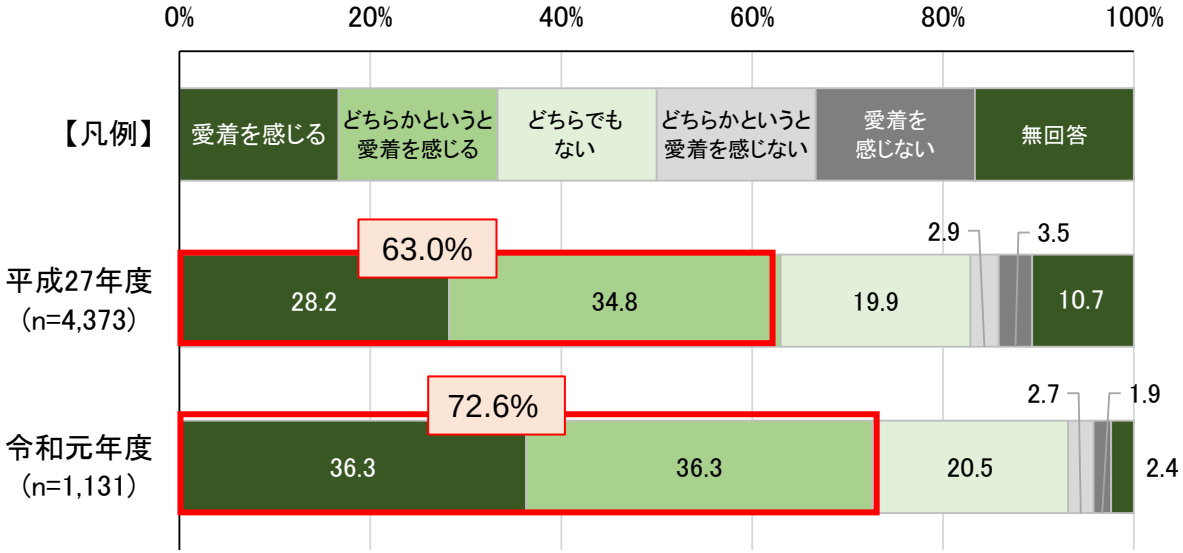
KPI

町への愛着度

- 町への愛着を感じると回答している人の割合は前回の調査から9.6ポイント増加している。

指標	施策	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
町への愛着度	Ⅰ-4 KPI	63.0%	基準値以上	72.6%	達成

問33　佐久穂町への愛着度

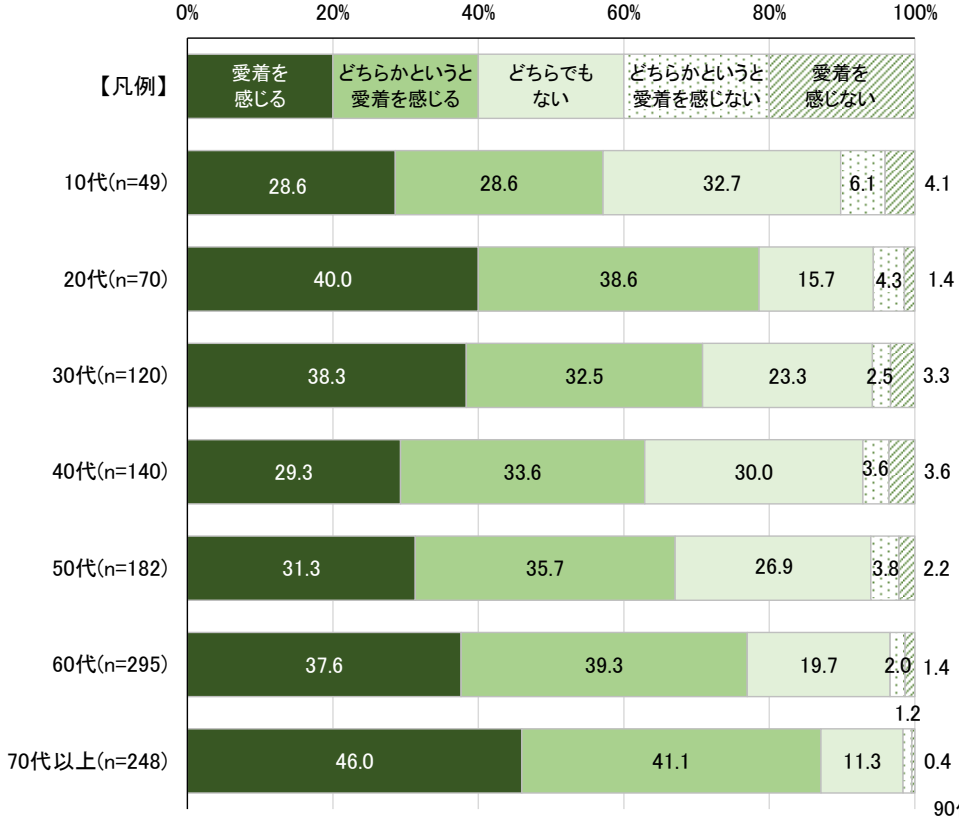


	平成27年度		令和元年度	
	度数（人）	割合(%)	度数（人）	割合(%)
愛着を感じる	1,235	28.2	411	36.3
どちらかというと愛着を感じる	1,520	34.8	410	36.3
どちらでもない	869	19.9	232	20.5
どちらかというと愛着を感じない	129	2.9	30	2.7
愛着を感じない	154	3.5	21	1.9
無回答	466	10.7	27	2.4
合計	4,373	100.0	1,131	100.0

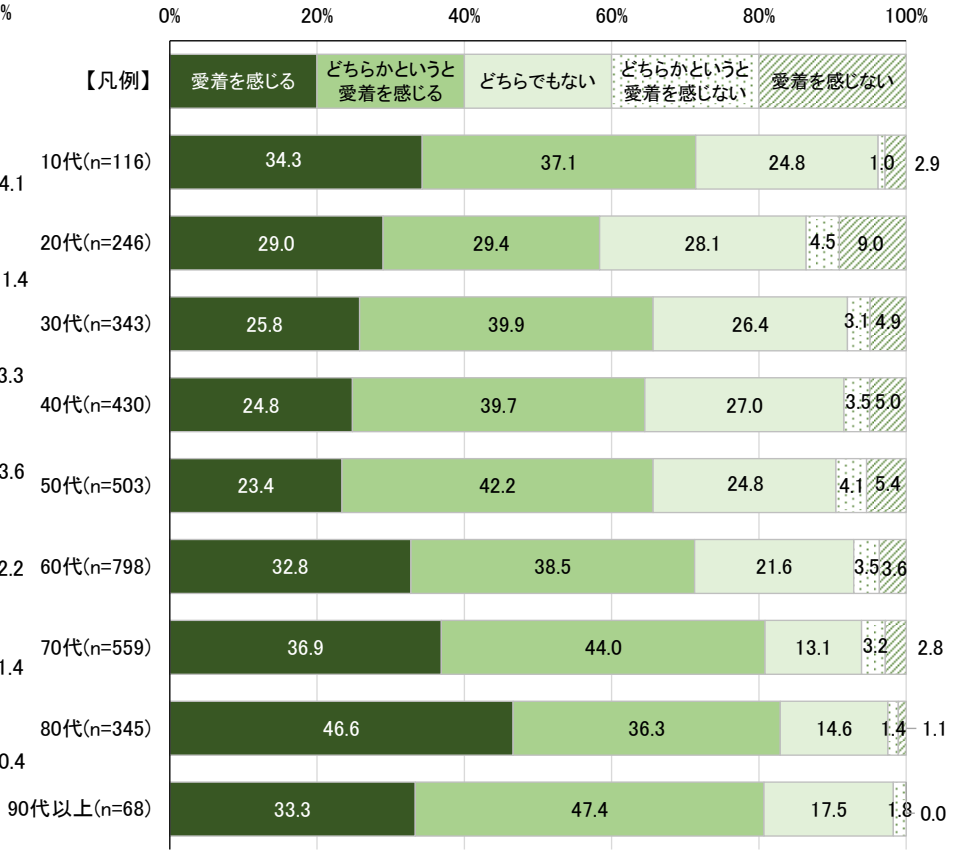
- 年代別に佐久穂町への愛着度を見ると、「愛着を感じる」と「どちらかというと愛着を感じる」を合わせた割合は、70代以上が最も高く、ついで20代、60代が高い。一方で、10代および40代で低くなっている。
- 平成27年度の結果と比較すると、20代、30代で「愛着を感じる」割合が上昇している。

年代別　佐久穂町への愛着度

令和元年度



平成27年度

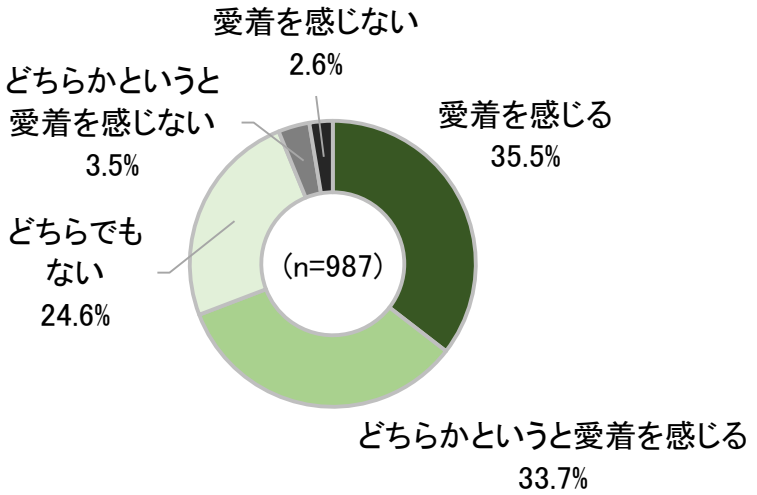


③居住地区への愛着度／町外の友人におすすめしたいもの

- 居住地区への愛着は、「愛着を感じている」が35.5%、「どちらかというと愛着を感じる」が33.7%であり、合わせて69.2%である。町に愛着を感じていると回答した割合（72.5%）と同水準である。

問33　居住地区への愛着
※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
愛着を感じる	350	35.5
どちらかというと愛着を感じる	333	33.7
どちらでもない	243	24.6
どちらかというと愛着を感じない	35	3.5
愛着を感じない	26	2.6
合計	987	100.0

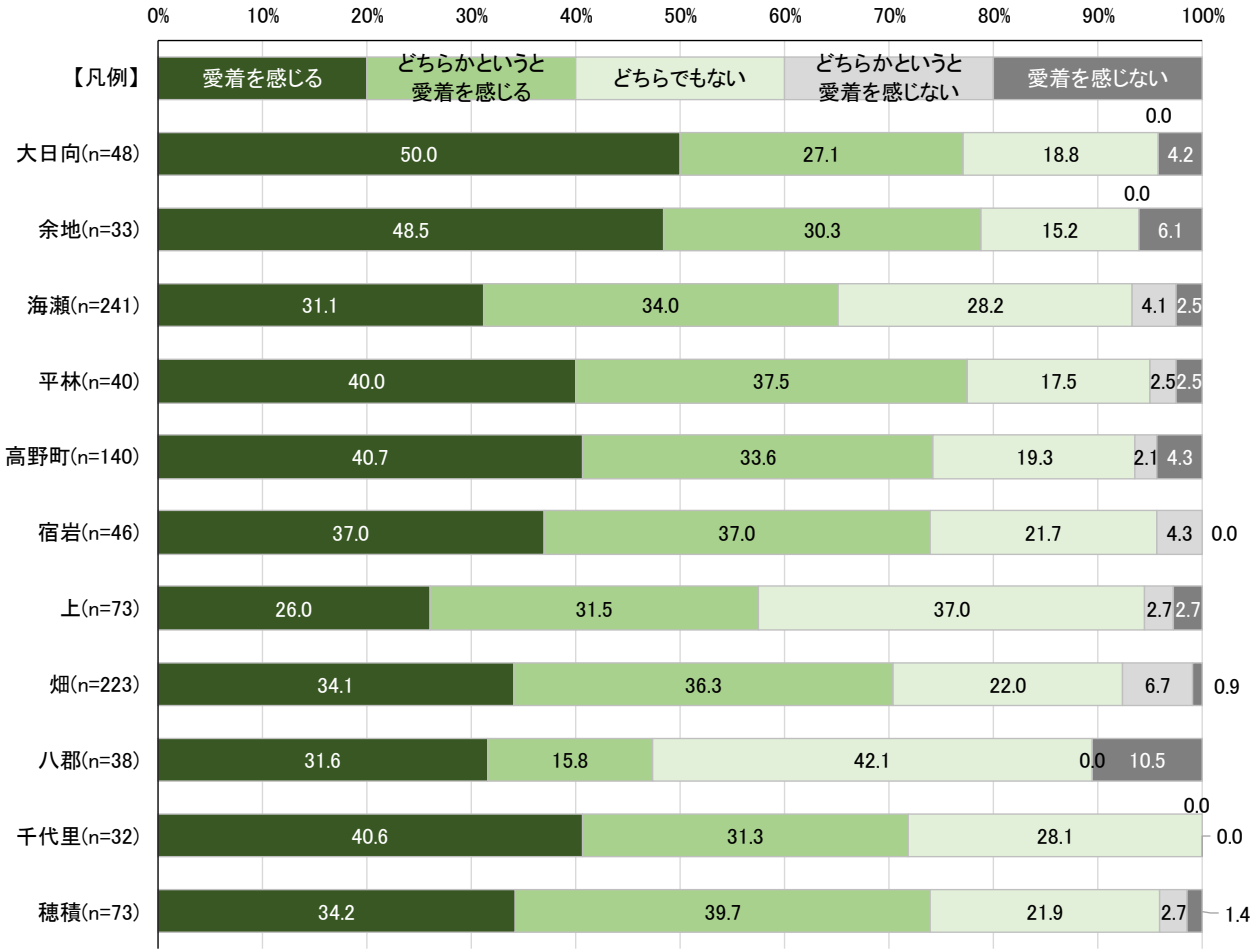


問34　佐久穂町で町外の友人におすすめしたいものや場所

お勧めしたいもの	回答数
自然環境	328
食べ物	155
八千穂高原	151
文化施設・文化財	67
総合運動公園	56
商業施設	35
子育て環境	28
交通アクセス	15
行政	11
人間関係	11
災害の少なさ	6
その他	23
なし	67

- 地区別に居住地区への愛着を見ると、「愛着を感じる」と「どちらかというと愛着を感じる」を合わせた割合は、余地地区で最も高く、ついで平林地区、大日向地区が高い。
- 一方、八郡地区では47.4%に留まっており、他の地区と比較して居住地区への愛着が低くなっている。

地区別　居住地区への愛着



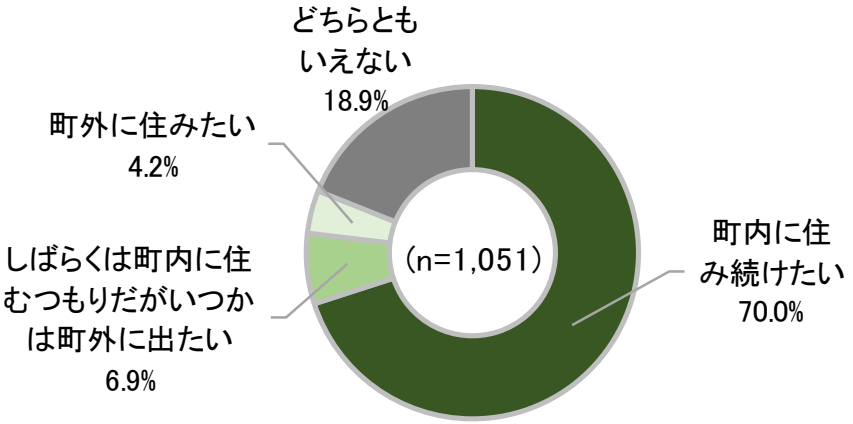
④佐久穂町への定住意向/Uターン意向/Uターンの時期

- 佐久穂町への定住意向を見ると、「町内に住み続けたい」という回答は70.0%となっている。
- 「しばらく町内に住み続けるつもりだがいつかは町外に出たい」「町外に住みたい」と回答した人（11.1%）のうち、「いずれ戻ってきたい」と回答した人は19.4%である。戻ってきたいタイミングは、「退職後・老後」が最も多い。

問35-1　佐久町への定住意向

※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
町内に住み続けたい	736	70.0
しばらくは町内に住むつもりだがいつかは町外に出たい	72	6.9
町外に住みたい	44	4.2
どちらともいえない	199	18.9
合計	1,051	100.0



問35-2　将来のUターン希望

※問35-1で「いつかは町外に出たい」「町外に住みたい」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
いずれ戻ってきたい	20	19.4
戻ってきたくない	36	35.0
わからない	47	45.6
合計	103	100.0

問35-3　Uターンしたいタイミング

※問35-2で「いずれ戻ってきたい」と回答した人のみ

	度数（人）
就職	2
結婚	1
子どもの誕生	2
入学・卒業	1
転職・再就職	2
親の介護	2
退職後・老後	6
その他	3
合計	19

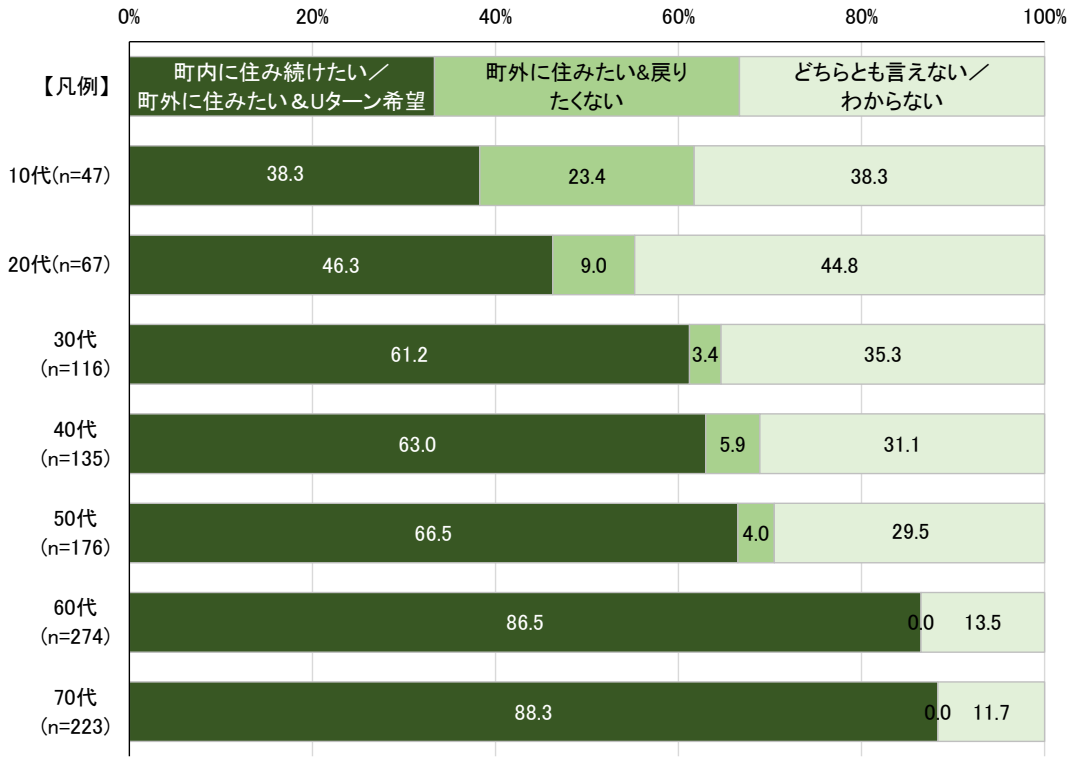
- 年代別に「継続居住＋Uターン意向」を見ると、年代が高くなるほど、佐久穂町で住みたい意向が高まる傾向にある。
- 10代、20代の「継続居住＋Uターン意向」は50%を下回り、他の年代より低い。

年代別　定住意向およびUターン意向

「町外に住み続けたい／町外に住みたい&Uターン希望」の該当者
- 問35-1　で「町内に住み続けたい」
- 問35-1で　「しばらく町内に住み続けるつもりだがいつかは町外に出たい」と回答したが、将来のUターン希望（問35－2で「いづれ戻ってきたい」と回答した者

「町外に住みたい&戻りたくない」の該当者
- 問35-1で　「しばらく町内に住み続けるつもりだがいつかは町外に出たい」と回答したが、将来のUターン希望（問35－2）で「戻ってきたくない」と回答した者

「どちらともいえない/わからない」の該当者
- 問35-1で　「どちらともいえない」と回答し、将来のUターン希望（問35－2）で「わからない」と回答した者



年代別　戻ってきたいタイミング

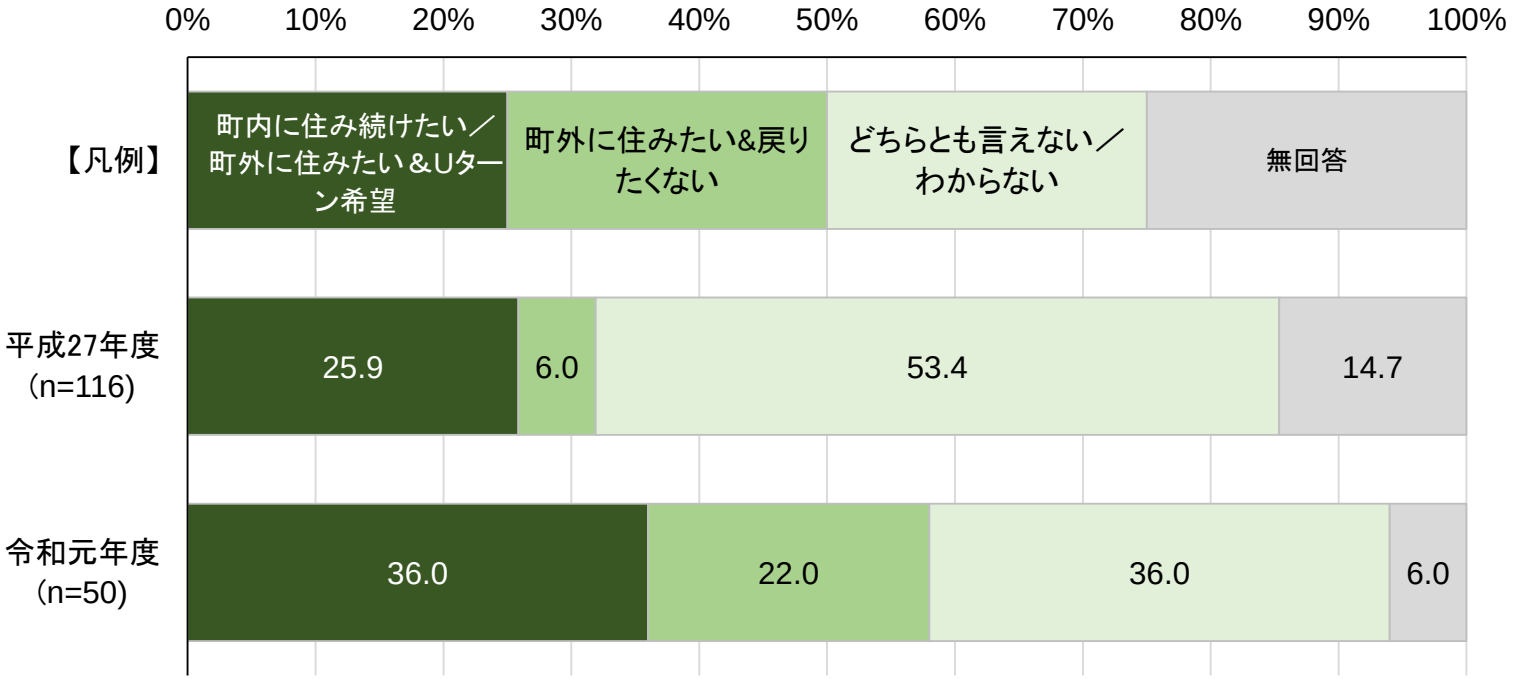
	10代	20代	30代	40代	50代	70代以上	合計
就職	2	0	0	0	0	0	2
結婚	0	1	0	0	0	0	1
子どもの誕生	2	0	0	0	0	0	2
入学・卒業	1	0	0	0	0	0	1
転職・再就職	0	2	0	0	0	0	2
親の介護	0	0	1	1	0	0	2
退職後・老後	2	1	0	1	2	0	6
その他	1	0	0	1	0	1	3

数値目標　16～19歳における「継続居住＋Uターン意向」の割合

- 16～19歳で、町内に住み続けたい、町外に出た後Uターンしたいと考える人の割合は、令和元年度は36.0%であり、平成27年度調査よりもわずかに増加し、目標値は達成している。一方、町外に住み戻りたくないと考える人の割合も増加している。

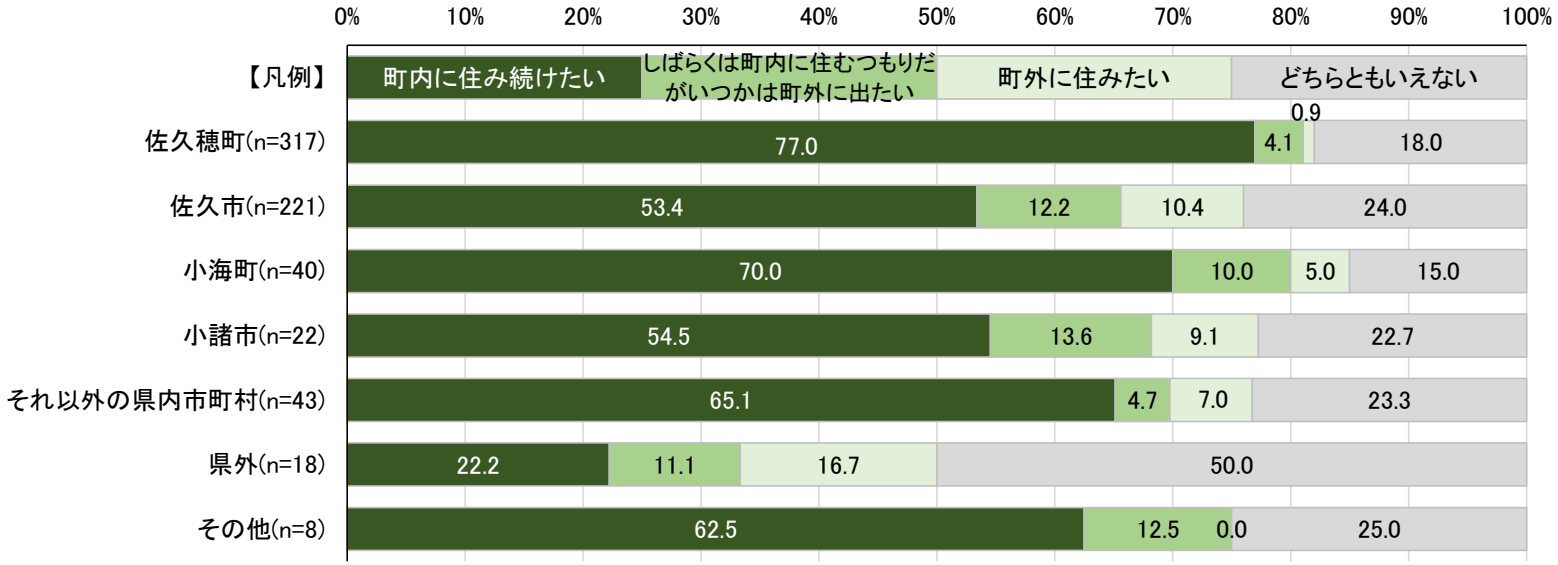
指標	施策	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
16～19歳における「継続居住＋Uターン意向」の割合	数値目標	25.9%	基準値以上	36.0%	達成

問35　佐久穂町での定住意向およびUターン意向（16～19歳）



- 通勤・通学先別に定住意向を見ると、佐久穂町内や小海町に通勤・通学する人は定住意向が高い一方、佐久市や小諸市に通勤・通学する人は比較的定住意向が低くなっている。

通勤・通学先別　定住意向

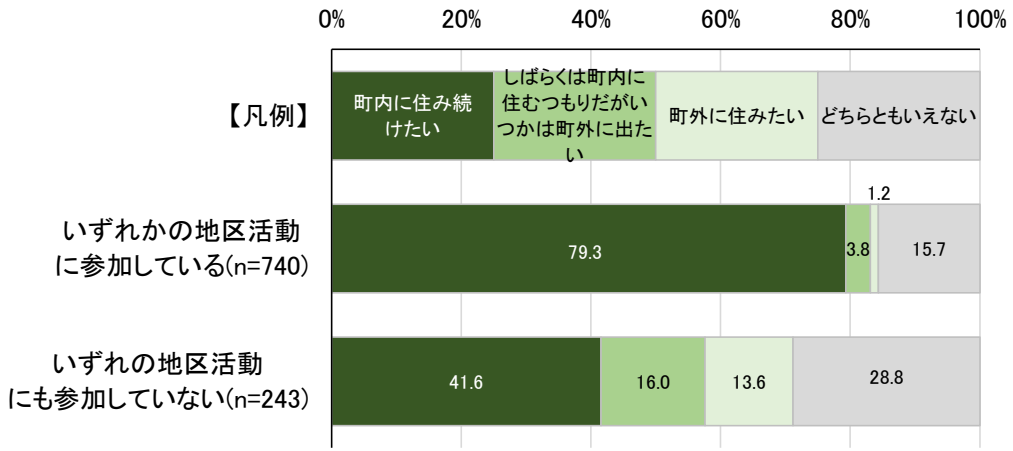


それ以外の県内市町村の内訳

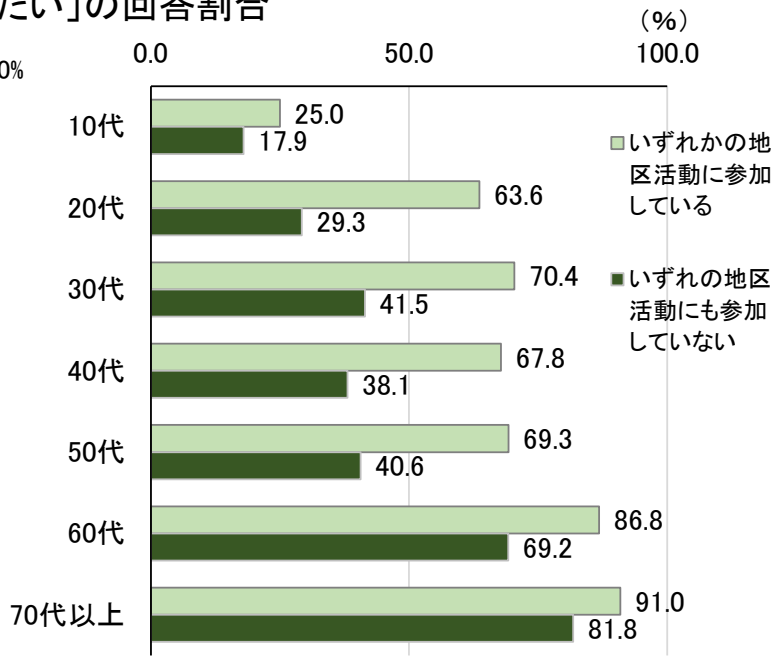
	町内に住み続けたい	しばらくは町内に住むつもりだがいつかは町外に出たい	町外に住みたい	どちらともいえない	合計
長野市	2	0	0	1	3
松本市	0	0	1	0	1
上田市	4	0	0	3	7
須坂市	0	0	0	1	1
東御市	2	0	0	0	2
川上村	0	0	0	1	1
南牧村	9	0	0	1	10
北相木村	2	0	0	0	2
軽井沢町	2	1	2	1	6
御代田町	4	0	0	2	6

- 地区活動の参加状況別に、定住意向を見ると、「いずれかの地区活動に参加している」と回答した人の79.3%が「町内に住み続けたい」と回答しており、「いずれの地区活動にも参加していない」と回答した人と比べて、定住意向は2倍ほど高い。
- 年代別に見ると、どの年代も「いずれかの地区活動に参加している」と回答した人の方が、「町内に住み続けたい」の割合が高い。特に50代以下で地区活動への参加の有無による差が大きい。

地区活動の参加状況別　定住意向



年代別・地区活動の参加状況別　「町内に住み続けたい」の回答割合



※地区活動に参加しているか、どうかで分類している。
●地区活動：常会・区活動、常会役員、分館活動、青年部、女性部、高齢者クラブ、消防団、児童会・育成会、その他の地区活動

⑤定住希望・転出希望の理由/子の定住に関する親の意向

- 定住を希望する理由としては、「地元だから」「住環境がよい」に回答が多く集まっている。
- 一方で、佐久穂町からの移住を希望する理由としては「利便性に欠ける」の回答が最多となっている。
- 子の定住に関する親の意向としては、「どちらともいえない」が半数を超えており、子どもの居住地について明確な意向を持っていない親が多い。
- 親の出身地別に子の定住に関する意向を見ると、町内出身の人の方が「町内に住んでほしい」意向が高い。

問36　定住希望・移住希望の理由

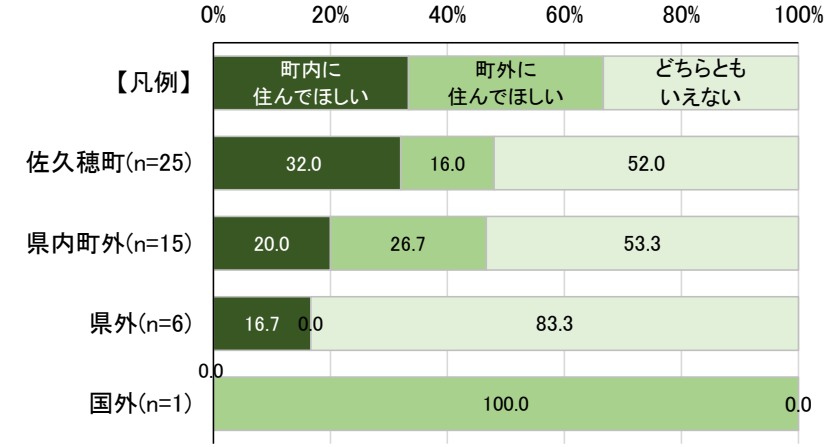
▼定住希望

理由	回答数
地元だから	361
住環境がよい	203
自然環境がよい	87
やむを得ず	57
現状に満足	50
人間関係がよい	39
仕事の都合	31
その他	9

▼移住希望

理由	回答数
利便性に欠ける	14
施設不足	7
不安がある	6
魅力がない	5
就職・就学の都合	3
住みたい場所がある	3
気候があわない	2
その他	3

親の出身地別　子どもの定住に関する意向



問37　お子さんに将来佐久穂町に住んでほしいか
※16～19歳のお子さんを持つ保護者の方

	度数（人）	割合（%）
町内に住んでほしい	12	25.5
町外に住んでほしい	9	19.1
どちらともいえない	26	55.3
合計	47	100.0

お子さんのUターンに対する希望

	度数（人）
いずれ戻ってきてほしい	2
戻らなくてもよい	7
わからない	1
合計	10

お子さんに戻ってきてほしいタイミング

	度数（人）
就職	2

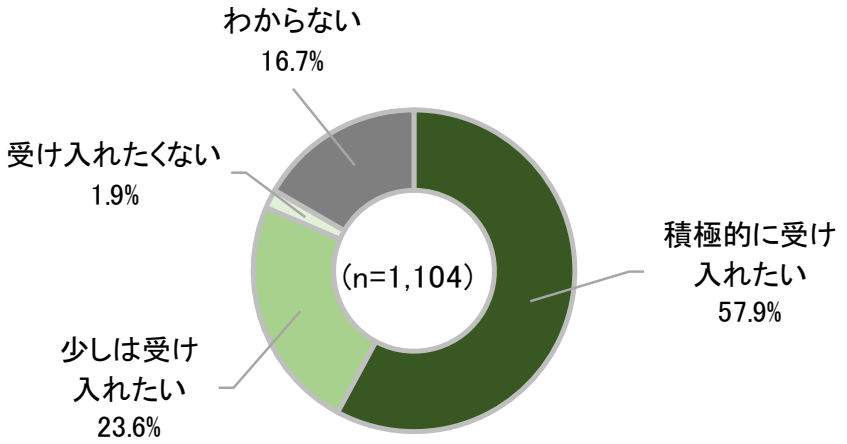
（3） 移住促進の取組みや集落について

①移住促進についての考え/今後の集落の状況

- 町に移住者を増やすことについて、「積極的に受け入れたい」と「少しは受け入れたい」を合わせた割合は81.5%となっている。
- 今後（おおよそ10年後）の住んでいる集落の様子を聞いたところ、61.2%が「衰退している」と回答し、「今より活性化している」は3.6%に留まっている。

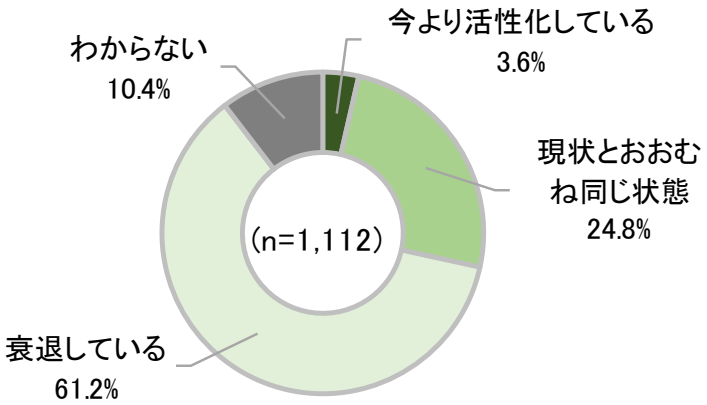
問52　町に移住者を増やすことについての考え
※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
積極的に受け入れたい	639	57.9
少しは受け入れたい	260	23.6
受け入れたくない	21	1.9
わからない	184	16.7
合計	1,104	100.0



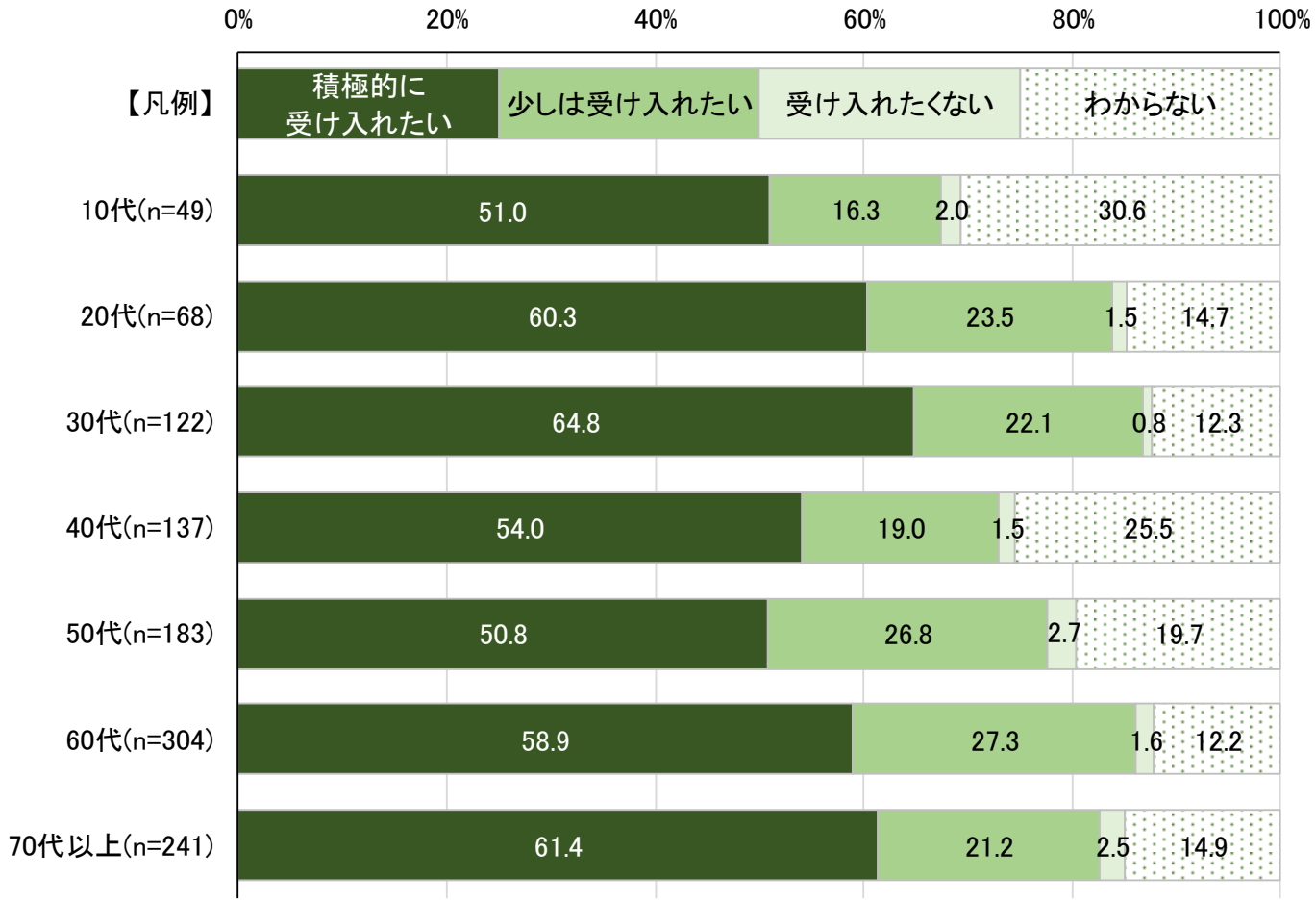
問53　今後（おおよそ10年後）の住んでいる集落の様子
※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
今より活性化している	40	3.6
現状とおおむね同じ状態	276	24.8
衰退している	680	61.2
わからない	116	10.4
合計	1,112	100.0



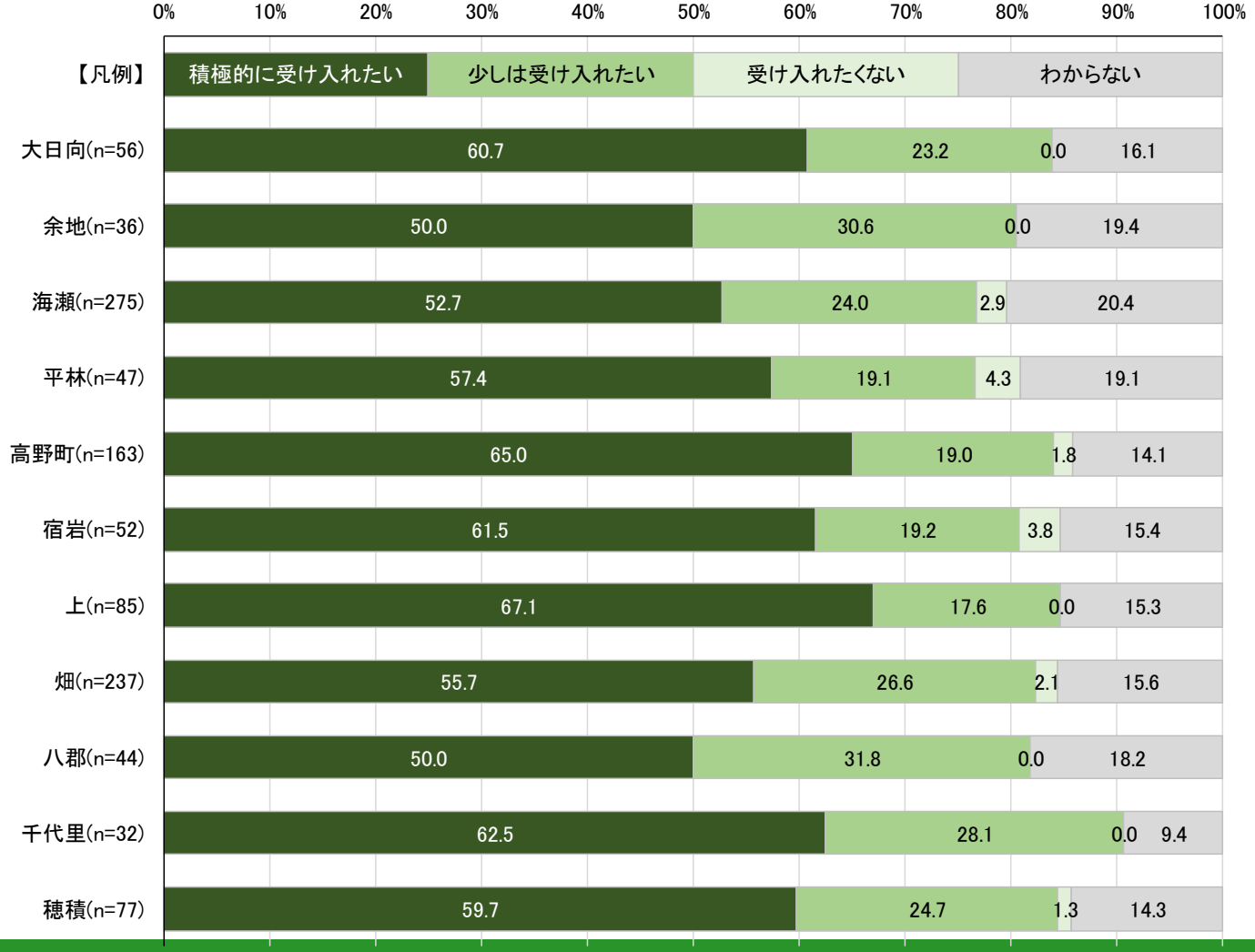
- 町に移住者を増やすことについて、年代別に見ると、「積極的に受け入れたい」と「少しは受け入れたい」を合わせた割合は、どの年代でも6割以上となっている。その割合は、30代で最も高く、ついで60代、20代が高い。

年代別　町に移住者を増やすことについての考え



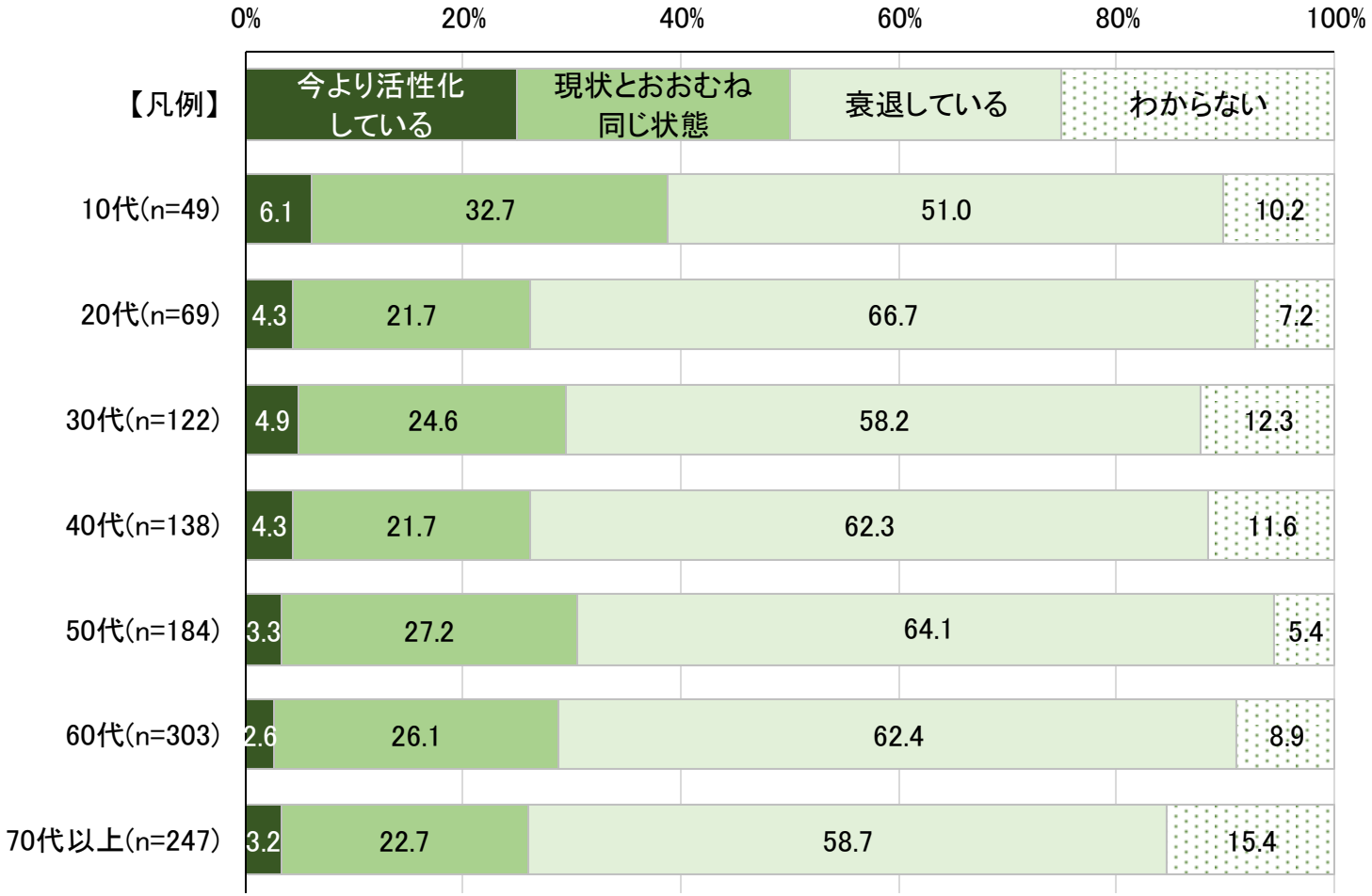
- 移住促進について、「積極的に受け入れたい」と「少しは受け入れたい」を合わせた割合は、どの地区でも70％以上となっており、移住者の受入には大きな地域差はない。「積極的に受入れたい」の割合を見ると、上地区が最も高く、ついで高野町地区、千代里地区と続く。

地区別　町に移住者を増やすことについての考え



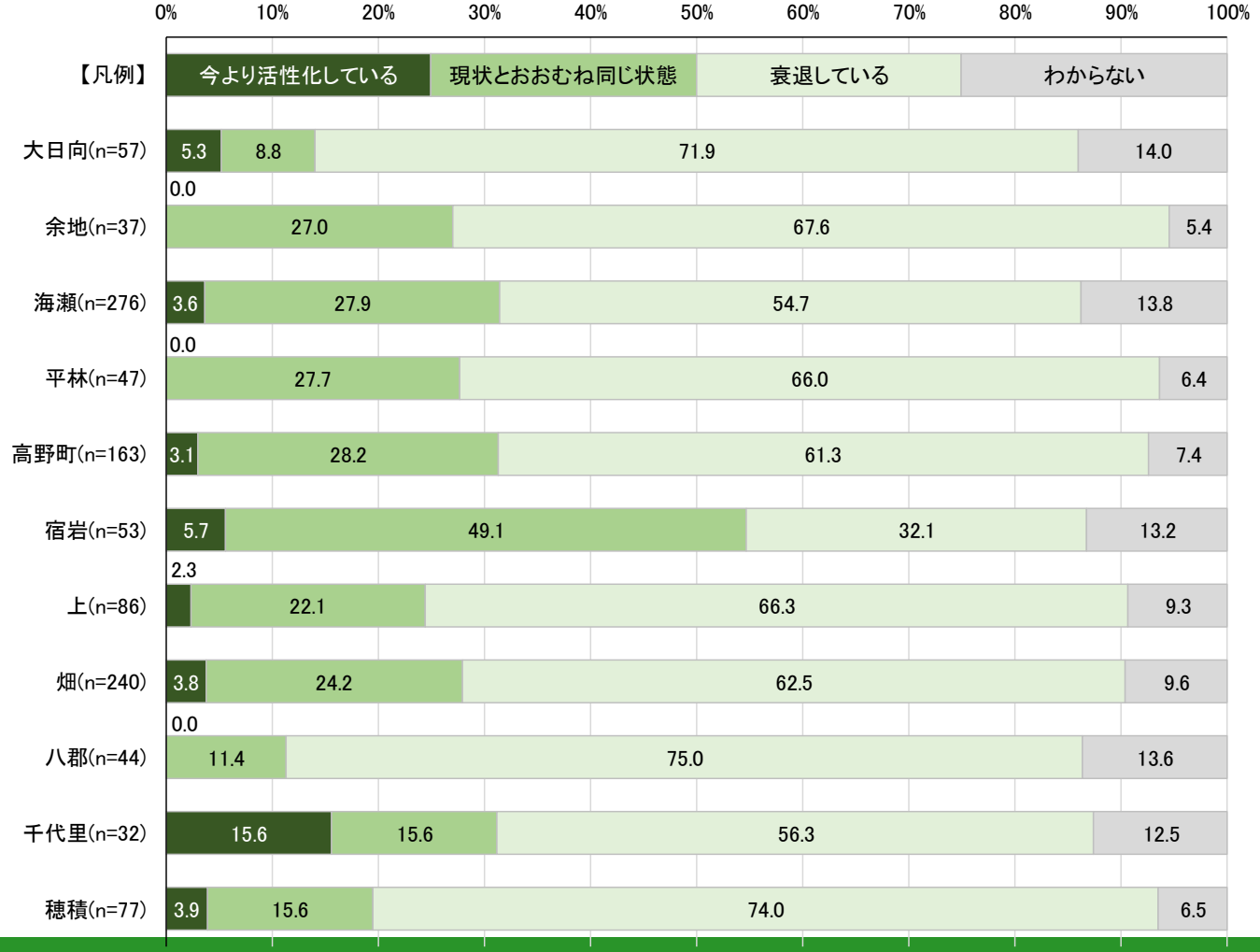
- 年代別に、今後の住んでいる集落の様子を見ると、どの年代でも「衰退している」という割合が最も高くなっている。
- 10代では、他の年代と比較し、「衰退している」という回答の割合が低い。

年代別　今後（おおよそ10年後）の住んでいる集落の様子



- 地区別に、今後の住んでいる集落の様子を見ると、千代里地区は「今より活性化している」の割合が15.6%と他の地区よりも高い。
- 「衰退している」の割合は、八郡地区、穂積地区、大日向地区で7割を超えている。宿岩地区は32.1%と最も低く、「現状とおおむね同じ状態」の割合が49.1%と高くなっている。

地区別　今後（おおよそ10年後）の住んでいる集落の様子

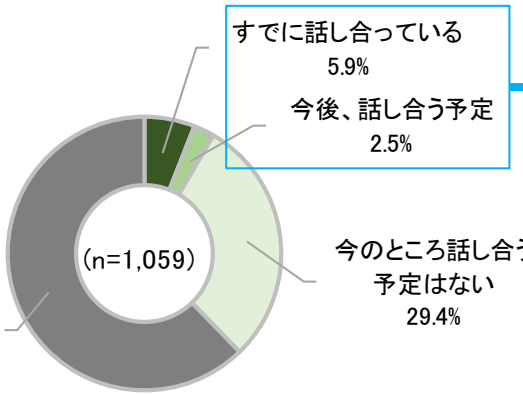


②集落での話し合いの状況/話し合いの必要性の有無

- 集落の将来について「すでに話し合っている」と「今後、話し合う予定」を合わせた割合は8.4%に留まる。
- 集落で話し合っている内容としては、「過疎化対策」が最も多い。
- 「今のところ話し合う予定はない」「わからない」と回答した人のうち、約7割が話し合う必要性を感じている。

問54　集落の将来について集落内での話し合いの状況
※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
すでに話し合っている	63	5.9
今後、話し合う予定	26	2.5
今のところ話し合う予定はない	311	29.4
わからない	659	62.2
合計	1,059	100.0

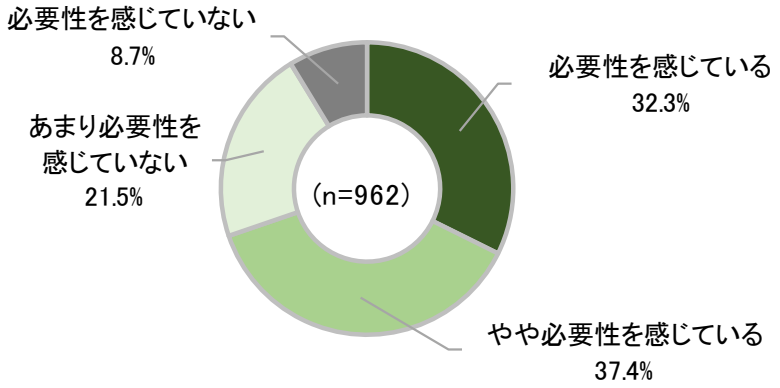


話し合っている内容

話し合っている内容	回答数
過疎化対策	19
区政	12
高齢者介護	11
区・常会再編	10
相互協力	8
防災・インフラ整備	5
行事・活動	6
その他	15

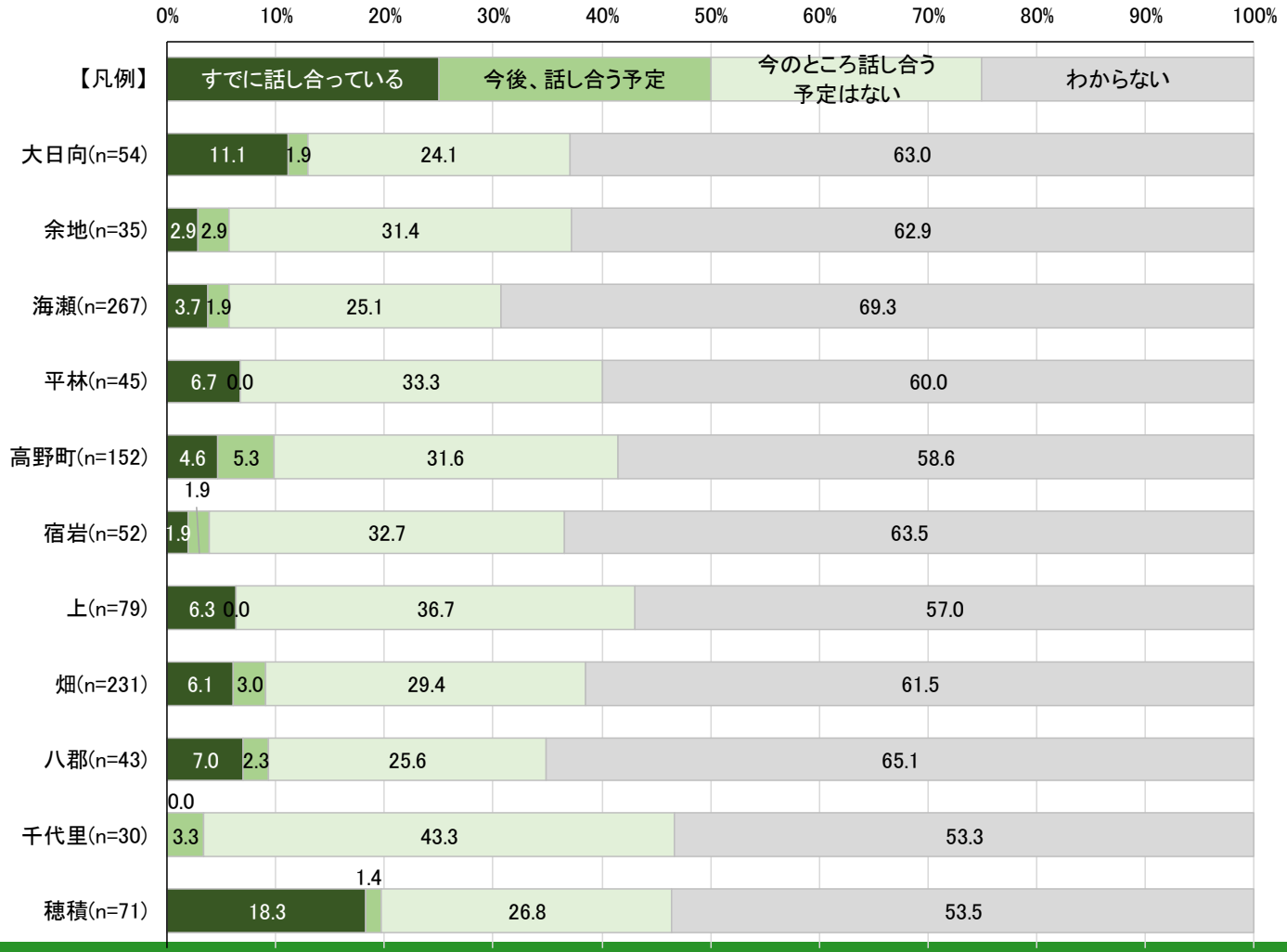
問55　集落の将来について話し合う必要性を感じるか
※問54で「今のところ話し合う予定はない」
「わからない」と回答している人

	度数（人）	割合（%）
必要性を感じている	311	32.3
やや必要性を感じている	360	37.4
あまり必要性を感じていない	207	21.5
必要性を感じていない	84	8.7
合計	962	100.0



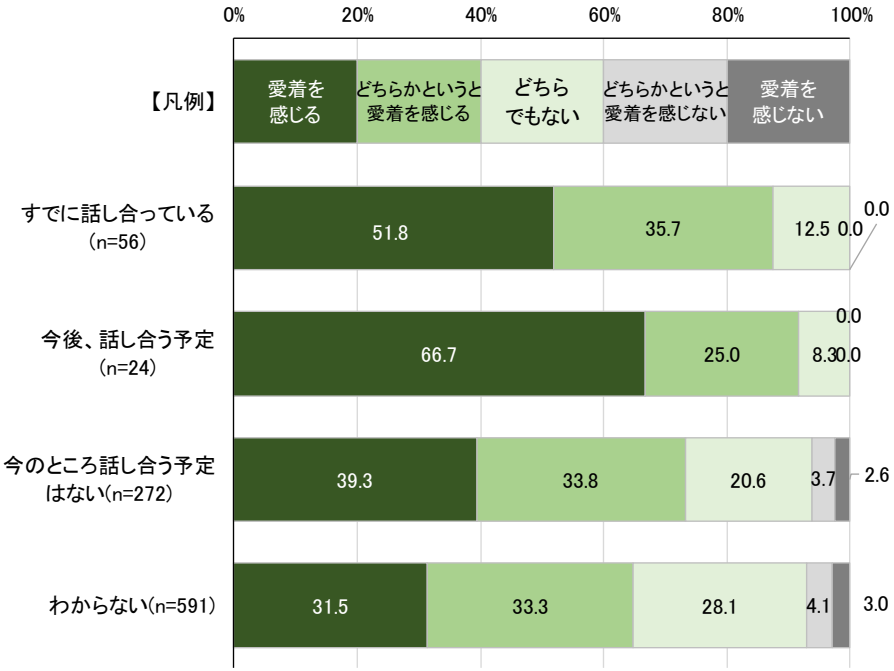
- 地区別に、集落の将来についての話し合いの状況を見ると、大日向地区と穂積地区で「すでに話し合っている」という回答が10%以上となっており、他の地区と比べて高くなっている。

地区別　集落の将来について集落内での話し合いの状況

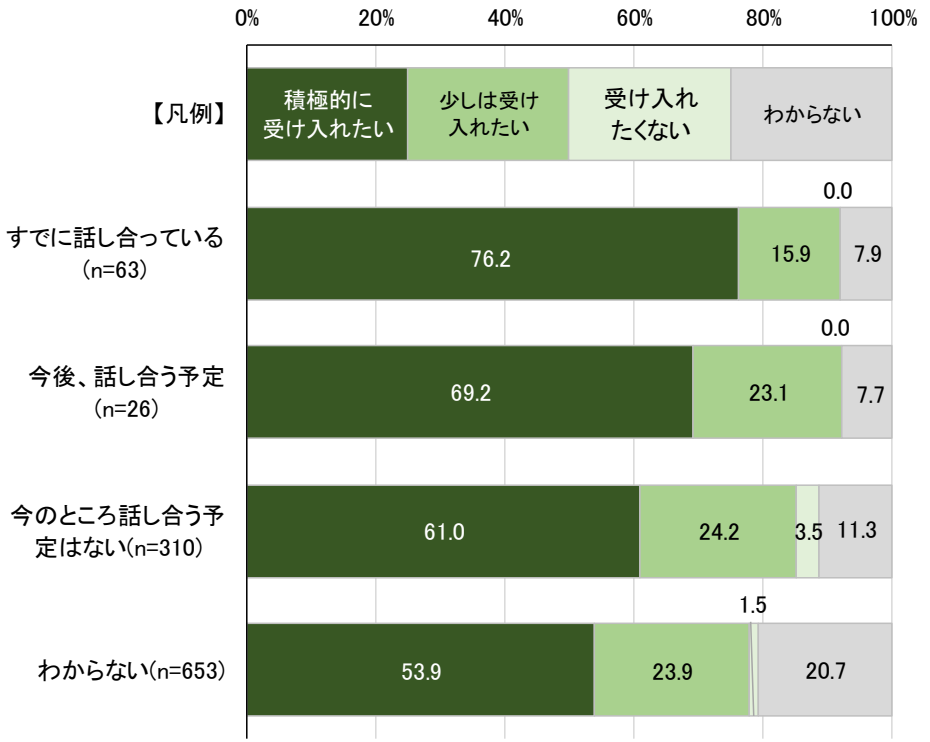


- 集落の話し合いの状況別に地区への愛着度を見ると、「すでに話し合っている」「今後話し合う予定」と回答した人はそうでない人と比べて地区への愛着度は高い。
- 集落の話し合いの状況別に移住促進に対する意向を見ると、「すでに話し合っている」「今後話し合う予定」と回答した人はそうでない人と比べて移住促進に対して積極的な傾向が見られる。

集落の話し合い状況別　地区への愛着度

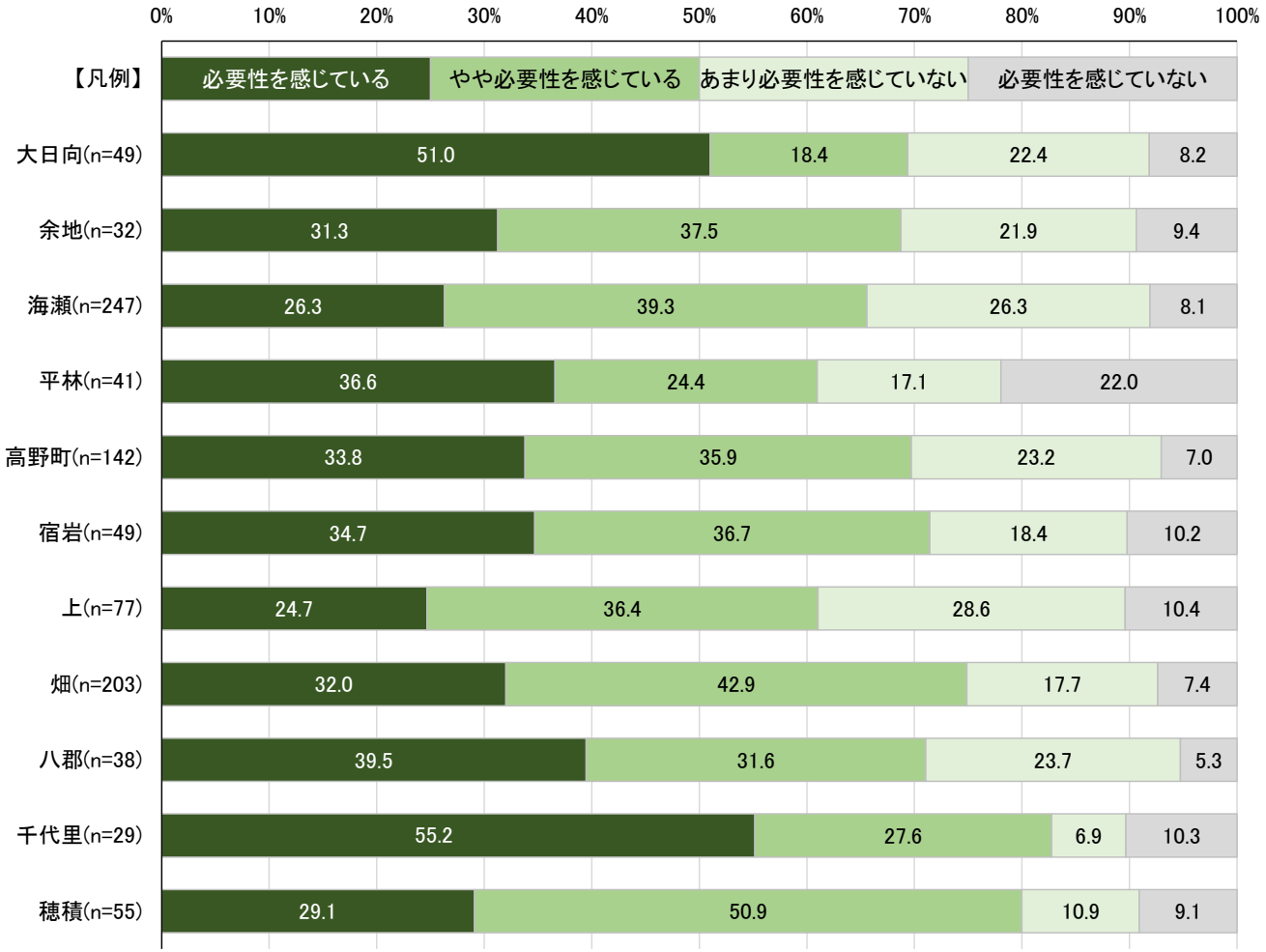


集落の話し合い状況別　移住促進の意向



- 地区別に、集落で将来について話し合う必要性を感じるかという質問の回答を見ると、「必要性を感じている」の割合は、千代里地区で最も高く55.2%で、ついで大日向地区で51.0%となっている。
- 一方で、海瀬地区、上地区、穂積地区では「必要性を感じている」という割合は3割以下となっている。

地区別　集落の将来について話し合う必要性を感じるか

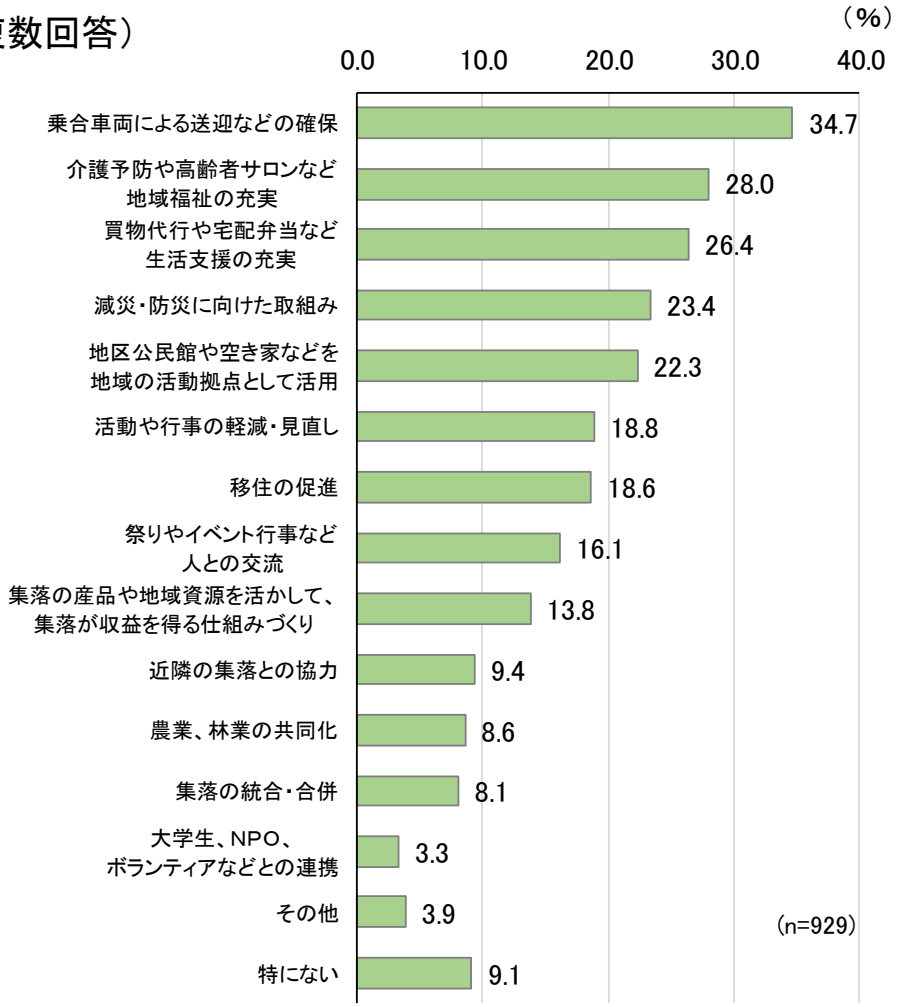


③集落の維持のための効果的な取組み

- 集落維持のための効果的な取組みとして「乗合車両による送迎などの確保」が34.7%と最も高く、ついで「介護予防や高齢者サロンなど地域福祉の充実」、「買物代行や宅配弁当など生活支援の充実」、「減災・防災に向けた取組み」、「地区公民館や空き家などを地域の活動拠点として活用」が上位となっている。

問56　集落を維持するために効果的だと思う取組み（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
乗合車両による送迎などの確保	322	34.7
介護予防や高齢者サロンなど地域福祉の充実	260	28.0
買物代行や宅配弁当など生活支援の充実	245	26.4
減災・防災に向けた取組み	217	23.4
地区公民館や空き家などを地域の活動拠点として活用	207	22.3
活動や行事の軽減・見直し	175	18.8
移住の促進	173	18.6
祭りやイベント行事など人との交流	150	16.1
集落の産品や地域資源を活かして、集落が収益を得る仕組みづくり	128	13.8
近隣の集落との協力	87	9.4
農業、林業の共同化	80	8.6
集落の統合・合併	75	8.1
大学生、NPO、ボランティアなどとの連携	31	3.3
その他	36	3.9
特にない	85	9.1
回答数	929	



5. 基本目標Ⅱ【子育て・教育コミュニティ】の状況

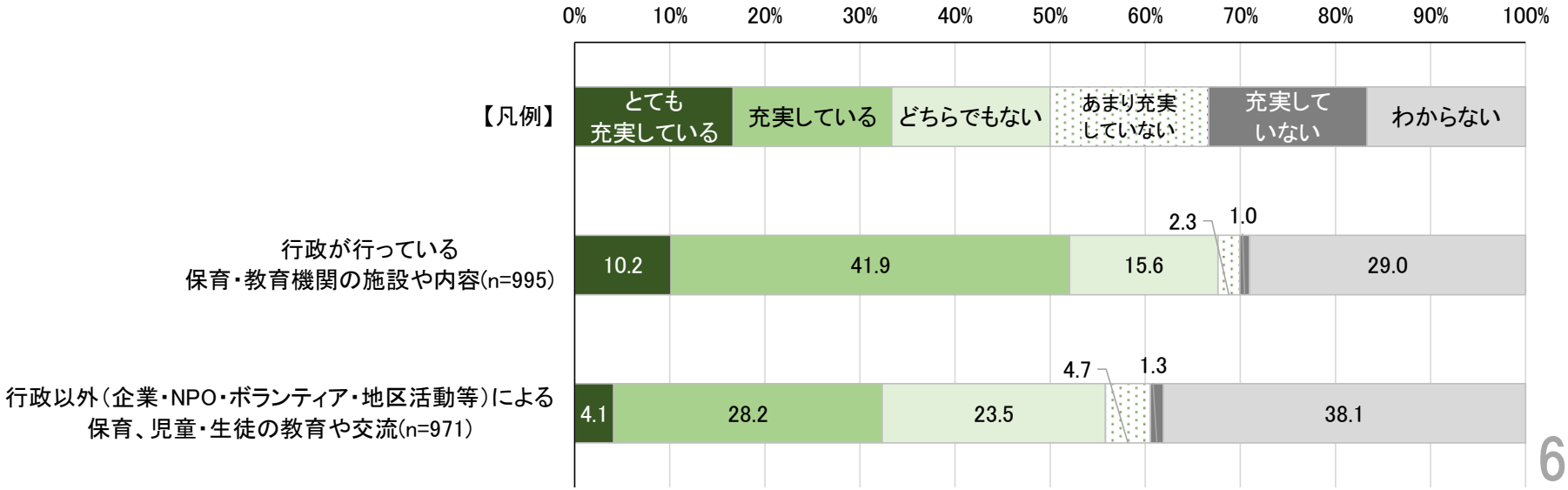
（1）子育て・出産について

①佐久穂町の保育・教育環境の充実度

- 行政が行う保育・教育環境の充実度は、「とても充実している」が10.2%、「充実している」が41.9%で、合わせた割合は52.1%となっている。
- 行政以外が行う保育・教育環境の充実度については、「とても充実している」が4.1%、「充実している」が28.2%で、合わせた割合は32.3%である。行政以外が行う取組みは「わからない」と回答した人が最も多くなっている。

問40　佐久町の保育・教育環境の充実度

		とても充実している	充実している	どちらでもない	あまり充実していない	充実していない	わからない	合計
行政が行っている保育・教育機関の施設や内容	度数（人）	101	417	155	23	10	289	995
	割合（%）	10.2	41.9	15.6	2.3	1.0	29.0	100.0
行政以外（企業・NPO・ボランティア・地区活動等）による保育、児童・生徒の教育や交流	度数（人）	40	274	228	46	13	370	971
	割合（%）	4.1	28.2	23.5	4.7	1.3	38.1	100.0

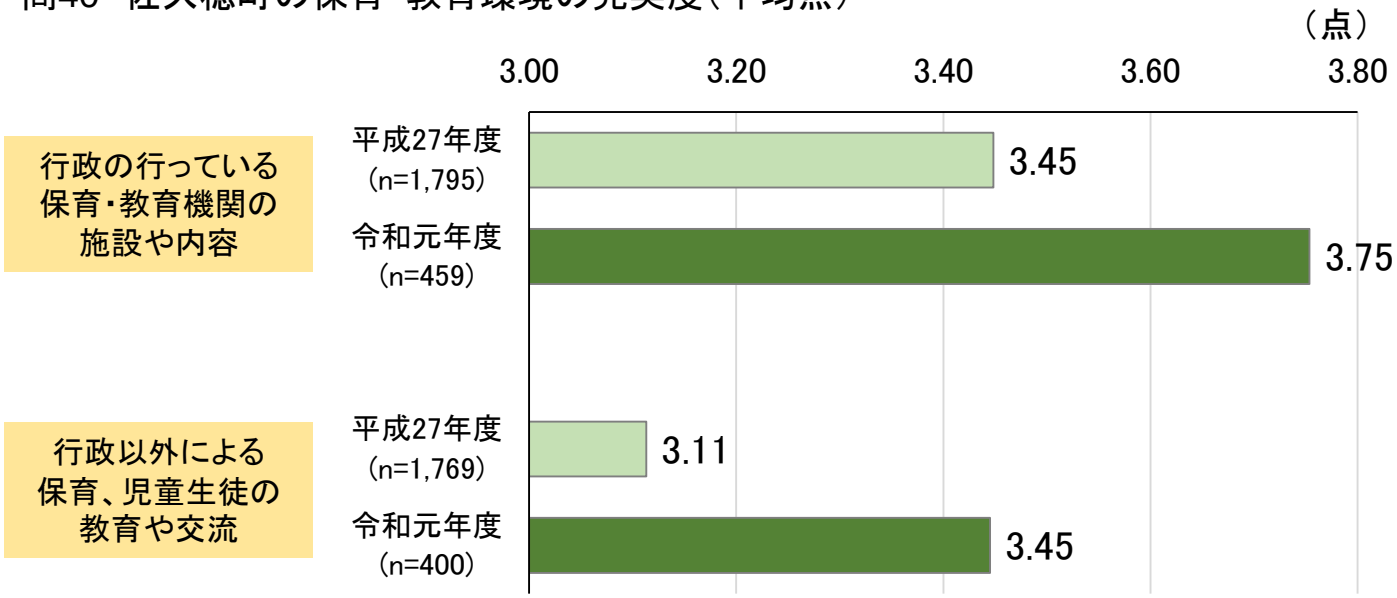


数値目標　生産年齢人口における「子育て・教育環境魅力指数」

- 保育や教育の取組みについて、平成27年度の結果と比較すると、行政の取組みも行政以外の取組みも充実したと感じている人が増加しており、目標値を上回っている。

指標	施策	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
生産年齢人口における「子育て・教育環境魅力指数」	数値目標	①町の実施する施設や内容：3.45点 ②行政以外の実施する教育や交流：3.11点	①3.65点 ②3.45点	①3.75点 ②3.45点	①達成 ②達成

問40　佐久穂町の保育・教育環境の充実度（平均点）



以下のように選択肢ごとに得点を設定し、平均点を算出しています。

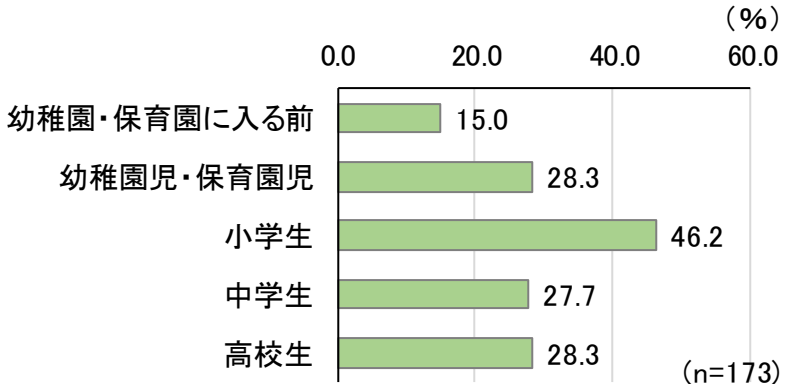
「とても充実している」：5点
「充実している」：4点
「どちらでもない」：3点
「あまり充実していない」：2点
「充実していない」：1点

②子の年齢/希望する子どもの人数

- 希望する子どもの人数について、理想とする人数は2人が45.8%で最も多く、ついで3人となっている。
- 現在の人数と現実的な予定人数は、理想とする人数を下回っている。

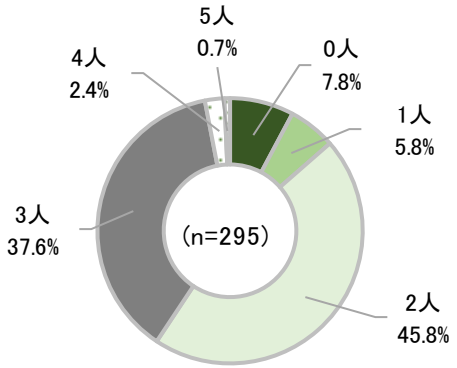
問41　子どもの年齢
※高校生以下のお子さんを持つ保護者のみ回答

	度数（人）	割合（%）
幼稚園・保育園に入る前	26	15.0
幼稚園児・保育園児	49	28.3
小学生	80	46.2
中学生	48	27.7
高校生	49	28.3
回答数	173	

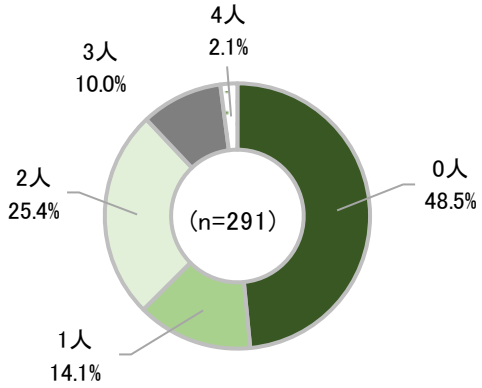


問42　希望する子どもの人数　※50歳以下のみ回答
※次ページに配偶状態別クロス集計あり

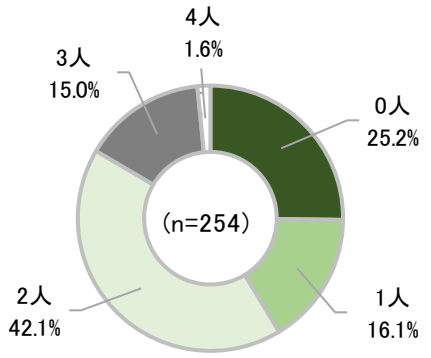
理想とする人数



現在の人数

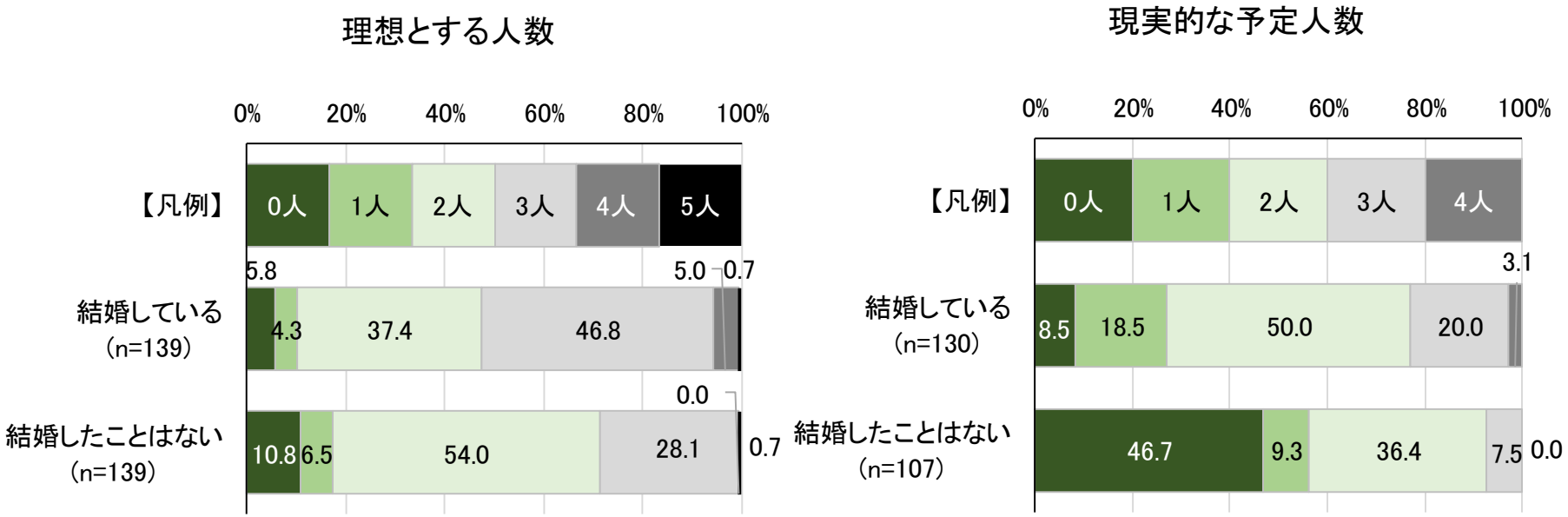


現実的な予定人数



- 「結婚している」と回答した人の理想とする子どもの人数は「3人」が最も多く、46.8%となっている。しかし、現実的な子どもの予定人数は「2人」と回答した人が50.0%と最も多くなっている。
- 「結婚したことはない」と回答した人の理想とする人数では「2人」が54.0%と最も多いが、現実的な子どもの予定人数は「0人」が最も多く、約半数を占めている。

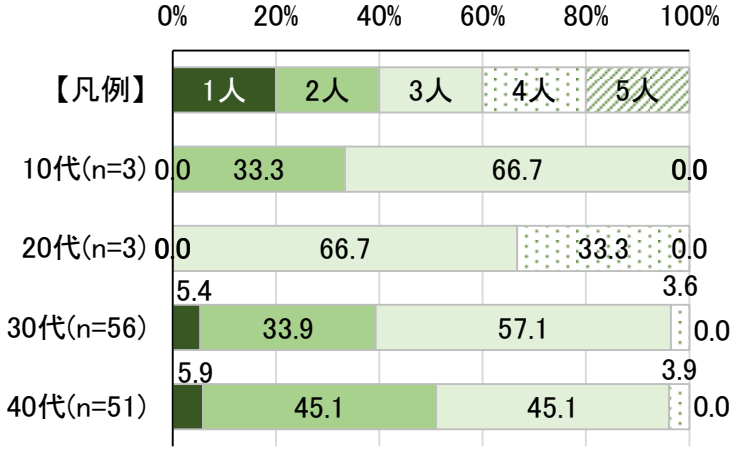
配偶状態別　希望する子どもの人数



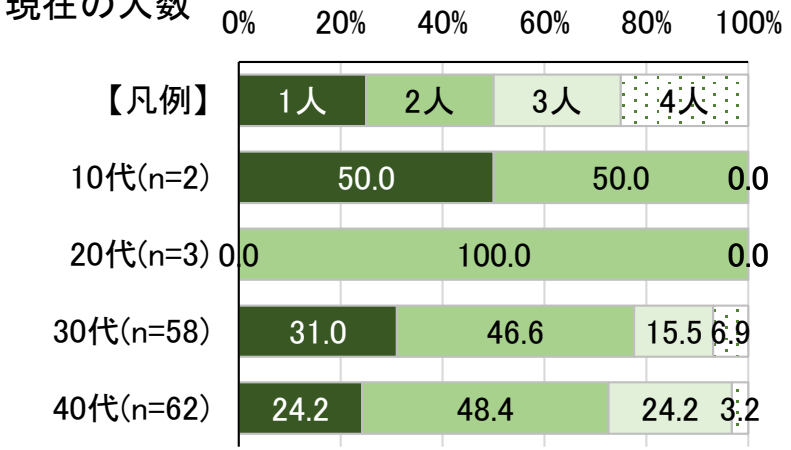
- 高校生以下の子どもがいる人の希望している子どもの人数を見ると、理想とする人数はどの年代でも「3人」が最も多いが、現在の人数は「2人」が多い。
- 現実的な予定の人数は、「20代」までは「3人」が多くなっているが、「30代」「40代」では「2人」になっており、理想との差が生まれている。

高校生以下の子どもがいる人の希望する子どもの人数

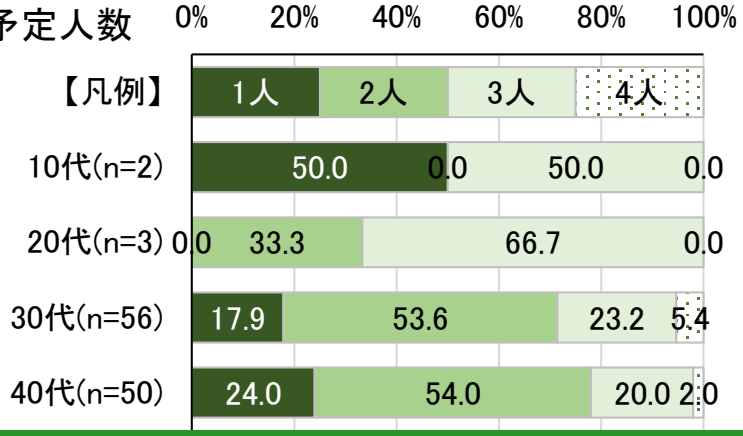
理想とする人数



現在の人数



現実的な予定人数

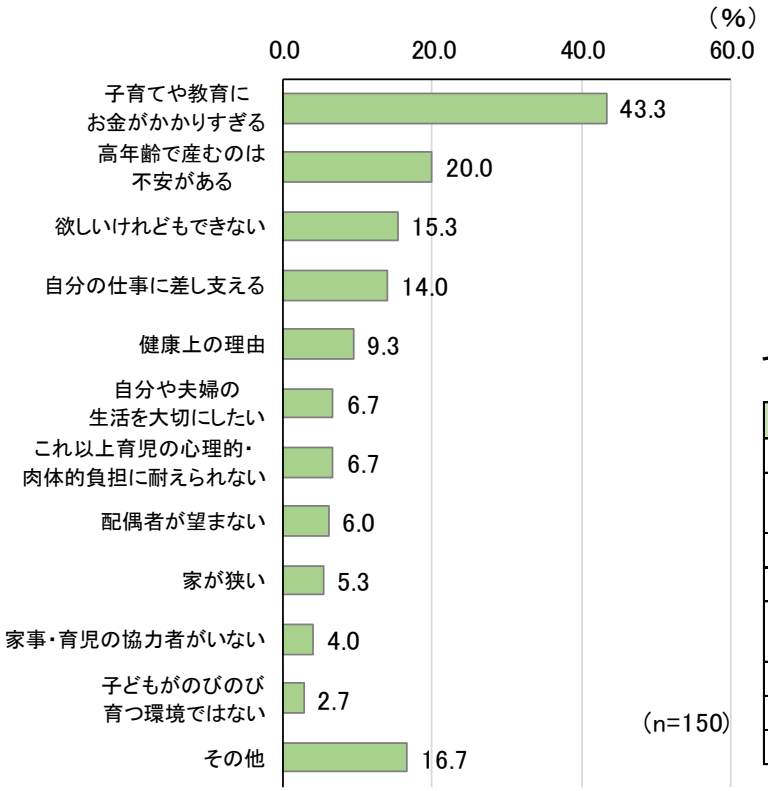


③理想とする子の人数と現実的な予定の子の人数が異なる理由

- 理想とする子どもの人数と現実的な予定の子どもの人数が異なる理由として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答した人が43.3%と最も多く、ついで「高年齢で産むのは不安がある」が多い。

問44　理想とする子どもの人数と現実的な子どもの人数が異なる理由（複数回答）
※次ページに配偶状態別クロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
子育てや教育にお金がかかりすぎる	65	43.3
高年齢で産むのは不安がある	30	20.0
欲しいけれどもできない	23	15.3
自分の仕事に差し支える	21	14.0
健康上の理由	14	9.3
自分や夫婦の生活を大切にしたい	10	6.7
これ以上育児の心理的・肉体的負担に耐えられない	10	6.7
配偶者が望まない	9	6.0
家が狭い	8	5.3
家事・育児の協力者がいない	6	4.0
子どもがのびのび育つ環境ではない	4	2.7
その他	25	16.7
回答数	150	

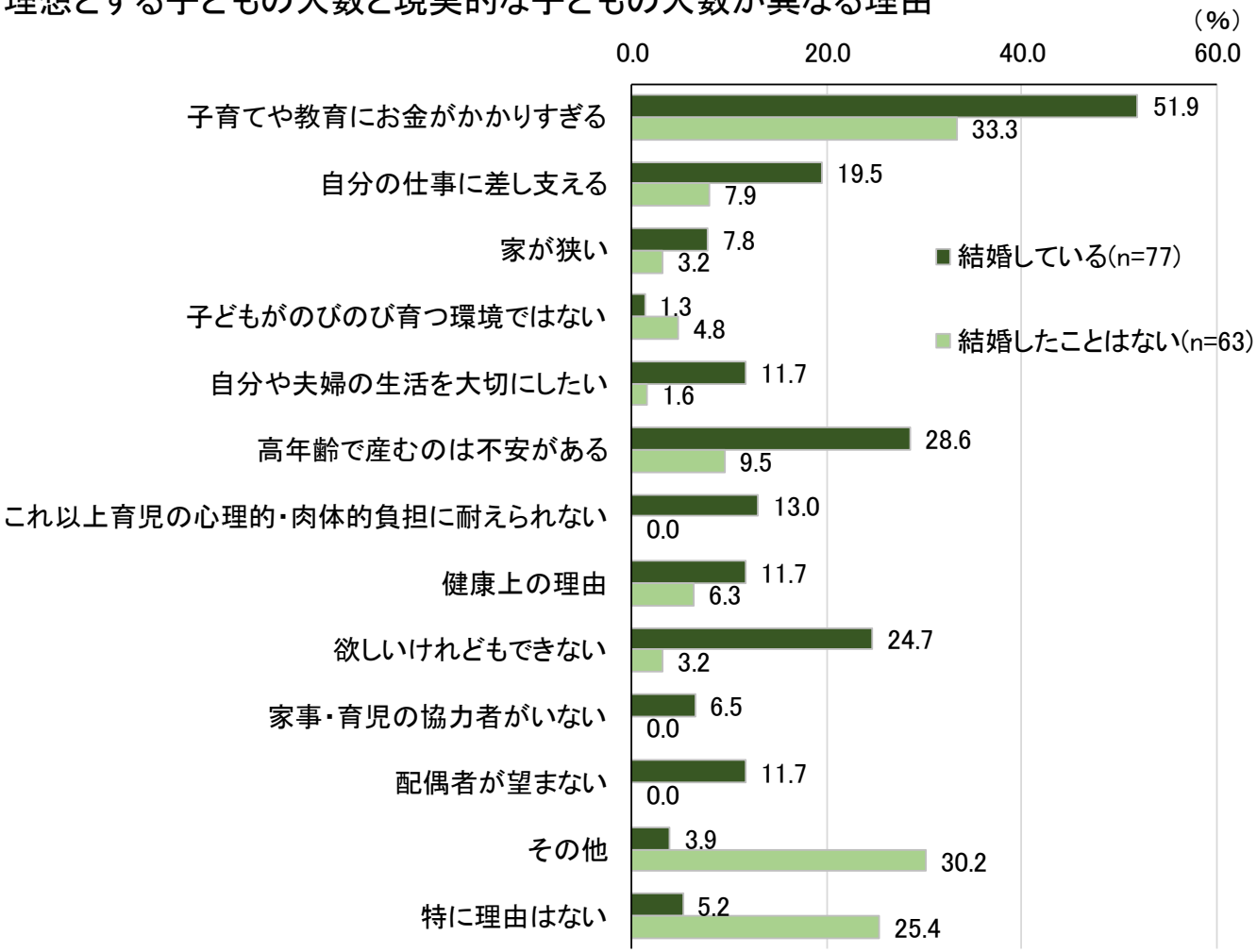


その他の内容

その他の内容	回答数
まだ若いから	4
偶然授かった、授かればよいから	2
高齢だから	1
経済的に厳しい	1
男性の働き方に問題がある	1
地区活動が忙しい	1
結婚していない	1
予定がない	1

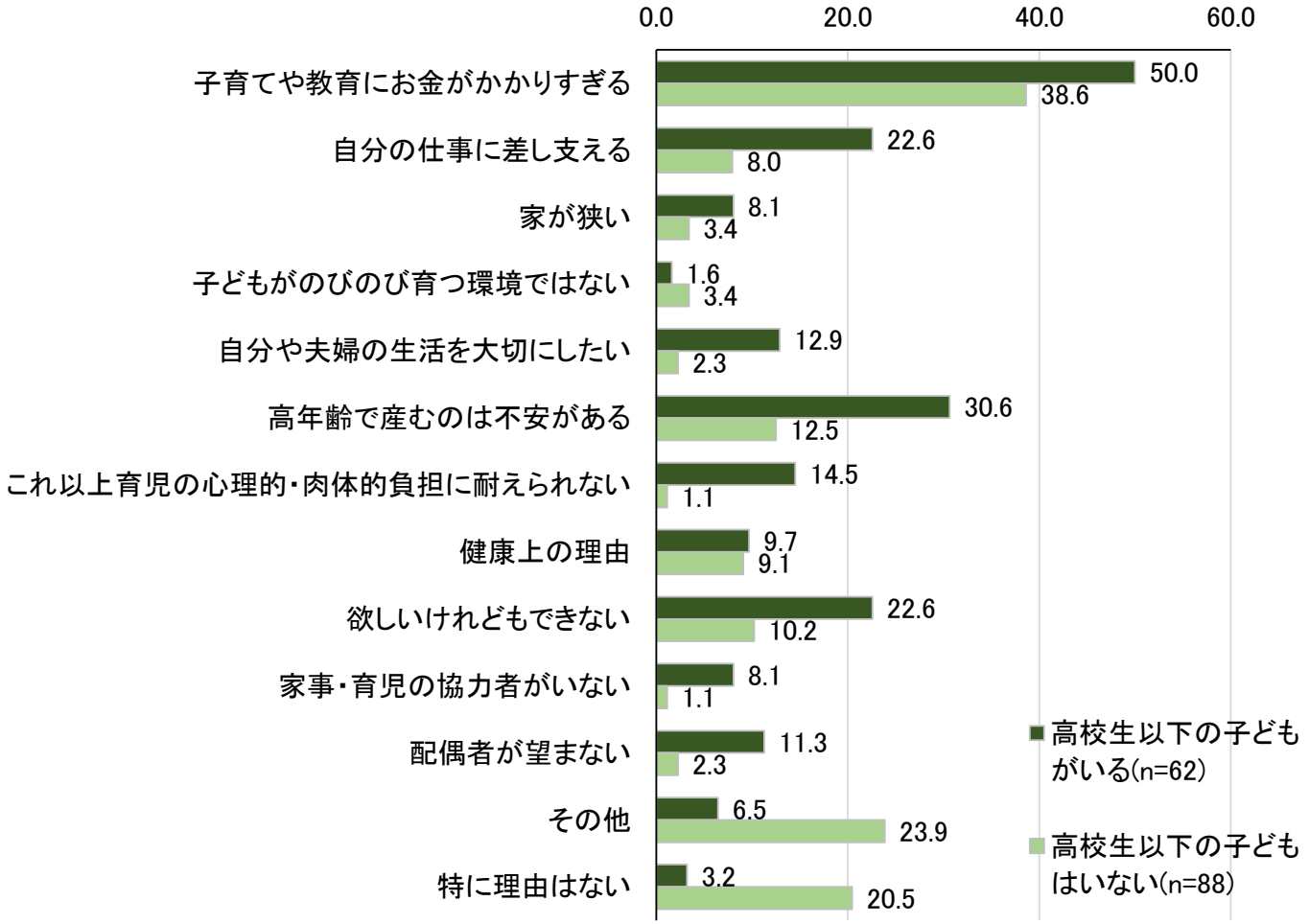
- 配偶状態別に、理想とする子どもの人数と現実的な予定の人数が異なる理由を見ると、結婚している人は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答した人が51.9%と最多となっている。ついで、「高年齢で産むのは不安がある」、「欲しいけれどもできない」という回答が多い。

配偶状態別　理想とする子どもの人数と現実的な子どもの人数が異なる理由



- 高校生以下の子どもの有無別に、理想とする子どもの人数と現実的な予定の人数が異なる理由を見ると、子どもがいる人は「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答した人が、最も多く50.0%となっている。ついで、高年齢で産むことへの不安や望んでいるが子どもができないことも理由として多く挙げられている。

高校生以下の子どもの有無別　理想とする子どもの人数と現実的な子どもの人数が異なる理由　（%）

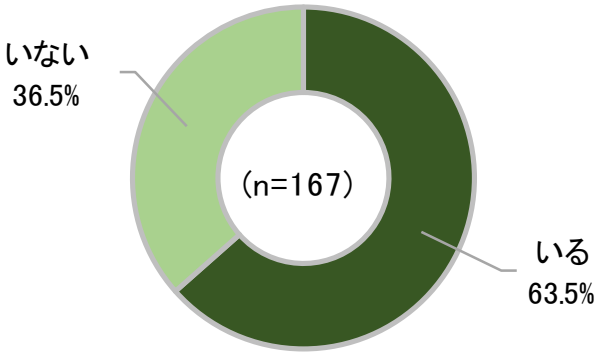


④子育てを手伝う親族等の有無/その親族の居住地

- 高校生以下の子どもを持つ人のうち、63.5%が子育てを定期的に手伝いに来てくれる親族等が「いる」と回答している。
- その親族の居住地について「同居している」が37.0%で最も多く、「佐久穂町内」が33.3%となっている。

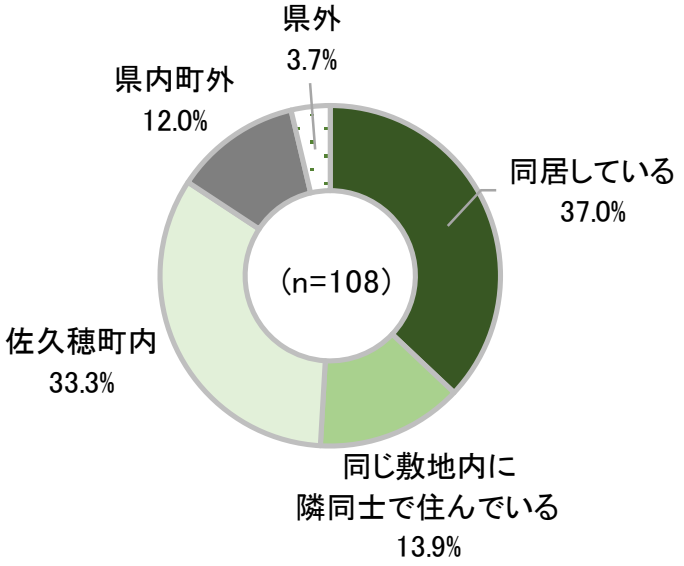
問44-1　子育てを定期的に手伝いに来てくれる親族等の有無
※高校生以下の子を持つ人のみ

	度数（人）	割合（%）
いる	106	63.5
いない	61	36.5
合計	167	100.0



問44-2　その親族の居住地
※問44-1で「いる」と回答した人のみ

	度数（人）	割合（%）
同居している	40	37.0
同じ敷地内に隣同士で住んでいる	15	13.9
佐久穂町内	36	33.3
県内町外	13	12.0
県外	4	3.7
合計	108	100.0

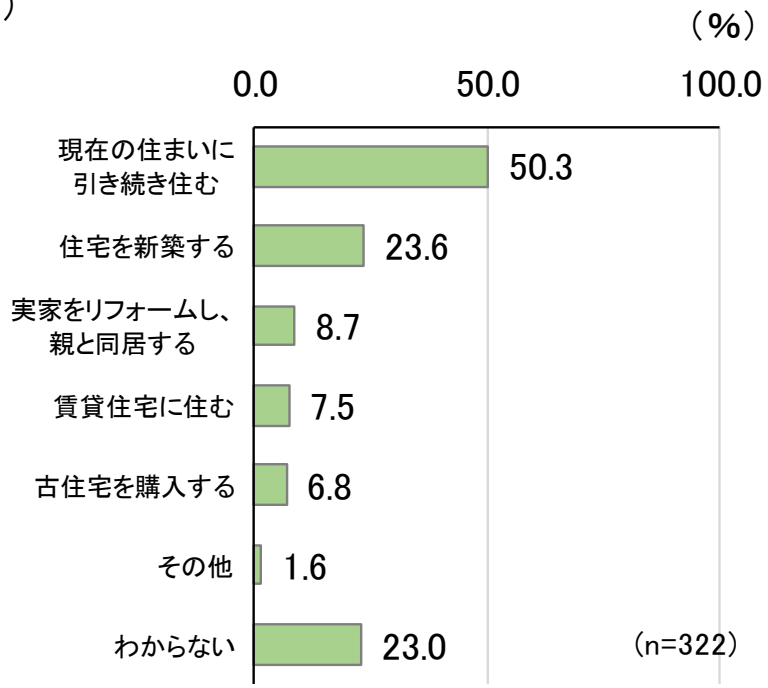


⑤子育てする上での希望する住まい方

- 子育てをする上での希望する住まい方について、「現在の住まいに引き続き住む」と回答した人が50.3%で最も多くなっている。ついで「住宅を新築する」と回答した人が多い。

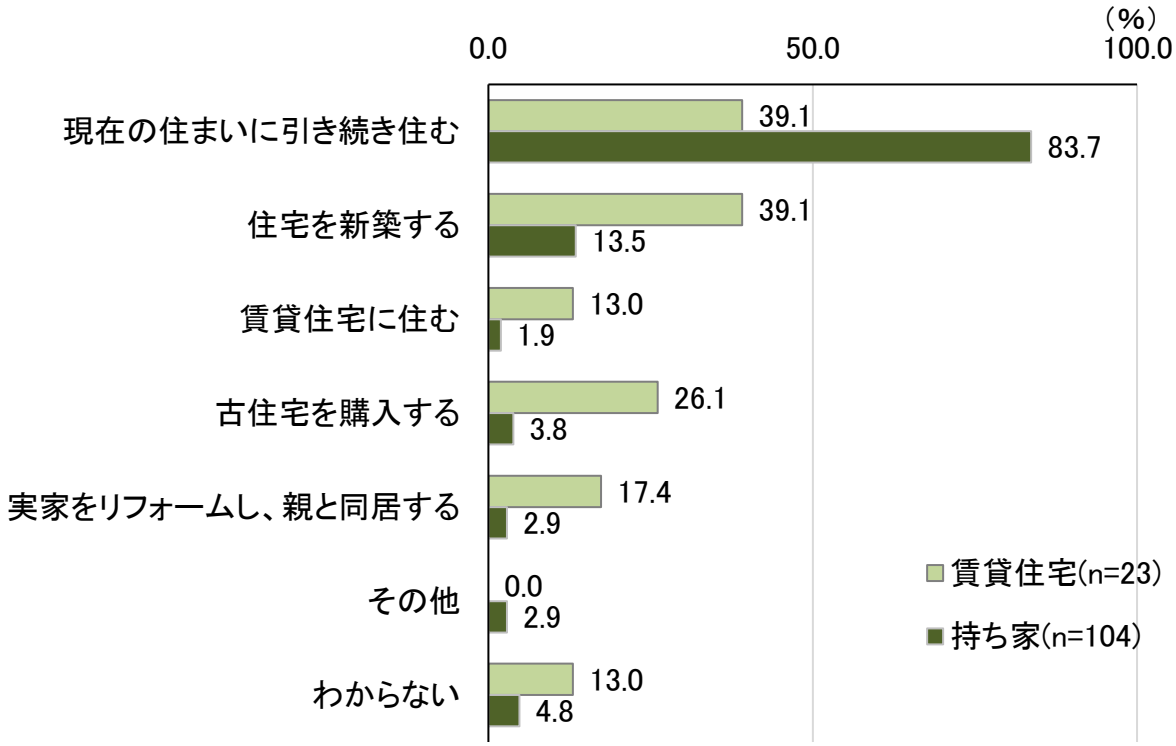
問45　子育てをする上での希望する住まい方（複数回答）
※50歳以下の人のみ

	度数（人）	割合（%）
現在の住まいに引き続き住む	162	50.3
住宅を新築する	76	23.6
実家をリフォームし、親と同居する	28	8.7
賃貸住宅に住む	24	7.5
古住宅を購入する	22	6.8
その他	5	1.6
わからない	74	23.0
回答数	322	



- 現在の住居形態別に、子育てする上での希望する住まい方を見ると、「持ち家」に住んでいる人は、「現在の住まいに引き続き住む」が最も多い。「賃貸住宅」に住んでいる人は「現在の住まいに引き続き住む」「住宅を新築する」が最も多く、ついで「古住宅を購入する」が多くなっている。

現在の住居形態別　子育てする上での希望する住まい方
※50歳以下の子どもを持つ人のみ



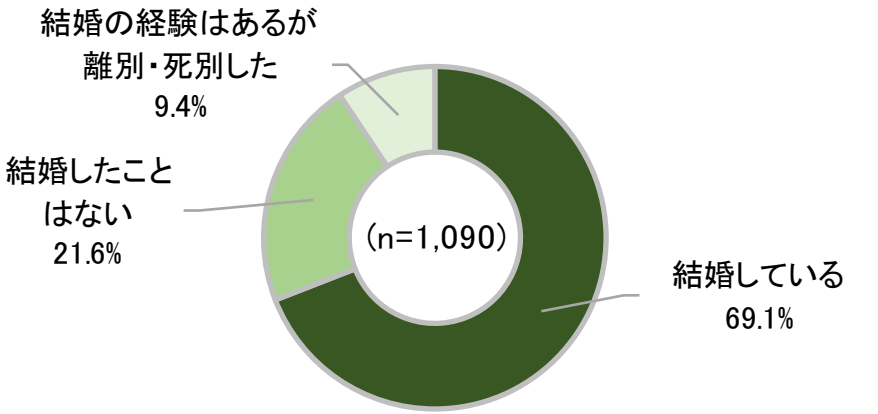
（2）結婚について

①結婚の経験の有無/今後の結婚に対する考え

- 回答者のうち、「結婚している」と回答した人は69.1%となっている。
- 現在結婚していない人のうち、「いずれ結婚したい（する）」と回答した人の割合は54.7%である。

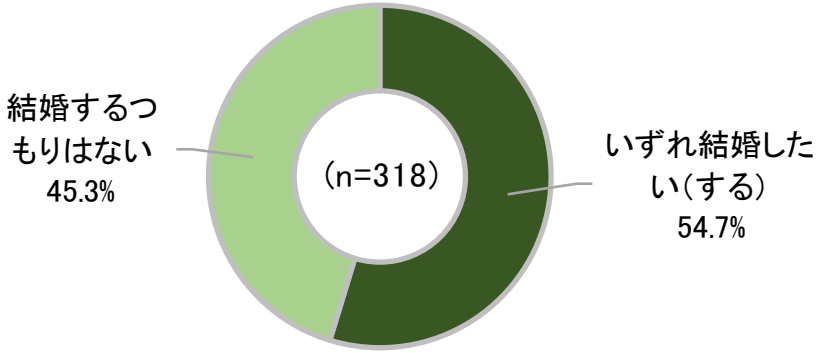
問38　結婚の経験の有無

	度数（人）	割合（%）
結婚している	753	69.1
結婚したことはない	235	21.6
結婚の経験はあるが離別・死別した	102	9.4
合計	1,090	100.0



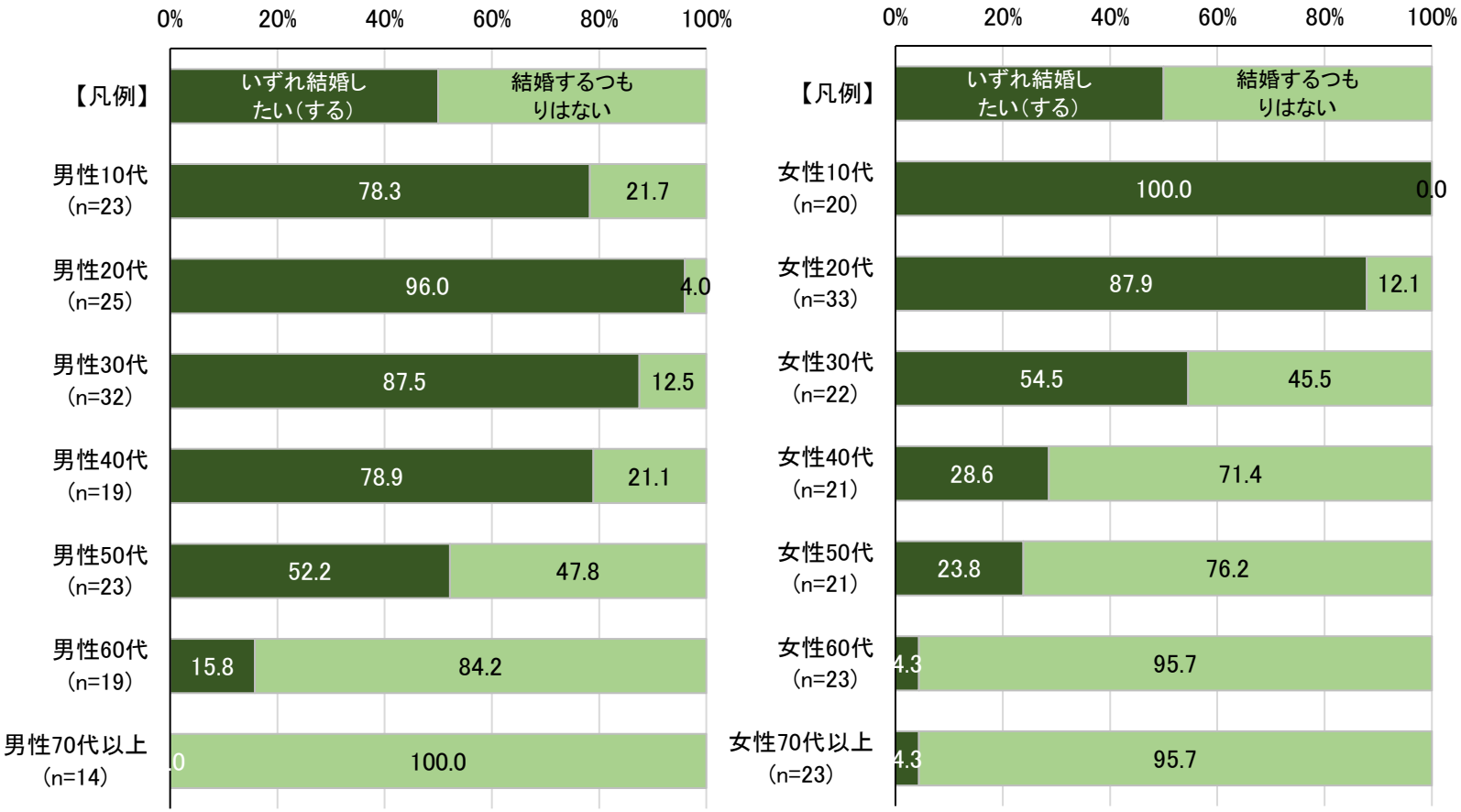
問39-1　今後の結婚に対する考え
※現在結婚している人以外が回答
※次ページ以降にクロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
いずれ結婚したい（する）	174	54.7
結婚するつもりはない	144	45.3
合計	318	100.0



- 男女別・年代別に今後の結婚に対する考えを見ると、50代以下では男性は年代によらず「いずれ結婚したい（する）」と考えている人が多いが、女性は10代～20代では「いずれ結婚したい（する）」の割合が多いものの、30代以上では「結婚するつもりはない」の割合が高くなっている。

男女別・年代別　今後の結婚に対する考え

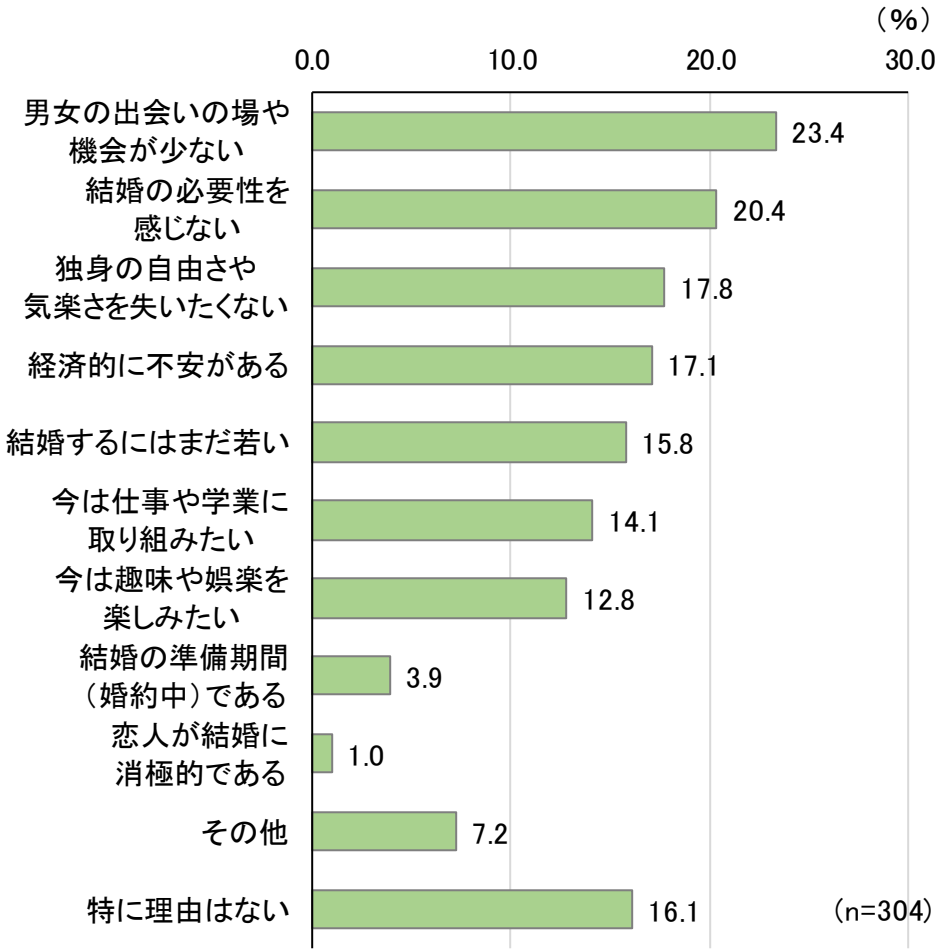


②現在結婚していない理由

- 結婚していない理由としては、「男女の出会いの場や機会が少ない」と回答した人が23.4%で最も多く、ついで「結婚の必要性を感じない」「独身の自由さや気楽さを失いたくない」が多くなっている。

問39-2　現在、結婚していない理由（複数回答）

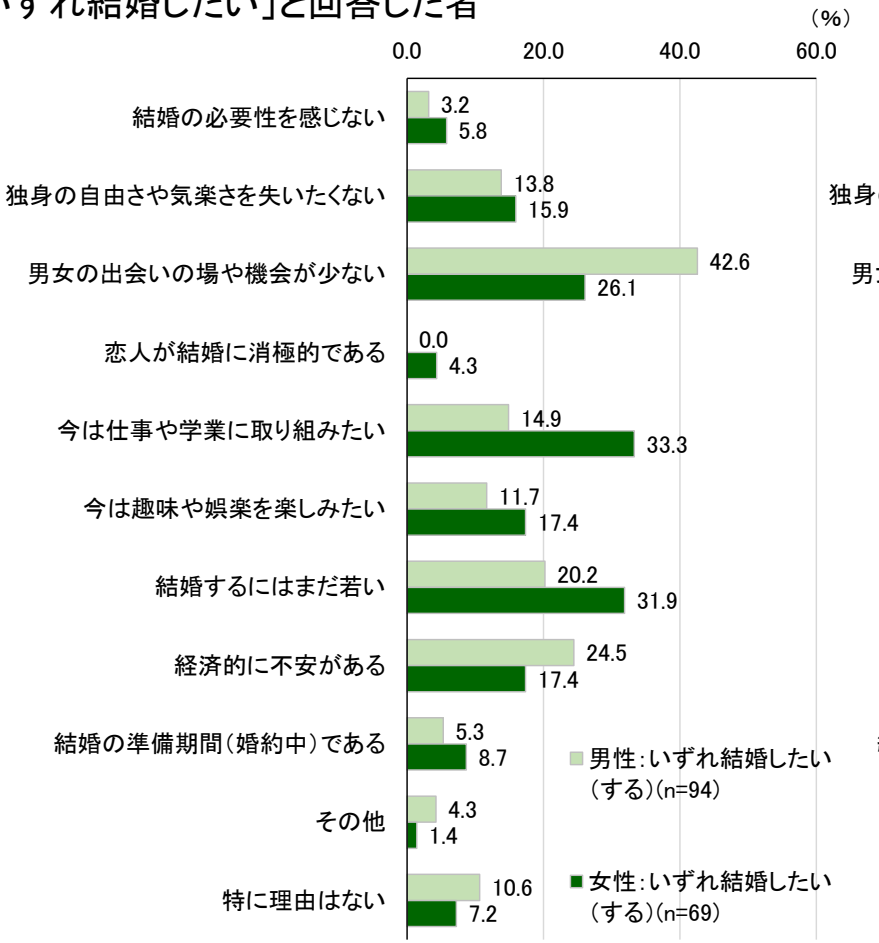
	度数（人）	割合（%）
男女の出会いの場や機会が少ない	71	23.4
結婚の必要性を感じない	62	20.4
独身の自由さや気楽さを失いたくない	54	17.8
経済的に不安がある	52	17.1
結婚するにはまだ若い	48	15.8
今は仕事や学業に取り組みたい	43	14.1
今は趣味や娯楽を楽しみたい	39	12.8
結婚の準備期間（婚約中）である	12	3.9
恋人が結婚に消極的である	3	1.0
その他	22	7.2
特に理由はない	49	16.1
回答数	304	



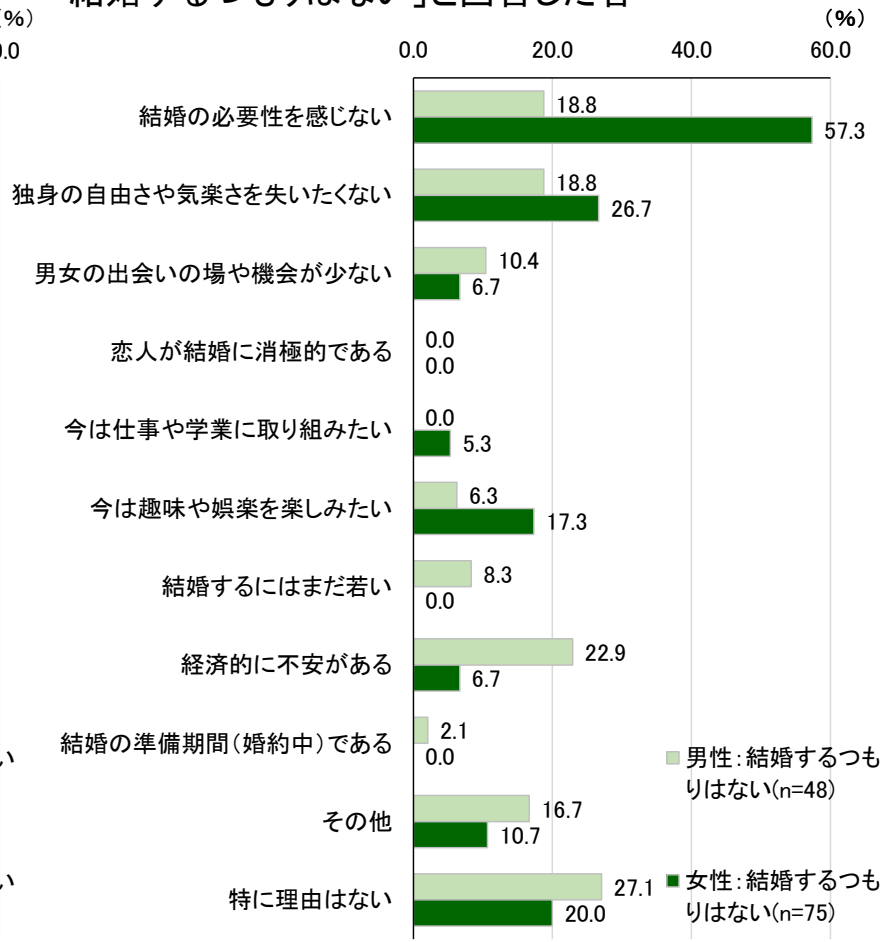
- 「いずれ結婚したい」と回答した男性の結婚していない理由としては、「男女の出会いの場が少ない」が42.6%と最も多くなっている。ついで、「経済的に不安がある」が多い。
- 「いずれ結婚したい」と回答した女性の結婚していない理由としては、「今は仕事や学業に取組みたい」が33.3%と最も多く、ついで「結婚するにはまだ若い」が多い。

男女別・結婚意向別　現在、結婚していない理由

「いずれ結婚したい」と回答した者



「結婚するつもりはない」と回答した者



6. 基本目標Ⅲ【地域経済創造コミュニティ】の状況

（1）買い物・住まいの状況について

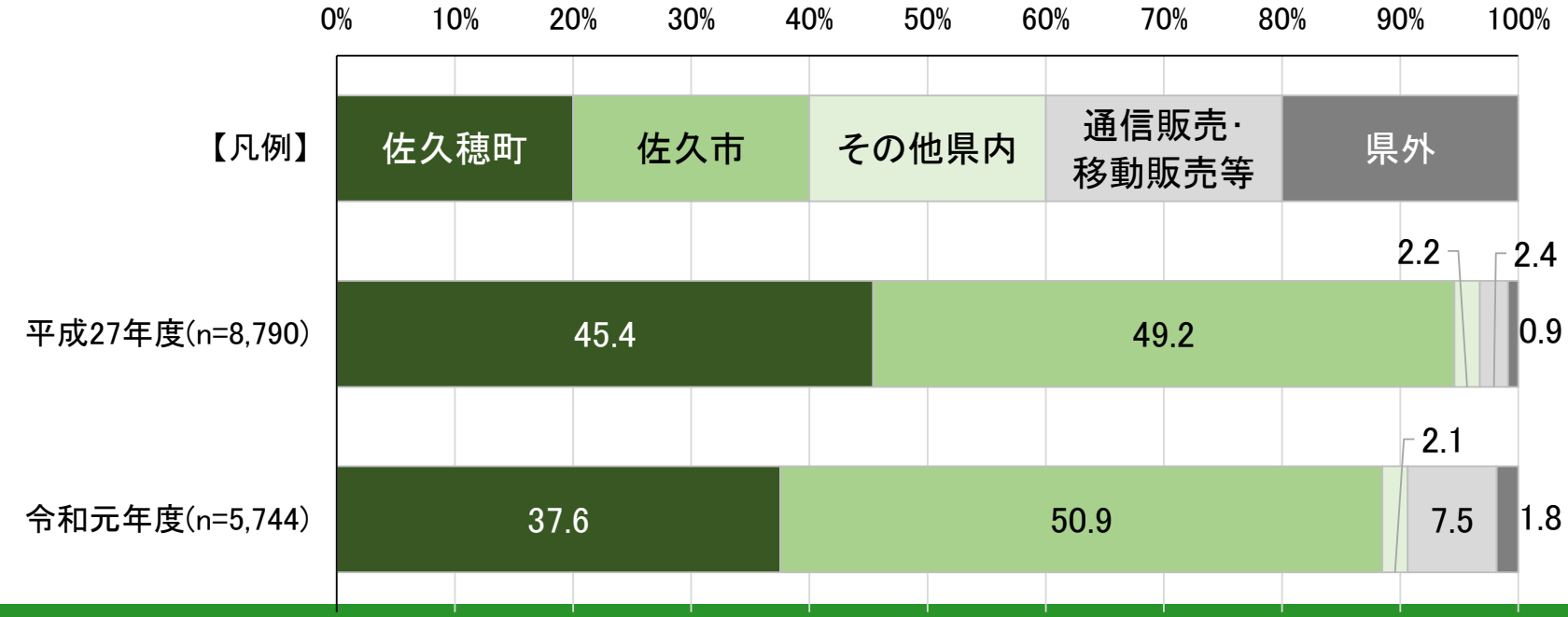
①主に買い物をする場所

数値目標 **主に町内で買い物する家庭の割合**

- 主に買い物する場所が町内の人の割合は低下している。一方で、インターネットの普及などから通信販売等の割合が増加している。

指標	施策	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
主に町内で買い物する家庭の割合	数値目標	45.4%	50.0%	37.6%	未達成

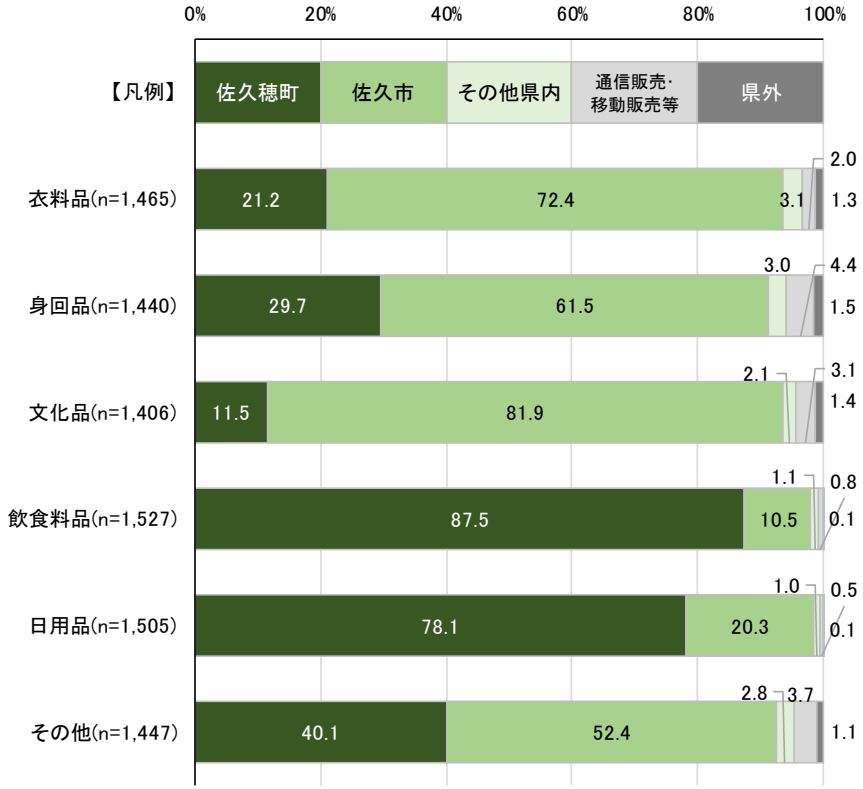
問14　主に買い物する場所



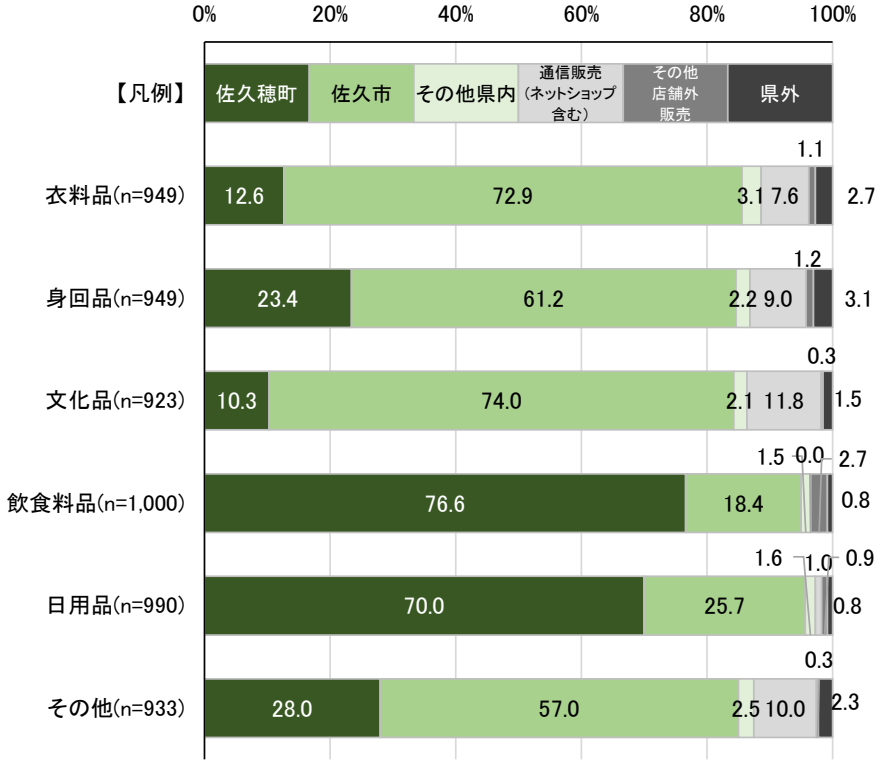
- 品目別に、主に買い物する場所を平成27年度と比較すると、全品目で、佐久穂町内で主に買い物する割合が低下している。
- 衣料品・身回品・文化品については、通信販売の利用が増加しており、飲食料品・日用品については、佐久市の割合が増加している。

品目別　主に買い物する場所

平成27年度結果

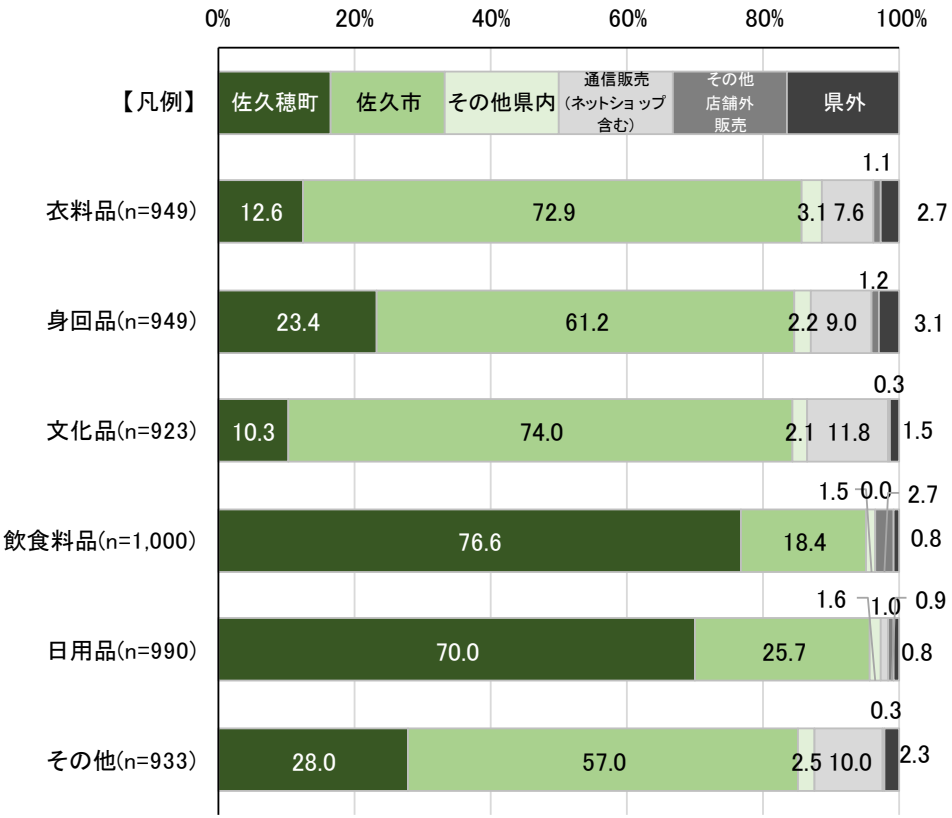


令和元年度結果

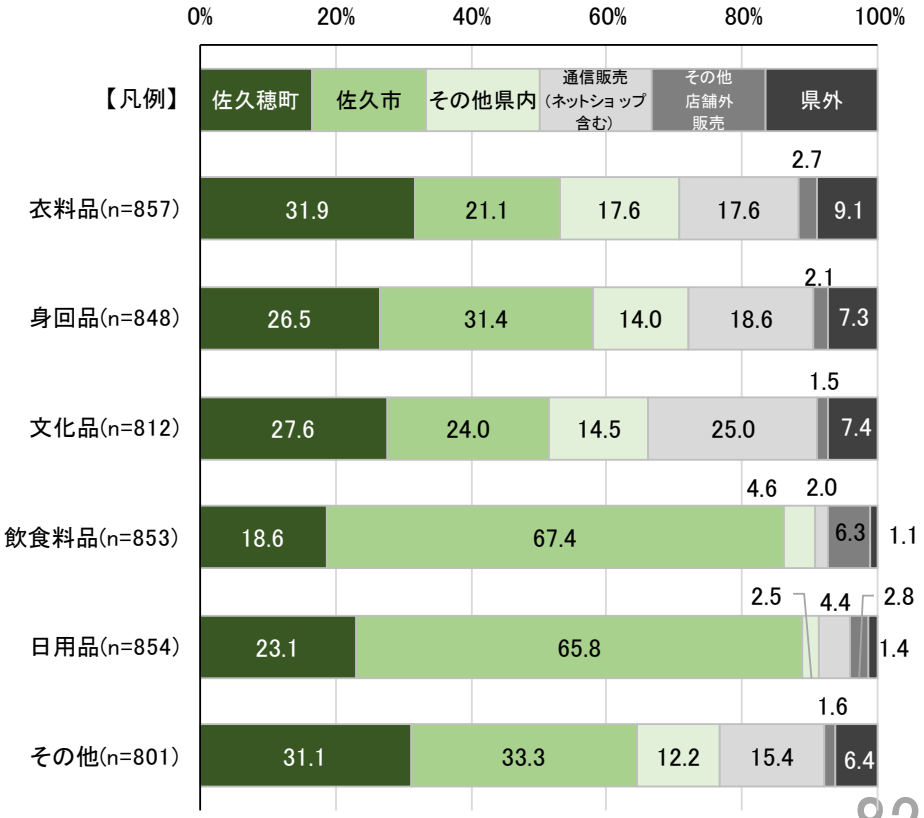


- 衣料品・身回品・文化品は、主に佐久市で購入し、佐久穂町内では時々購入する傾向にある。
- 飲食料品・日用品は主に佐久穂町内で買い物をする割合が高い。

問14　品目別　主な買い物場所
※次ページ以降に過年度比較あり



問14　品目別　時々買い物する場所



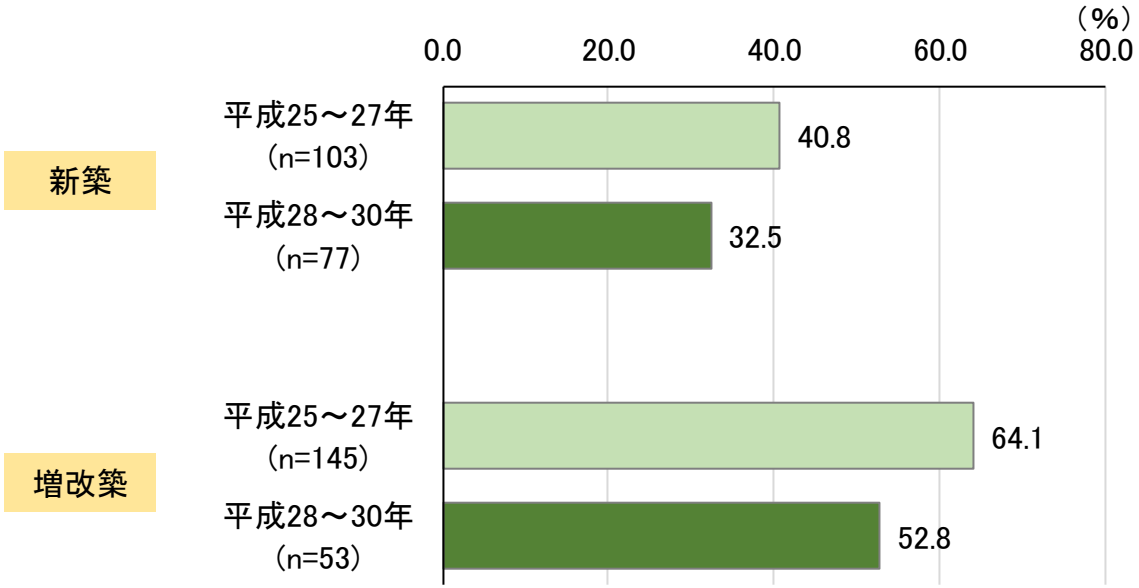
②住宅の購入・リフォームの際の発注先

数値目標　過去3年間の住宅の購入・リフォームの際の町内への発注棟数

- 新築・増改築ともに町内の工務店への発注件数の割合は低下している。

指標	施策	基準値（H25-H27）	目標値（H28-H30）	実績値（H28-H30）	評価
過去3年間の住宅の購入・リフォームの際の町内への発注棟数	数値目標	①購入（新築）：42棟（40.8%） ②リフォーム（増改築）：93棟（64.1%）	①51棟 ②基準値以上	①25棟（32.5%） ②28棟（52.8%）	①未達成 ②未達成

問16、17　過去3年間の新築または増改築をした方のうち、施工依頼先が町内の工務店だった方の割合

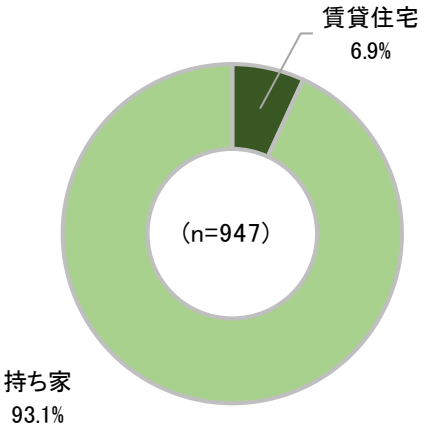


※「新築」は家屋調査、「増改築」は今回のアンケート調査の数値を使用

- 回答者の93.1%が持ち家に住んでいる。
- 町内の工務店への施工依頼を見ると、新築は39.7%、増改築は52.8%となっており、増改築の方が町内の工務店を利用する割合が高い。

問15　現在の住まいの形態

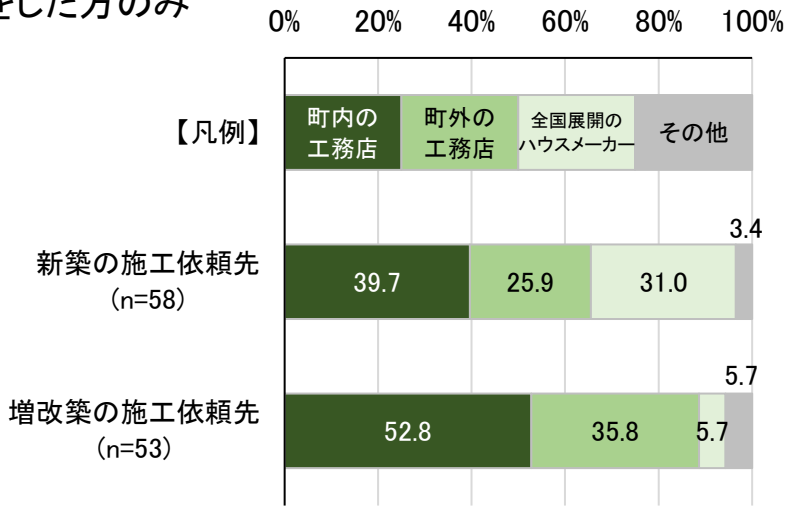
	度数（人）	割合（%）
賃貸住宅	65	6.9
持ち家	882	93.1
合計	947	100.0



問16・17　新築・増改築の施工依頼先

※問15で「持ち家」を回答し、3年以内に新築または増改築をした方のみ

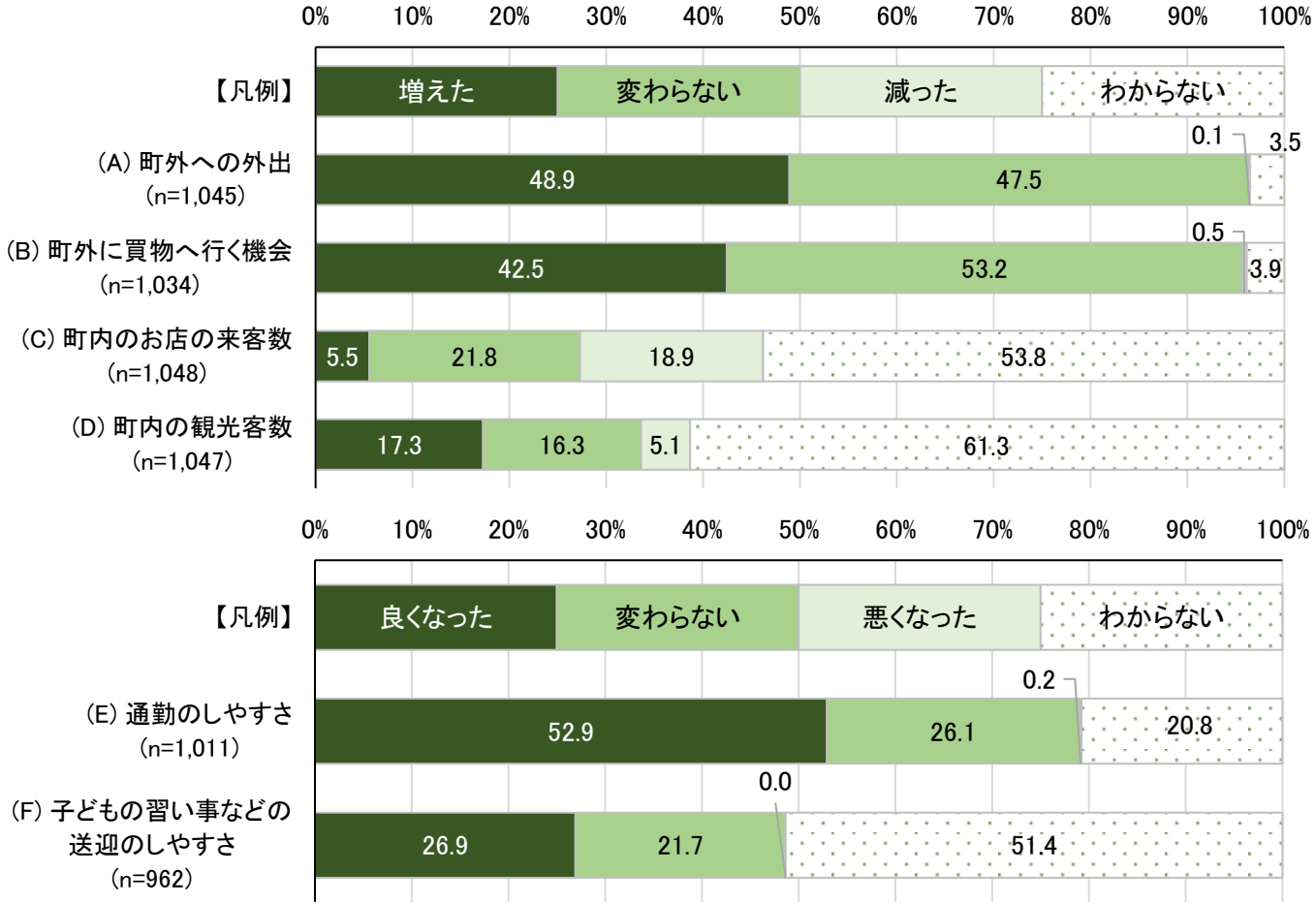
		町内の工務店	町外の工務店	全国展開のハウスメーカー	その他	合計
新築の施工依頼先	度数（人）	23	15	18	2	58
	割合（%）	39.7	25.9	31.0	3.4	100.0
増改築の施工依頼先	度数（人）	28	19	3	3	53
	割合（%）	52.8	35.8	5.7	5.7	100.0



③高速道路が開通したことによる変化

- 高速道路が開通したことによる変化について、「町外への外出」「町外に買物へ行く機会」は4割以上が「増えた」と回答しているのに対し、「町内のお店の来客数」「町内の観光客数」が増えたと回答した割合は低い。
- 「通勤のしやすさ」「子どもの習い事などの送迎のしやすさ」については約半数が「良くなった」と回答している。

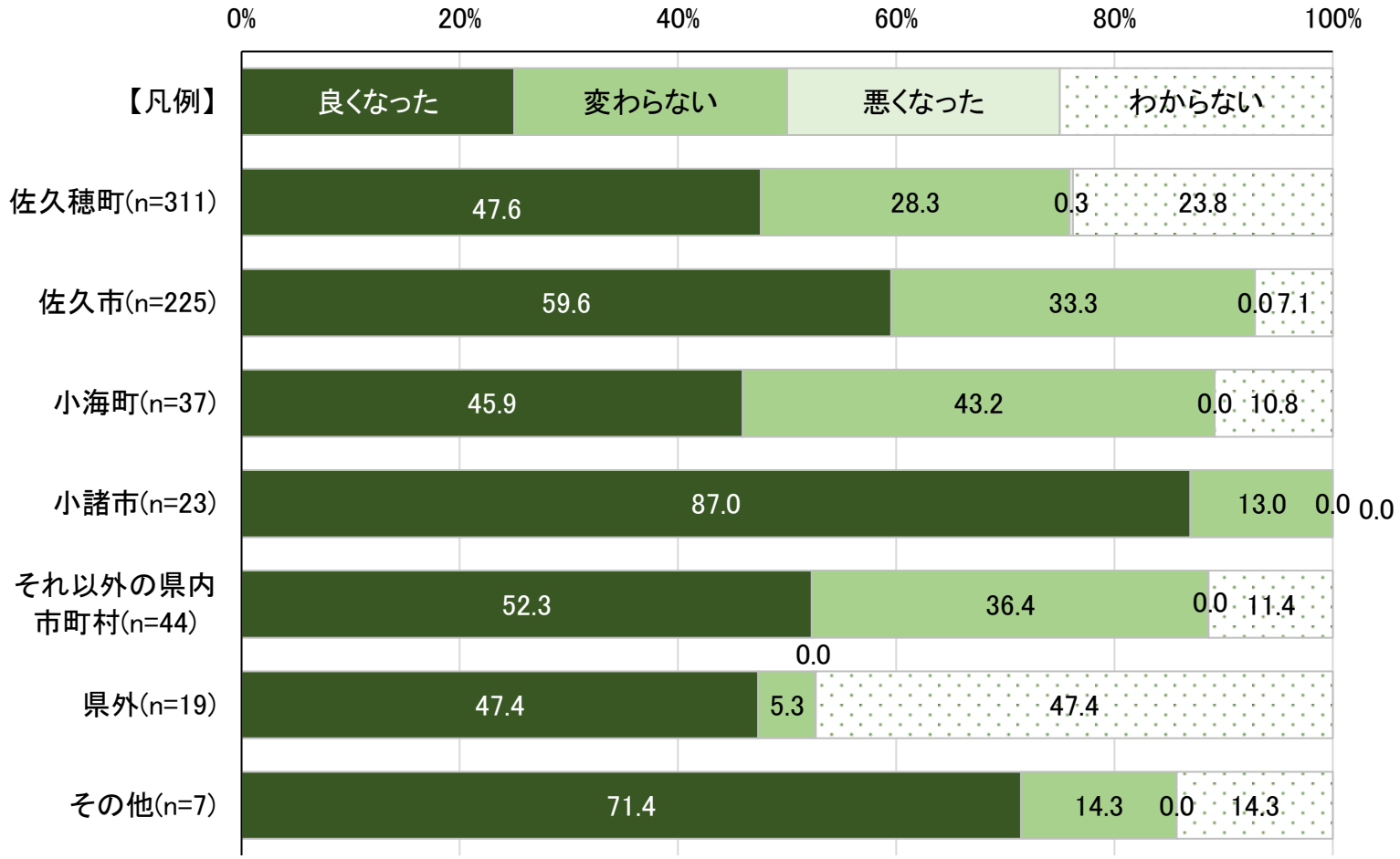
問51　高速道路が開通したことによる変化



その他の変化	回答数
利便性向上	38
渋滞・騒音改善	23
渋滞・騒音悪化	11
経済後退	8
利用していない	5
その他良い変化あり	4
マナー悪化	3
その他	2

- 通勤・通学先別に、高速道路が開通したことによる変化を見ると、「小諸市」に通勤・通学する人で87.0%が、「佐久市」で59.6%が「良くなった」と回答しており、佐久穂町に通勤・通学する人よりも良さを実感している傾向にある。

通勤・通学先別　高速道路による通勤しやすさの変化



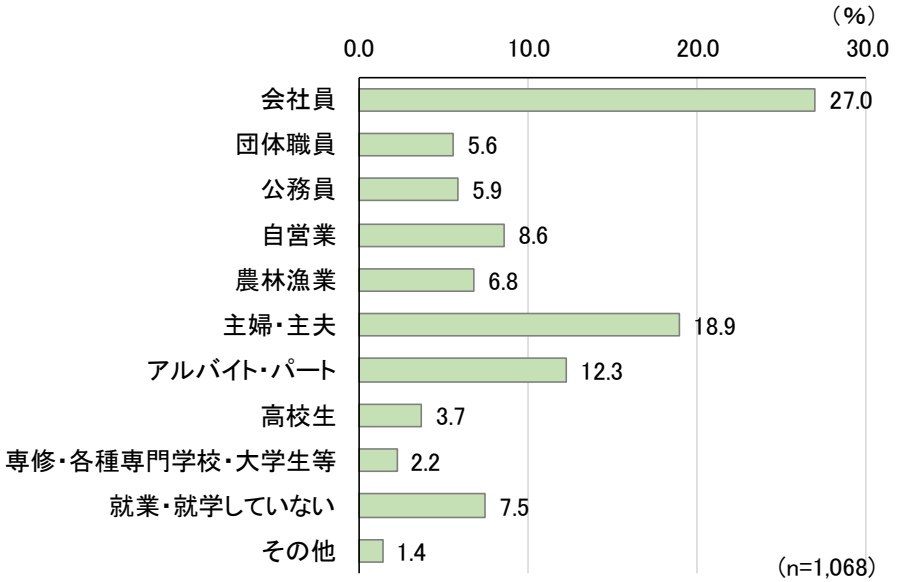
（2）仕事・学業や働き方などについて

①回答者の職業/雇用形態

- 回答者の職業は「会社員」が27.0%で最も多く、ついで「主婦・主夫」、「アルバイト・パート」が多い。
- 「会社員」「団体職員」「公務員」と答えた回答者のうち、78.5%が「正社員」である

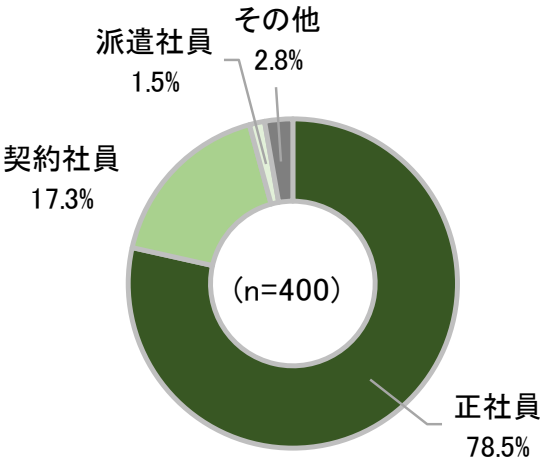
問8　回答者の職業

	度数（人）	割合（%）
会社員	288	27.0
団体職員	60	5.6
公務員	63	5.9
自営業	92	8.6
農林漁業	73	6.8
主婦・主夫	202	18.9
アルバイト・パート	131	12.3
高校生	40	3.7
専修・各種専門学校・大学生等	24	2.2
就業・就学していない	80	7.5
その他	15	1.4
合計	1,068	100.0



問8　回答者の雇用形態
※問8で「会社員」「団体職員」「公務員」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
正社員	314	78.5
契約社員	69	17.3
派遣社員	6	1.5
その他	11	2.8
合計	400	100.0

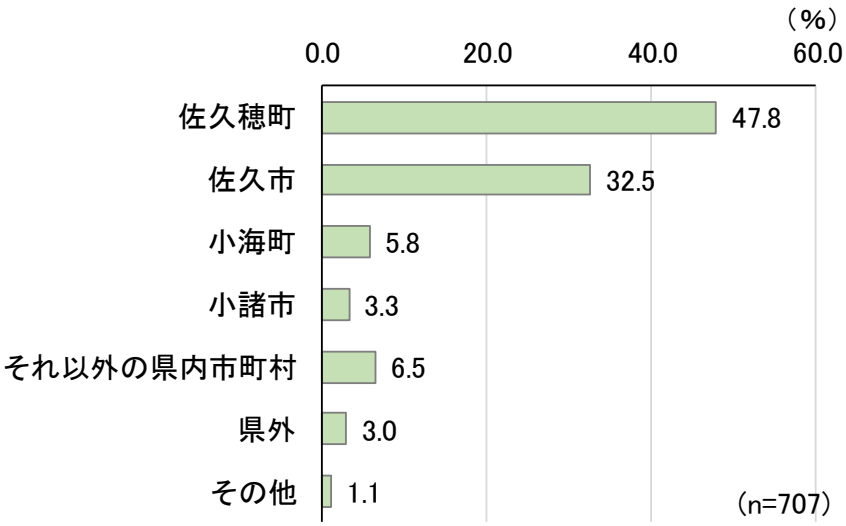


②回答者の通勤・通学先/町内企業の求人情報の認知度

- 就業・就学している回答者のうち、「佐久穂町」に通勤・通学している人が47.8%で最も多く、ついで「佐久市」が32.5%である。
- 町内企業が出している求人情報についての認知度は、「全く知らない」と「あまり知らない」を合わせた割合は81.8%となっており、町内の求人情報はあまり知られていない状況である。

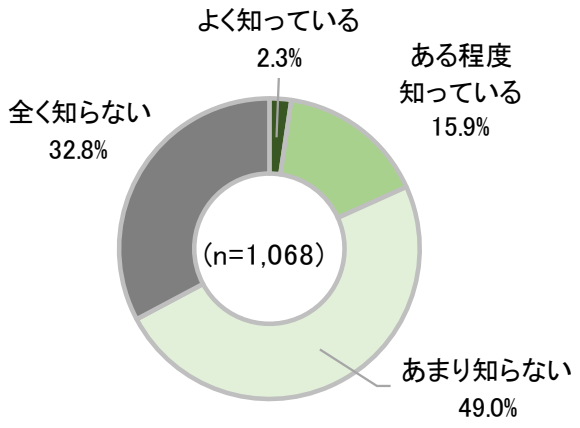
問10　回答者の通勤・通学先
※就業・就学している方のみ
※次ページに年代別クロス集計結果あり

	度数（人）	割合（%）
佐久穂町	338	47.8
佐久市	230	32.5
小海町	41	5.8
小諸市	23	3.3
それ以外の県内市町村	46	6.5
県外	21	3.0
その他	8	1.1
合計	707	100.0



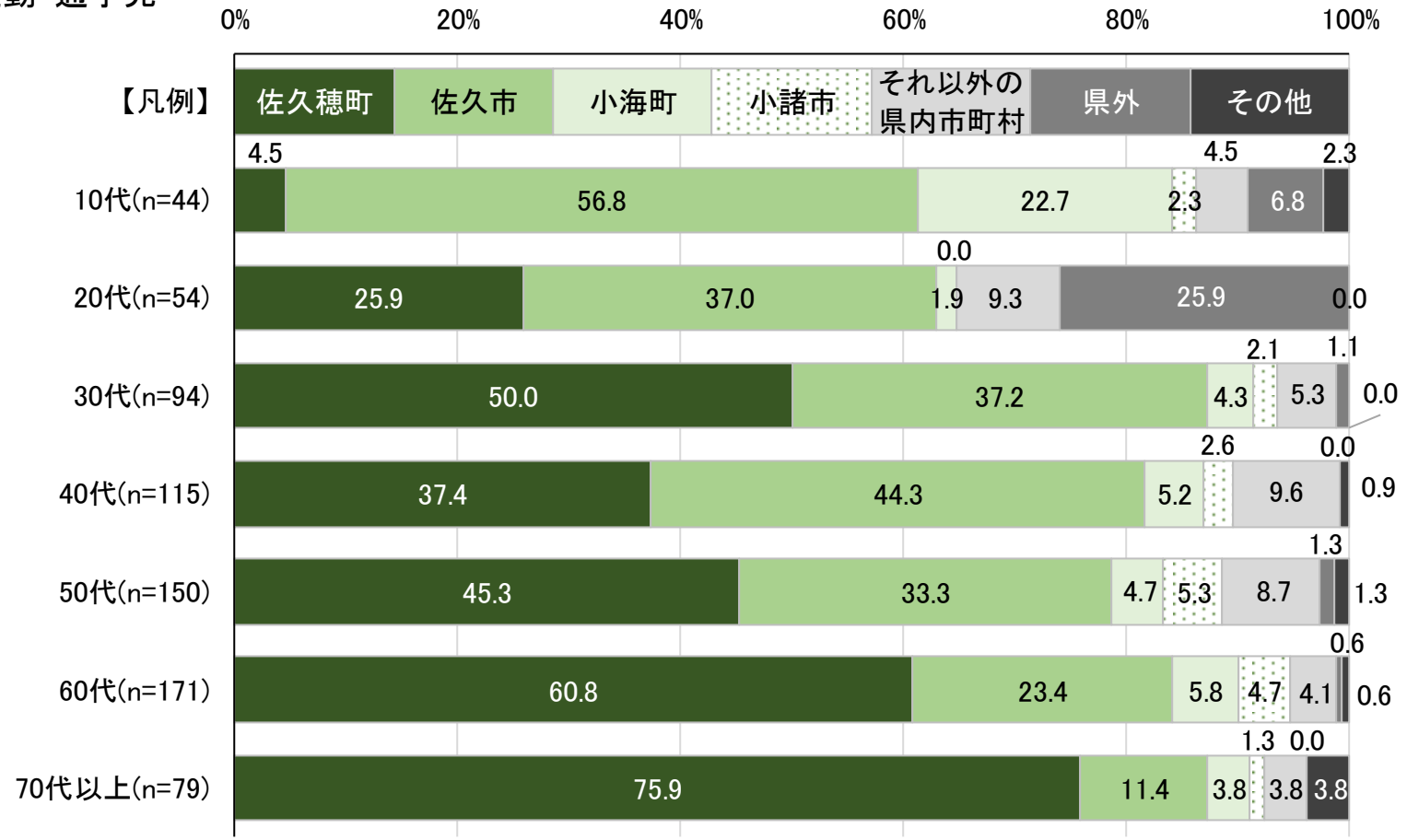
問11　町内の企業が出している求人情報に関する認知度

	度数（人）	割合（%）
よく知っている	25	2.3
ある程度知っている	170	15.9
あまり知らない	523	49.0
全く知らない	350	32.8
合計	1,068	100.0



- 通勤・通学先を年代別に見ると、30代を除いて、年代が上がるほど通勤・通学先が「佐久穂町」である割合が高くなる。
- 30代の50.0%が「佐久穂町」に通勤・通学をしているのに対して、40代では37.4%となっている。

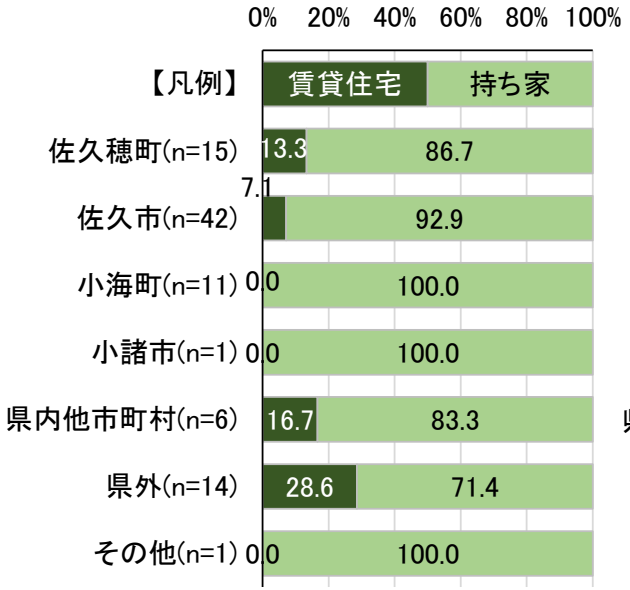
年代別　通勤・通学先



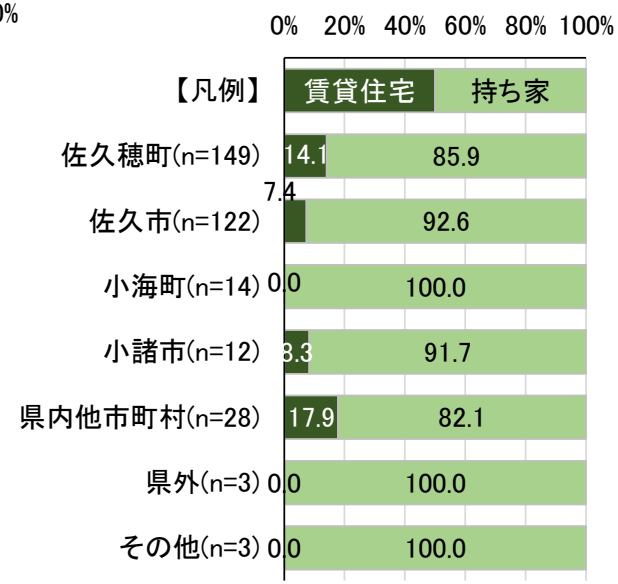
- 年代別・住居形態別に通勤・通学先を見ると、10代～20代では「県外」に通勤・通学する人で「賃貸住宅」の割合が28.6%と最も高い。「佐久穂町」「佐久市」に通勤・通学する人の約1割が「賃貸住宅」である。
- 30代～50代では「佐久穂町」「佐久市」「小諸市」に通勤・通学する人の約1割が「賃貸住宅」である。

年代別・住居形態別　通勤・通学先

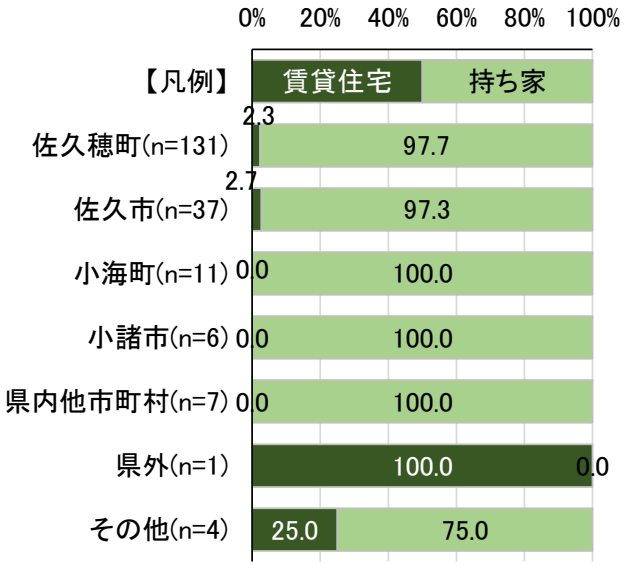
10～20代



30～50代

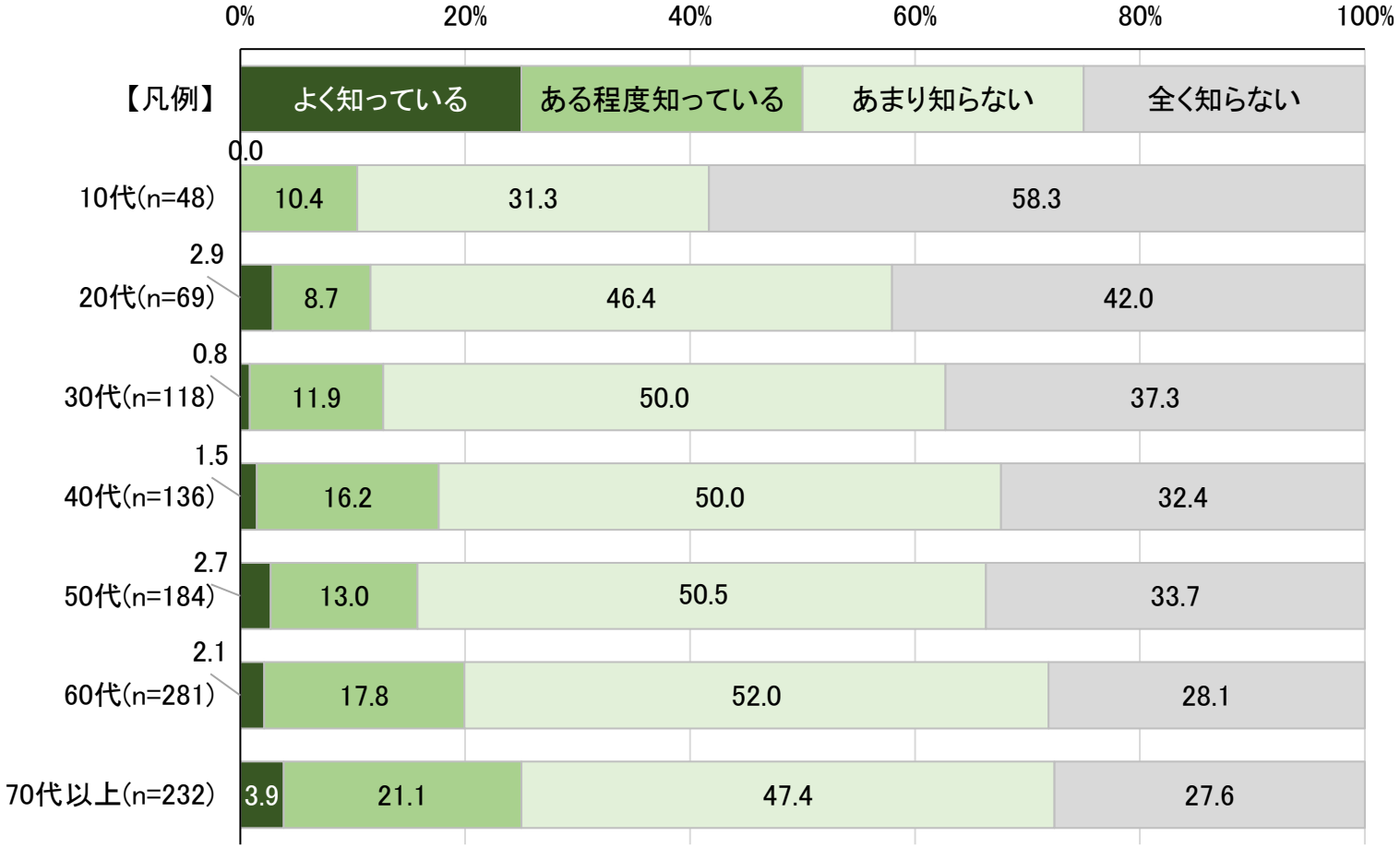


60代以上



- 年代別に町内企業の求人情報の認知度を見ると、「全く知らない」の割合は10代で最も高く、50%を超えており、年代が高くなるにつれて低下する傾向にあるものの、全年代で「あまり知らない」「全く知らない」の比率が高い。

年代別　町内企業の求人情報の認知度

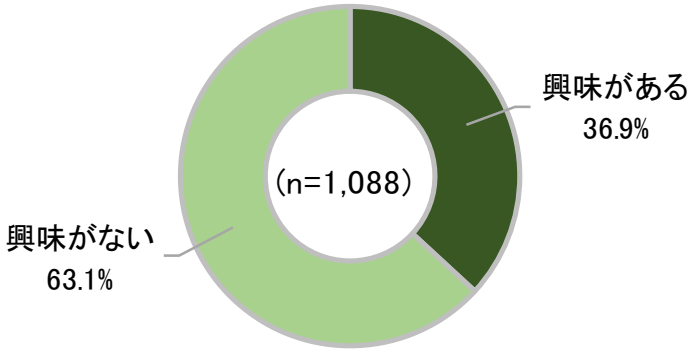


③町内企業の求人情報に対する興味/テレワーク等への興味

- 町内企業の求人情報に「興味がある」と回答した人の割合は36.9%であり、興味がない人の方が多い。
- テレワーク等場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を「初めてみたい」と回答したのは30.3%となっており、6割以上の人は「始めるつもりはない」としている。

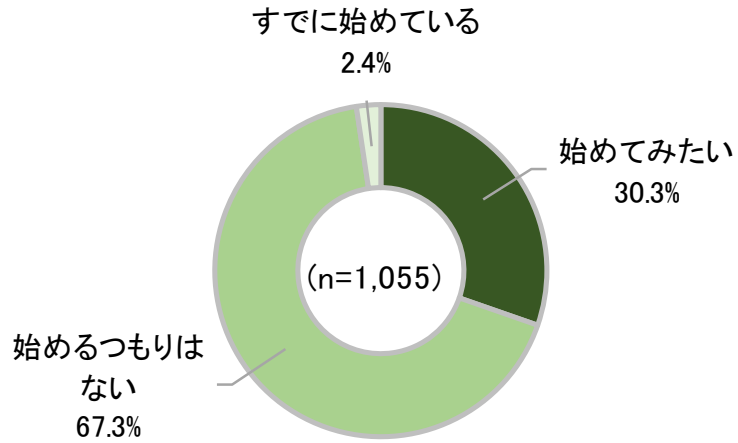
問12　町内の求人情報に対する興味の有無
※次ページに年代別クロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
興味がある	401	36.9
興味がない	687	63.1
合計	1,088	100.0



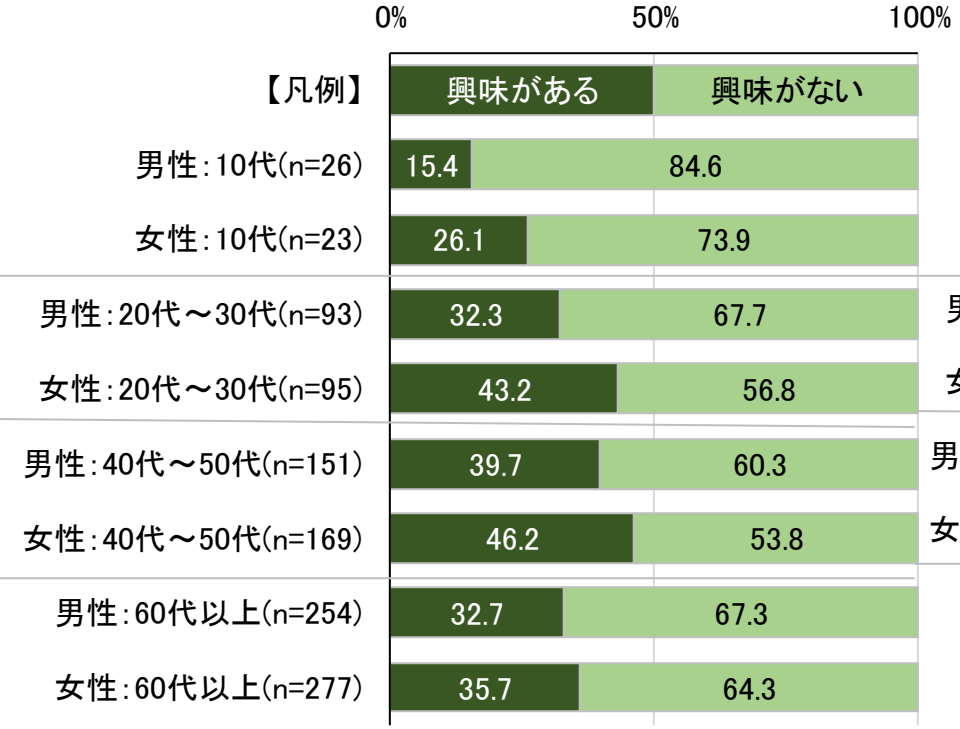
問13 テレワーク等場所や時間にとらわれない柔軟な働き方をしたいか
※次ページに年代別クロス集計あり

	度数（人）	割合（%）
始めてみたい	320	30.3
始めるつもりはない	710	67.3
すでに始めている	25	2.4
合計	1,055	100.0

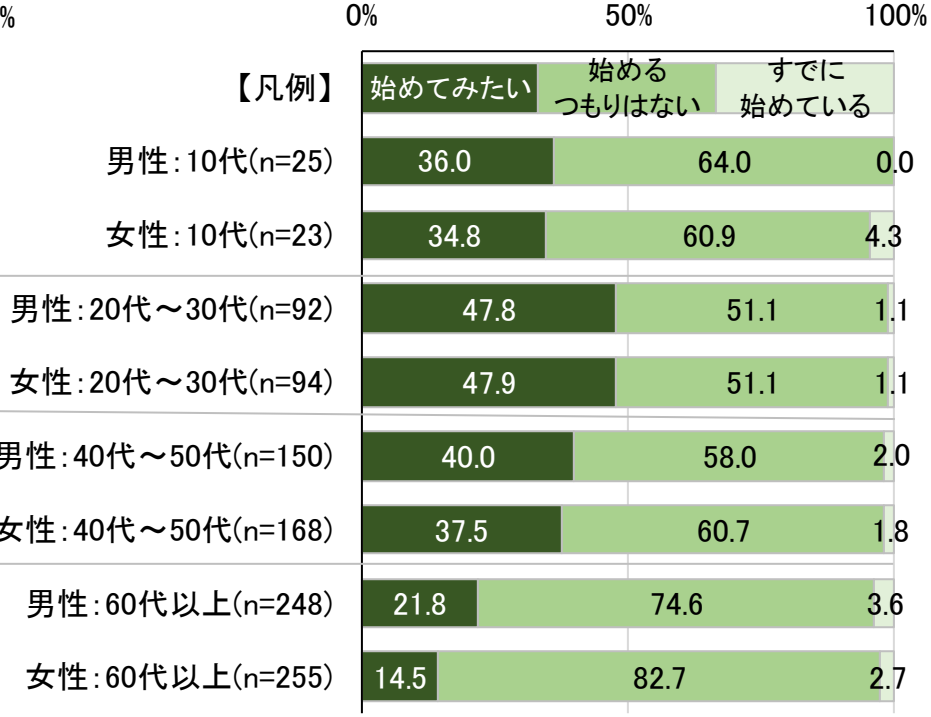


- 男女別に、町内の求人情報に対する興味を見ると、わずかに女性の方が高い傾向にあり、特に20代～50代で高くなっている。
- テレワーク等に対する興味は20～30代で最も高い。60代以上を除くと、男女で大きな傾向の差は見られない。

男女別・年代別　町内の求人情報に対する興味の有無



男女別・年代別　テレワーク等場所や時間にとらわれない柔軟な働き方をしたいか



7. 基本目標Ⅰ Ⅱ Ⅲ横断
コミュニティを下支えする基盤の状況

（1） 地区活動やグループでの活動について

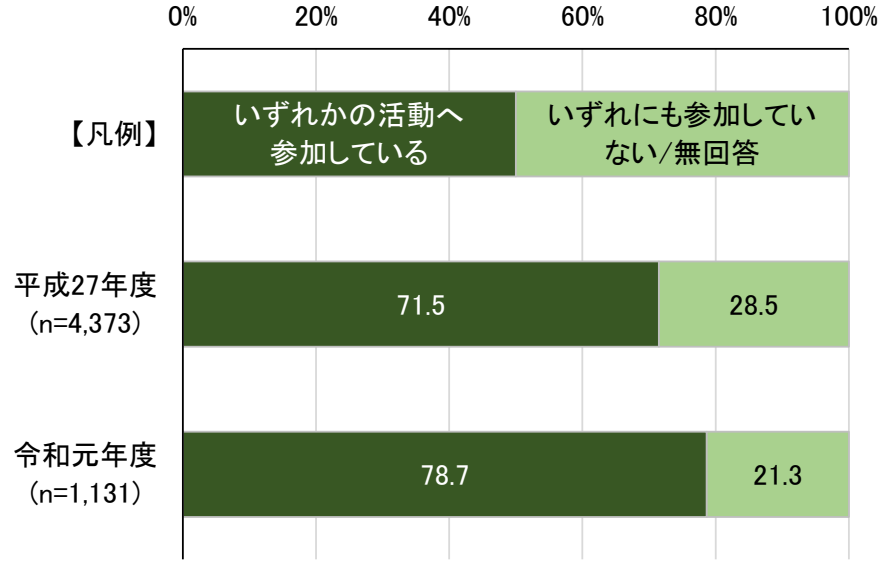
数値目標 コミュニティ活性度に係る指数

- いずれかの地区活動や地区以外のグループの活動に参加する人の割合は増加している。
- １人当たりの所属するコミュニティ（地区活動または地区以外のグループ活動）の数は増加している。

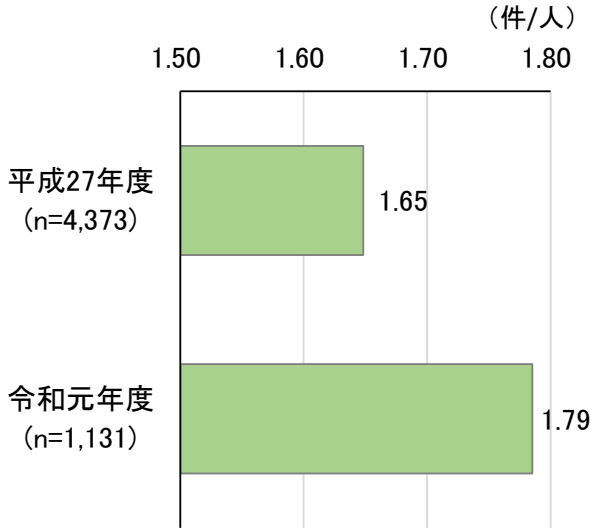
指標	施策	基準値（H27）	目標値（H31）	実績値（R1）	評価
コミュニティ活性度に係る指数	数値目標	①コミュニティに属する人数割合：71.5% ②１人当たり所属するコミュニティ数：1.65件／人	①基準値以上 ②基準値以上	①78.7% ②1.79件／人	①達成 ②達成

問24　参加している地区活動、問27　地区活動以外のグループ活動

・コミュニティに属する人数の割合



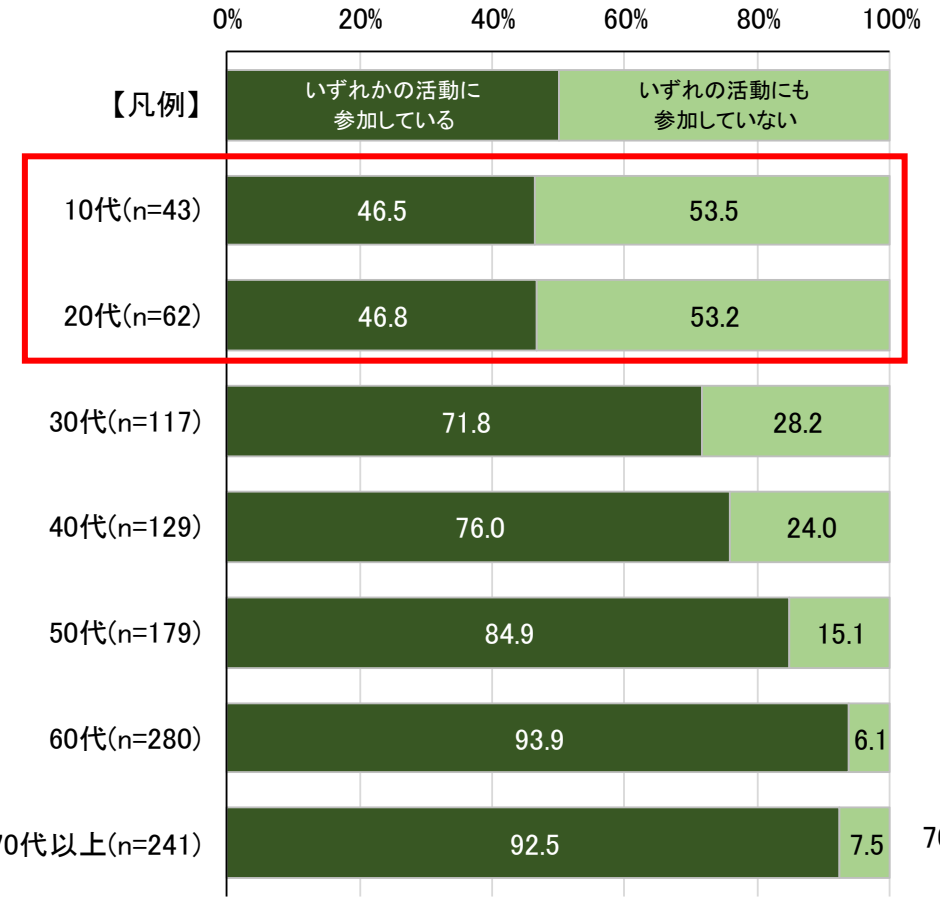
・1人当たりの所属するコミュニティ数



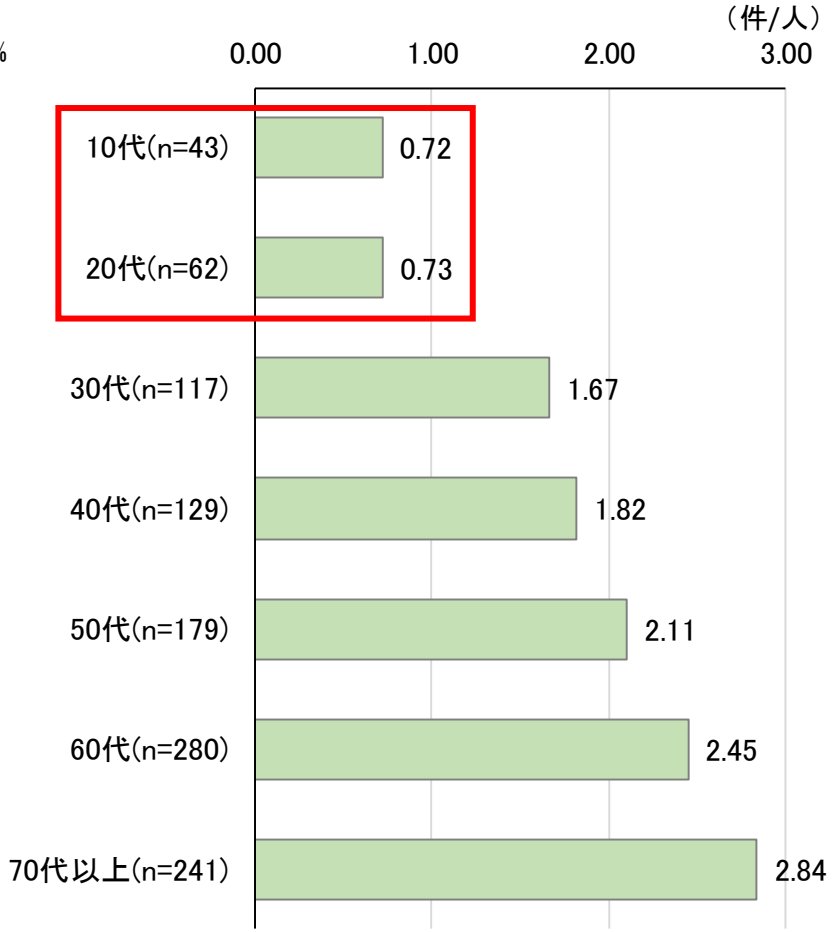
※地区活動、地区活動以外のグループ活動のいずれかに参加しているか、どうかで分類している。
●地区活動：常会・区活動、常会役員、分館活動、青年部、女性部、高齢者クラブ、消防団、児童会・育成会、その他の地区活動
●地区活動以外のグループ活動：スポーツ、趣味・娯楽、ボランティア、NPO、無尽、その他

- 年代が低くなるほど、いずれのコミュニティにも属さない人が多くなる。特に10代、20代は50%以上がいずれのコミュニティにも属していない。
- 年代が低くなるほど所属するコミュニティの数が少なくなる傾向にある。50代以上では常会等を中心に、所属するコミュニティ数が1人につき2つ以上となっている。

・コミュニティに属する人数の割合（年代別）



・1人当たりの所属するコミュニティ数（年代別）

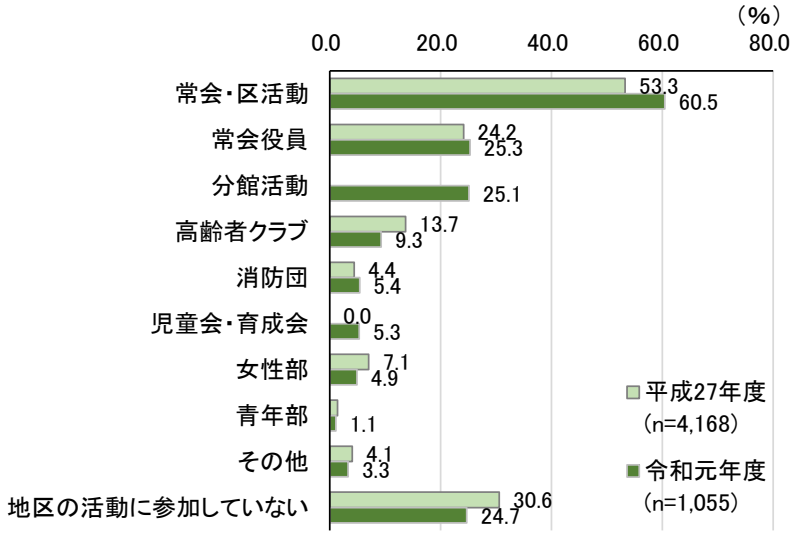


②地区活動の参加状況/参加している活動の有無

- 回答者の60.5%が「常会・区活動」に参加しており、平成27年度から参加率は増加している。
- 「地区の活動に参加していない」と回答した人の割合は平成27年度から減少している。
- いずれかの地区の活動に「参加している」と回答した人のうち、63.6%が「地区に住む者の義務だから」を参加する理由に挙げている。

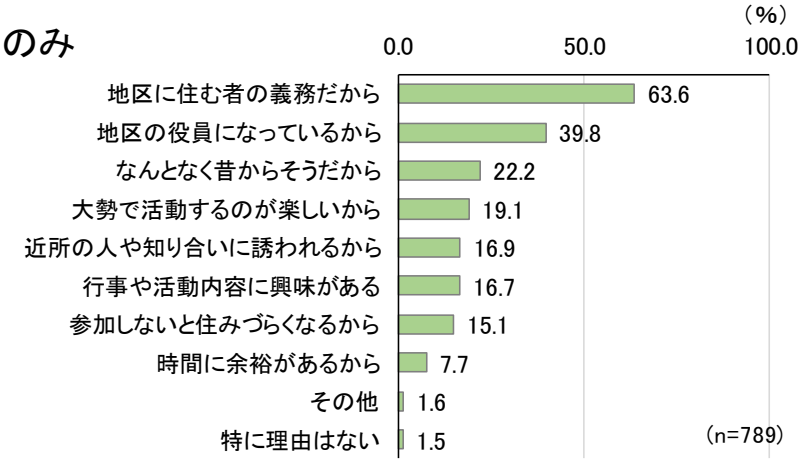
問24　参加している地区活動（複数回答）
※次ページ以降に年代別クロス集計あり

	平成27年度		令和元年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
常会・区活動	2,222	53.3	638	60.5
常会役員	1,008	24.2	267	25.3
分館活動	−	−	265	25.1
高齢者クラブ	571	13.7	98	9.3
消防団	185	4.4	57	5.4
児童会・育成会	−	−	56	5.3
女性部	294	7.1	52	4.9
青年部	59	1.4	12	1.1
その他	169	4.1	35	3.3
地区の活動に参加していない	1,275	30.6	261	24.7
回答数	4,168		1,055	



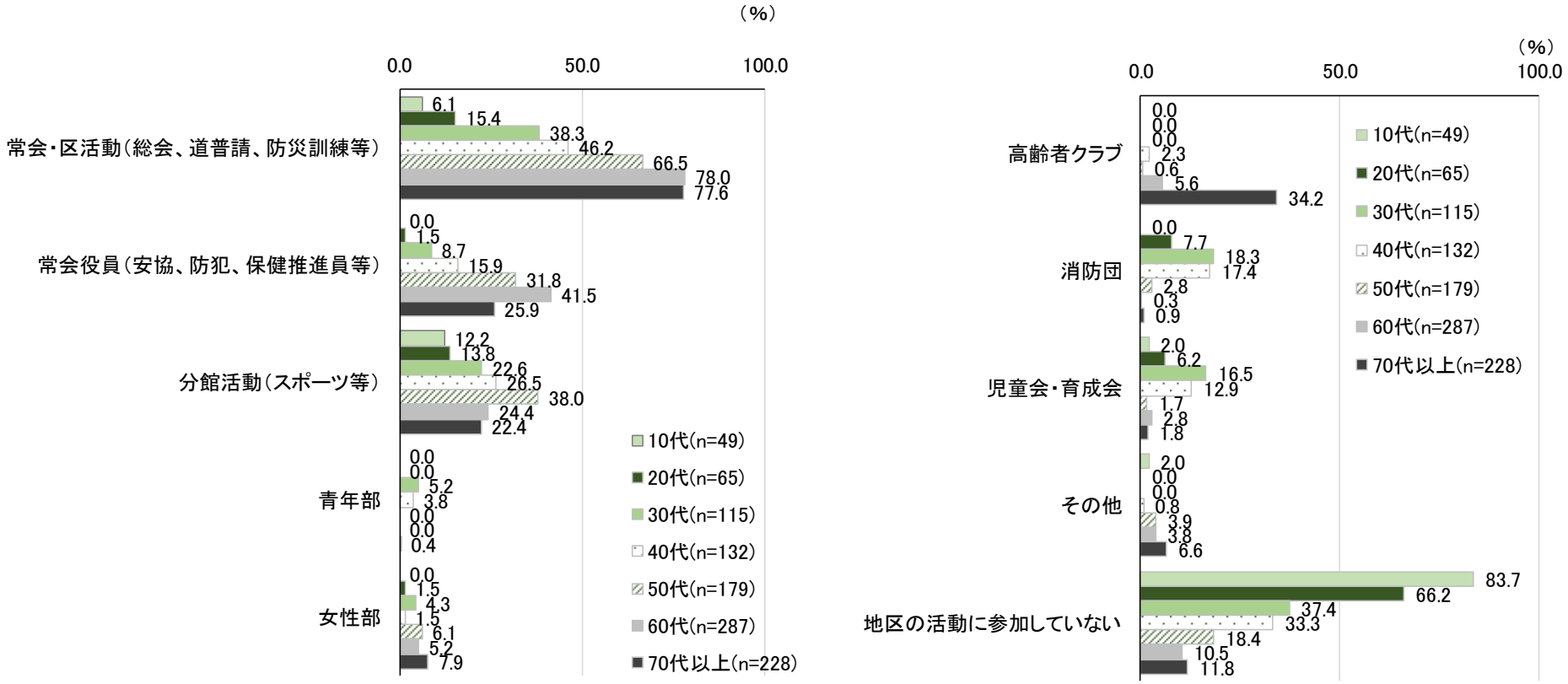
問25-1　地区活動に参加している理由（複数回答）
※問24でいずれかの活動に参加していると回答した方のみ

	度数(人)	割合(%)
地区に住む者の義務だから	502	63.6
地区の役員になっているから	314	39.8
なんとなく昔からそうだから	175	22.2
大勢で活動するのが楽しいから	151	19.1
近所の人や知り合いに誘われるから	133	16.9
行事や活動内容に興味がある	132	16.7
参加しないと住みづらくなるから	119	15.1
時間に余裕があるから	61	7.7
その他	13	1.6
特に理由はない	12	1.5
回答数	789	



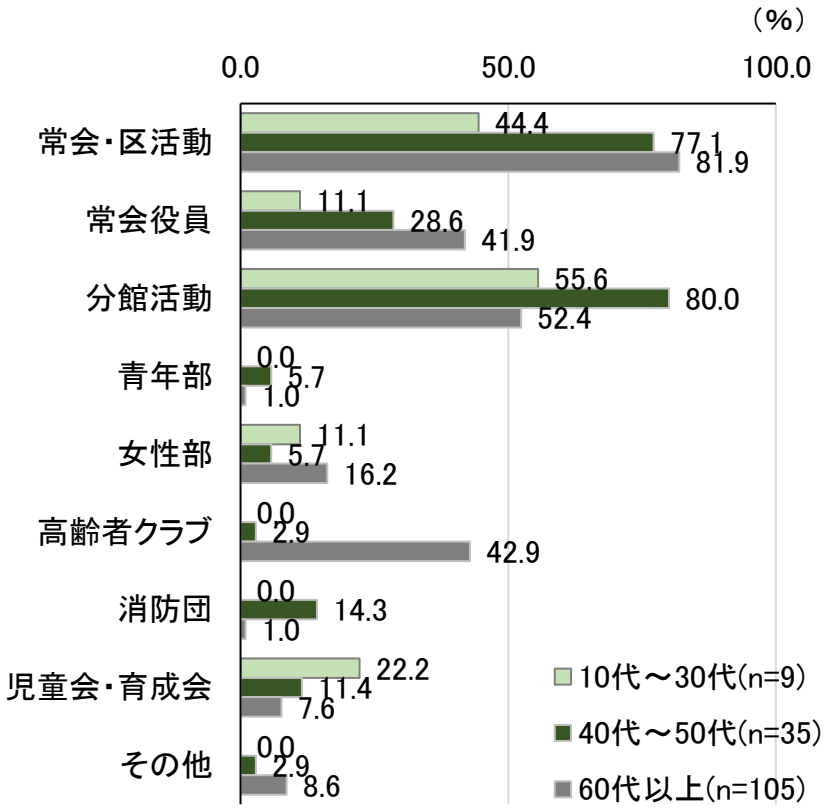
- 年代別に参加している地区活動を見ると、「常会・区活動」は年代が上がるほど、参加している人の割合が高い。
- 「地区の活動に参加していない」と回答した人の割合は、10代で83.7%と最も高くなっており、年代が上がるにつれて、いずれかの地区の活動に参加する人が多くなる傾向が見られる。若い年代では地区の活動で出番が少ないことが影響していると考えられる。

年代別　参加している地区活動



- 年代別・参加している地区活動別に「大勢で活動するのが楽しい」を理由に参加している人の割合を見ると、どの年代でも「常会・区活動」「分館活動」で高くなっている。60代以上では、「高齢者クラブ」の割合が高い。

年代別・参加している活動別 「大勢で活動するのが楽しい」を理由に参加している割合

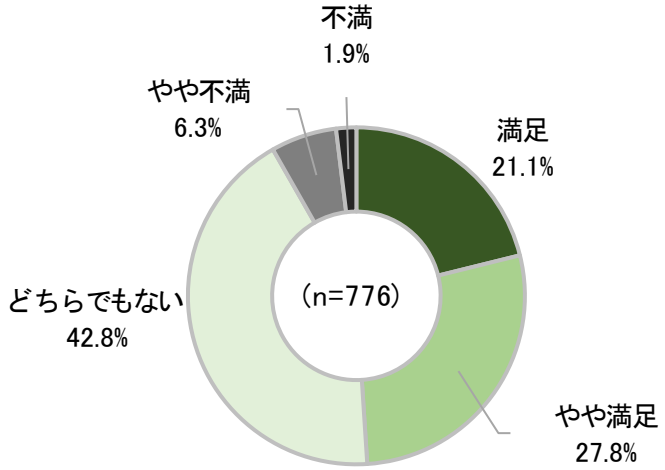


③地区活動の満足度/不満を感じる理由

- 地区のいずれかの活動に「参加している」と回答した人のうち、地区活動について、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は8.2%と少数である。
- 不満理由は、「家庭や仕事とのバランスがとれない」が44.4%と最も多く、ついで「責任が重い」「活動が楽しくない」「活動時間が長い」「活動に必要性を感じない」が多い。

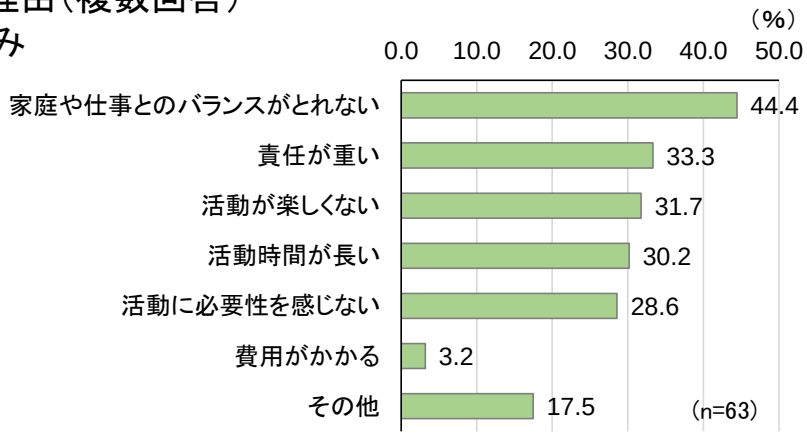
問25-2-a　参加している地区活動の満足度

	度数（人）	割合（%）
満足	164	21.1
やや満足	216	27.8
どちらでもない	332	42.8
やや不満	49	6.3
不満	15	1.9
合計	776	100.0



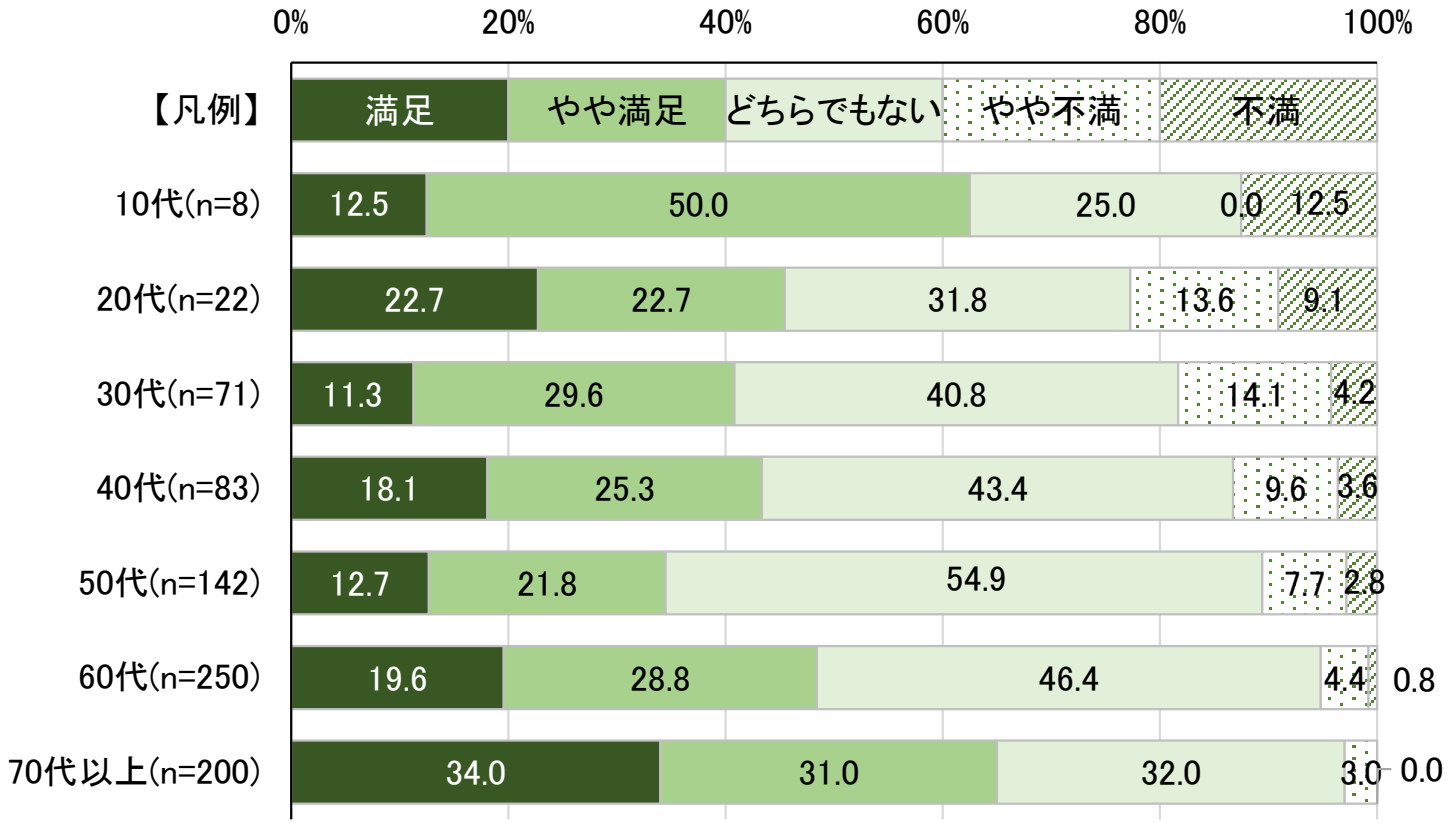
問25-2-b 参加している地区活動に不満を感じる理由（複数回答）
※問25-2-aで「やや不満」「不満」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
家庭や仕事とのバランスがとれない	28	44.4
責任が重い	21	33.3
活動が楽しくない	20	31.7
活動時間が長い	19	30.2
活動に必要性を感じない	18	28.6
費用がかかる	2	3.2
その他	11	17.5
回答数	63	



- 年代別に地区活動への満足度を見ると、「やや不満」と「不満」を合わせた割合は、20代が最も高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。
- 「満足」と「やや満足」を合わせた割合は、10代および70代以上で高く、50代で最も低くなっている。

年代別　地区活動への満足度

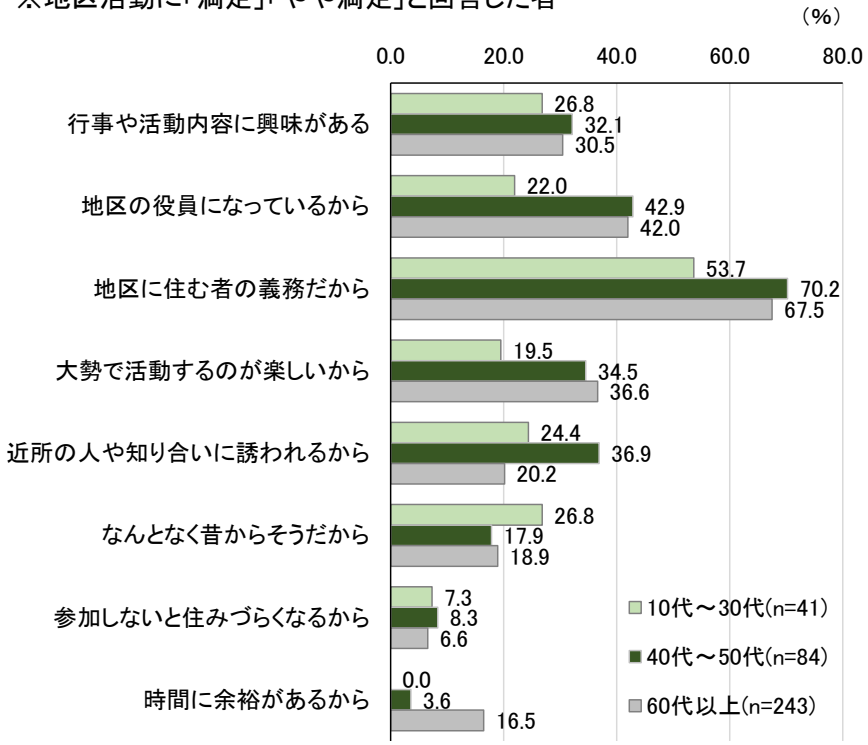


- 地区活動への参加理由を、年代別に見ると、地区活動に満足している人は、どの年代でも「地区に住む者の義務だから」が最も多い。
- 地区活動に不満な人の参加理由としては、年代が若いほど「参加しないと住みづらくなるから」の回答が多く、年代が高いほど「地区の役員になっているから」「地区に住む者の義務だから」が多い。

年代別　地区活動に参加している理由

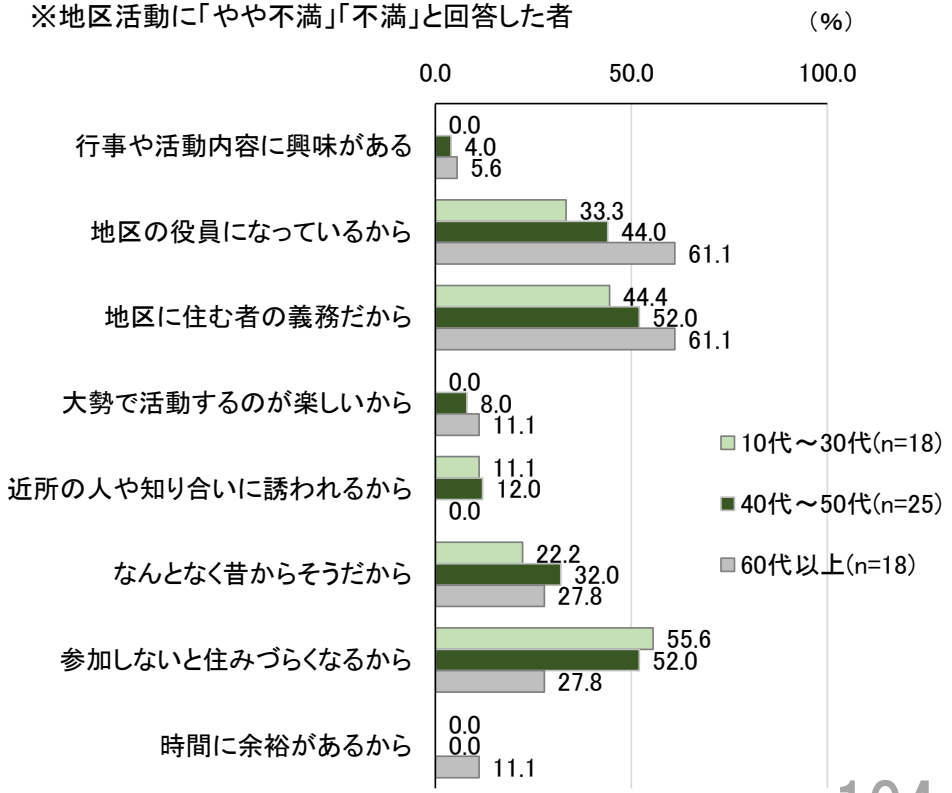
地区活動に満足している人の参加理由

※地区活動に「満足」「やや満足」と回答した者



地区活動に不満な人の参加理由

※地区活動に「やや不満」「不満」と回答した者

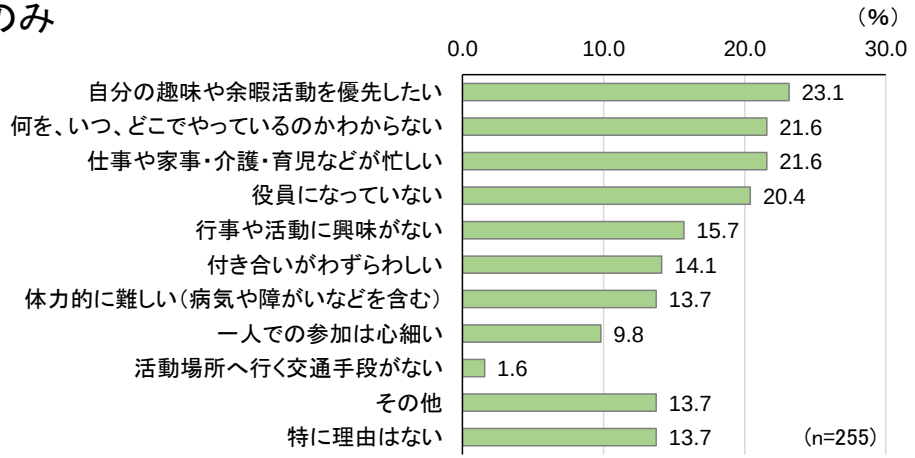


④地区活動に参加していない理由/今後の地区活動への参加意向

- 地区活動に参加していない人の不参加理由としては、「自分の趣味や余暇活動を優先したい」と回答した人が最も多い。
- また、今後の参加意向については、「参加したい」と回答したのは12.1%であり、「必要性は感じるが参加できない」の割合は50.6%となっている。

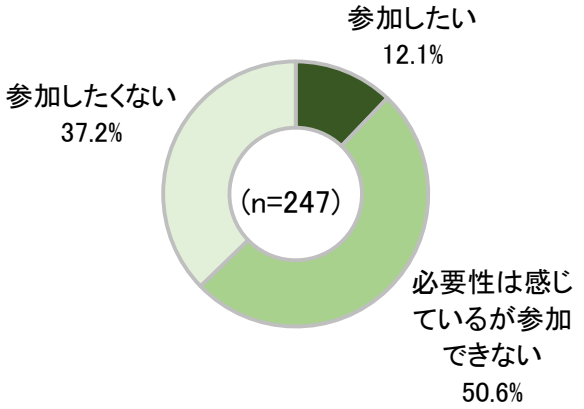
問26-1　地区活動に参加していない理由（複数回答）
※問24で「地区活動に参加していない」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
自分の趣味や余暇活動を優先したい	59	23.1
何を、いつ、どこでやっているのかわからない	55	21.6
仕事や家事・介護・育児などが忙しい	55	21.6
役員になっていない	52	20.4
行事や活動に興味がない	40	15.7
付き合いがわずらわしい	36	14.1
体力的に難しい（病気や障がいなどを含む）	35	13.7
一人での参加は心細い	25	9.8
活動場所へ行く交通手段がない	4	1.6
その他	35	13.7
特に理由はない	35	13.7
回答数	255	



問26-2　今後の地区活動への参加意向
※問24で「地区活動に参加していない」と回答した方のみ

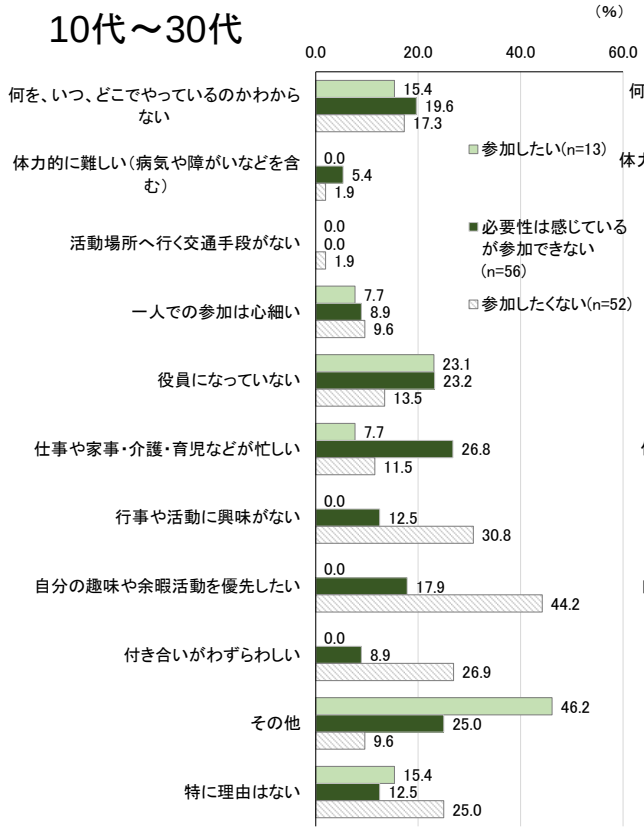
	度数（人）	割合（%）
参加したい	30	12.1
必要性は感じているが参加できない	125	50.6
参加したくない	92	37.2
合計	247	100.0



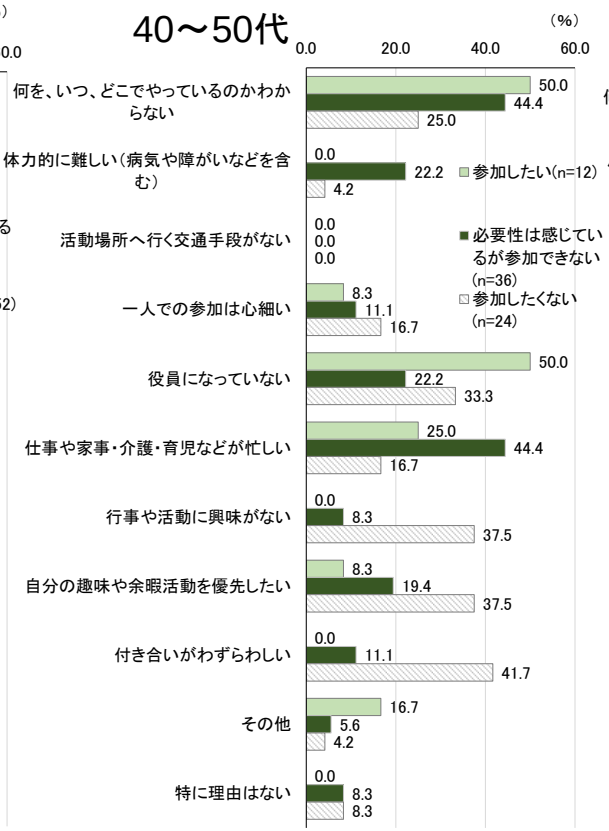
- 年代別に、今後の地区活動への参加意向別に活動に参加していない理由を見ると、10代～30代で「必要性は感じているが参加できない」と回答した人の理由は、「仕事や家事・介護・育児などが忙しい」が最も多い。「参加したくない」と回答した人は、「自分の趣味や余暇活動を優先したい」が最も多い。
- 40代～50代では、「必要性は感じているが参加できない」と回答した人は、「何を、いつ、どこでやっているのかわからない」「仕事や家事・介護・育児などが忙しい」が最も多い。「参加したくない」と回答した人は、「付き合いがわずらわしい」「自分の趣味や余暇活動を優先したい」「行事や活動に興味がない」が多い。
- 60代以上では、「必要性は感じているが参加できない」と回答した人は「体力的に難しい」という理由が多い。

年代別・今後の地区活動への参加意向別　参加していない理由

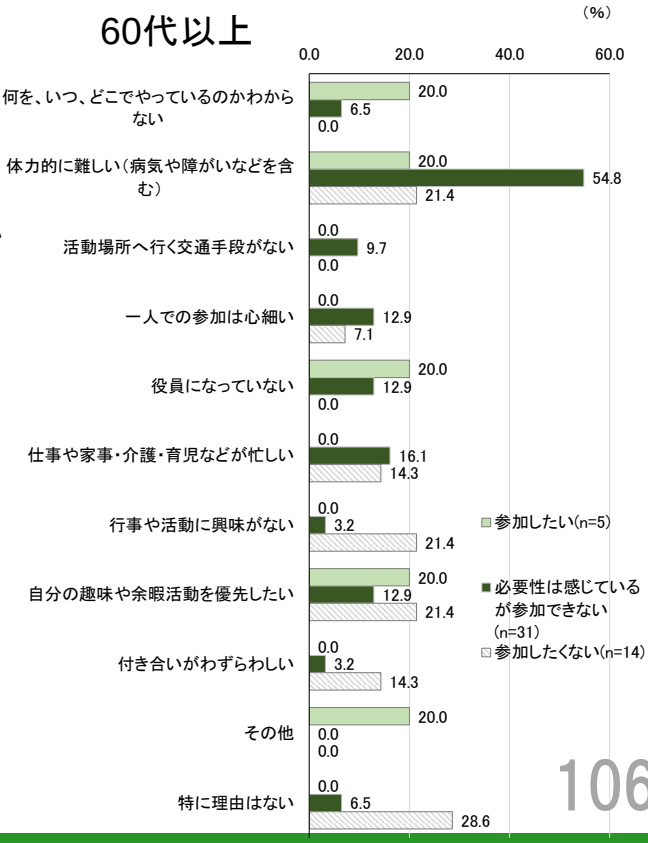
10代～30代



40～50代



60代以上

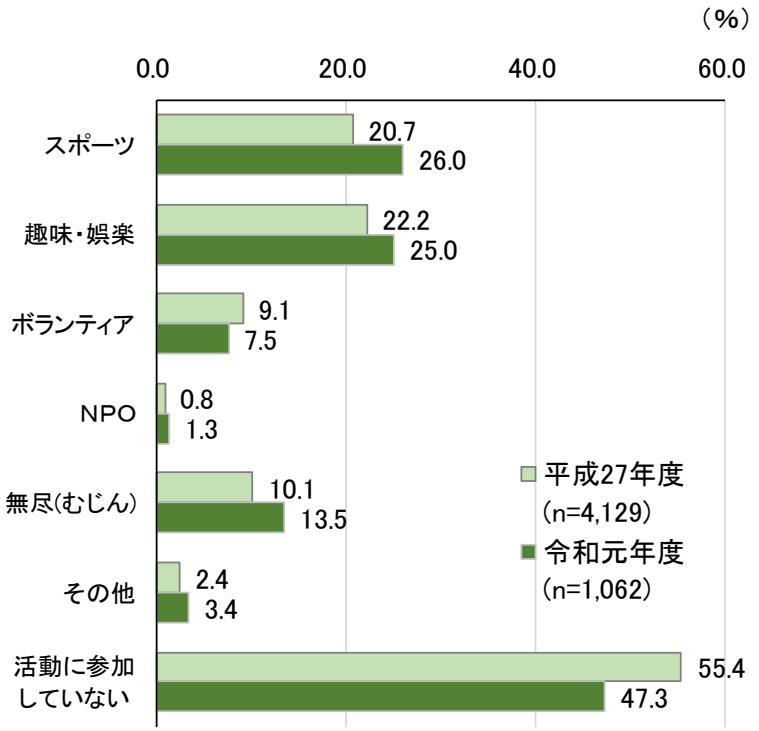


⑤地区活動以外のグループ活動の参加状況

- 「スポーツ」「趣味・娯楽」「無尽」に参加していると回答した人の割合は、平成27年度と比較すると増加した。
- 「活動に参加していない」と回答した人の割合は47.3%で、平成27年度と比較すると、8.1ポイント減少した。

問27　参加している地区活動以外のグループ活動（複数回答）
※次ページ以降に年代別クロス集計あり

	平成27年度		令和元年	
	度数（人）	割合（%）	度数（人）	割合（%）
スポーツ	855	20.7	276	26.0
趣味・娯楽	915	22.2	266	25.0
ボランティア	375	9.1	80	7.5
NPO	35	0.8	14	1.3
無尽(むじん)	419	10.1	143	13.5
その他	101	2.4	36	3.4
活動に参加していない	2,289	55.4	502	47.3
回答数	4,129		1,062	



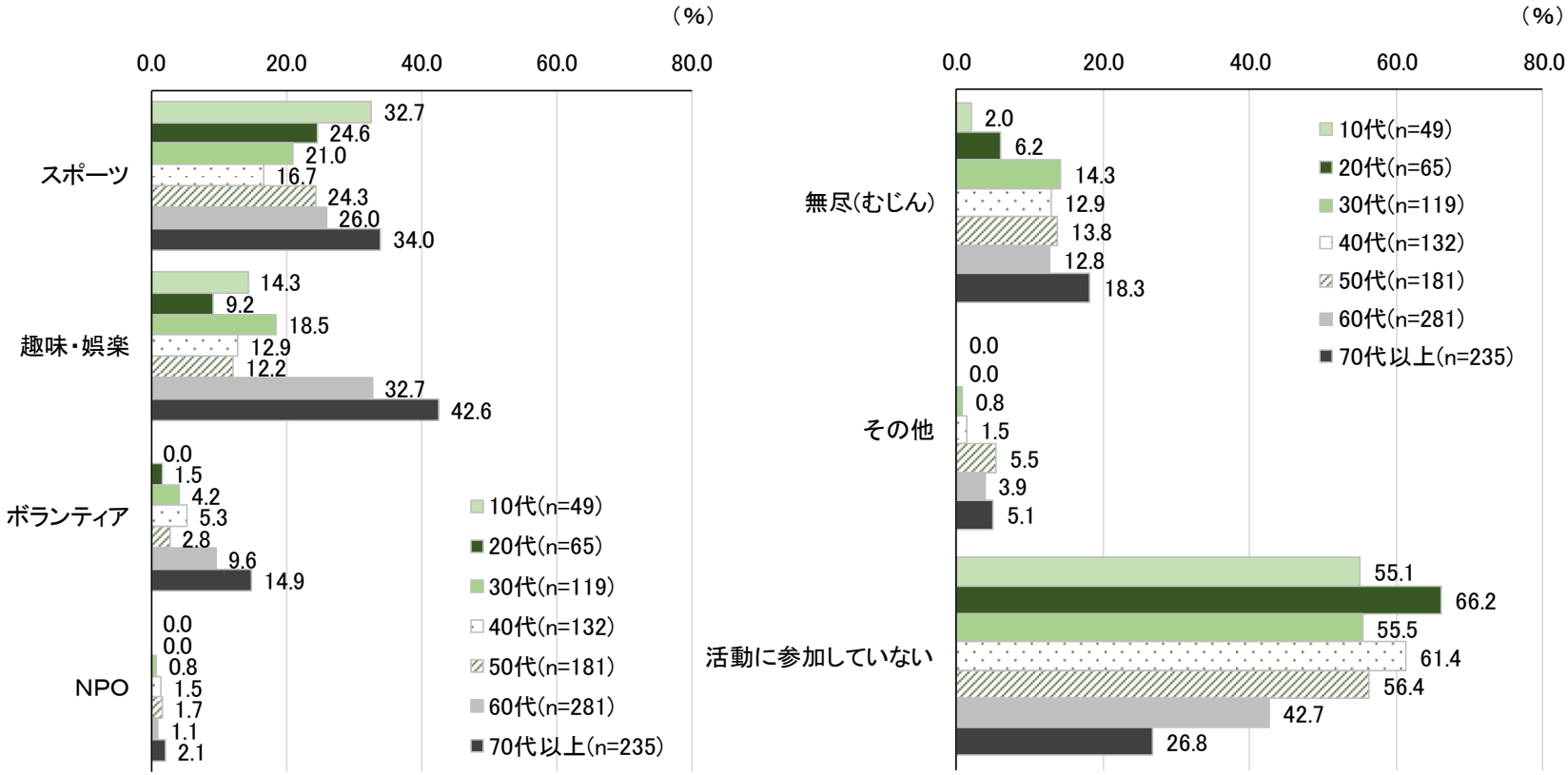
その他の内容

種類	名称
高齢者介護予防	いいなクラブ
	ウォーキング集会
	サロン
	デイケア
	下畑ニコニコカフェ
	高齢者クラブ
	認知症予防ゲーム
まちづくり	まちづくり、交流
	祭
母親女性	ママ友
	女子会

種類	名称
環境作業	在来種を守る会
	作業所
	草刈り（旧中学校）
	農業情報
同級会	同級生
	同窓会
	同年代の方と
その他	ふれあいの森
	市民活動
	宗教団体
	勉強会

- 年代別に参加している地区活動以外のグループ活動を見ると、「活動に参加していない」と回答した人の割合は、10代～50代までは50%を超えている。特に20代で最も高く、66.2%に達している。
- 「スポーツ」は比較的全年代の参加割合が高いものの、「趣味・娯楽」「ボランティア」「無尽」は年代が高くなるほど、参加する人の割合は増加する傾向にある。

年代別　参加している地区活動以外のグループ活動

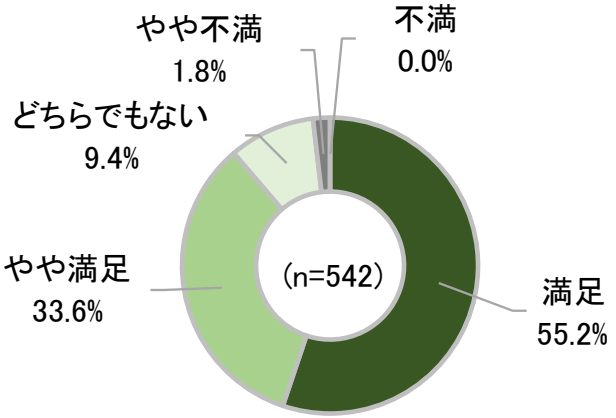


⑥地区活動以外のグループ活動の満足度/不満の理由

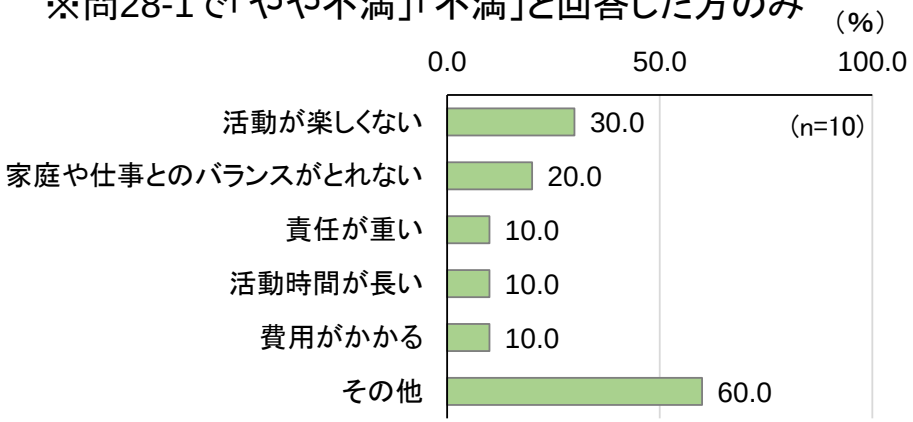
- いずれかのグループ活動に「参加している」と回答した人における、活動の満足度では「満足」と「やや満足」を合わせた割合は88.8%となっている。
- 「やや不満」と「不満」を合わせた割合は1.8%とわずかであり、その理由として、「活動が楽しくない」「家庭と仕事のバランスがとれない」「責任が重い」等が挙げられている。

問28-1　参加している地区活動以外のグループ活動の満足度
※問27でいずれかの活動に参加していると回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
満足	299	55.2
やや満足	182	33.6
どちらでもない	51	9.4
やや不満	10	1.8
不満	0	0
合計	542	100.0



問28-2　不満に感じる理由（複数回答）
※問28-1で「やや不満」「不満」と回答した方のみ



その他の内容

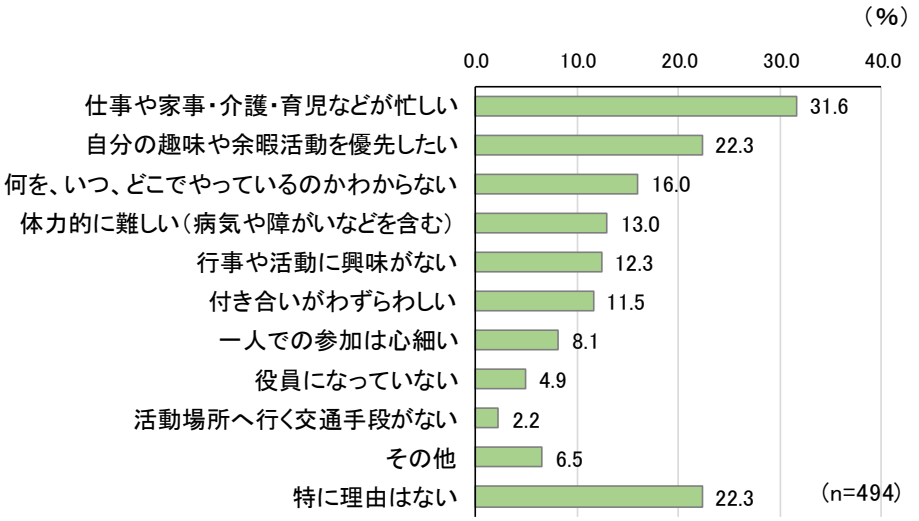
その他の内容
トラブルが多い
ボランティアの窓口がすぐに閉鎖されてしまった。もっとボランティアが必要だと思った。
もっと活動の時間をつくりたい。
参加者が少なく、固定されてきている
部落の中心的年代層の考えが低いため

⑦地区活動以外のグループ活動に参加していない理由/今後の参加意向

- グループ活動に参加していないと回答した人の参加しない理由としては、「仕事や家事・介護・育児などが忙しい」と回答した人が31.6%で最も多く、ついで「自分の趣味や余暇活動を優先したい」が多い。
- 活動に参加していない人の今後の参加意向を見ると、「参加したい」は17.5%に留まり、「参加したいができない」が38.9%、「参加したくない」が43.5%となっている。

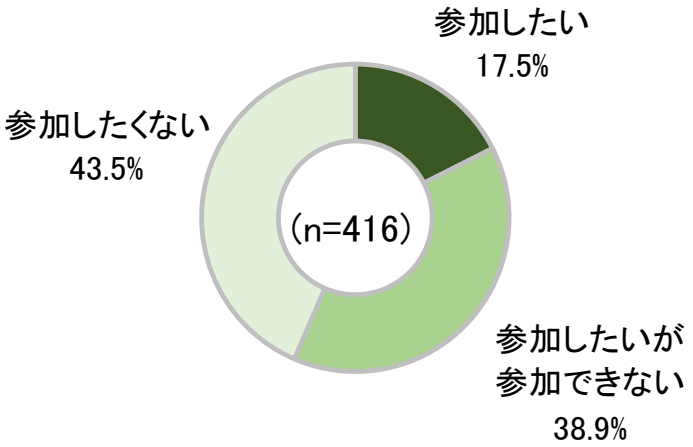
問29-1　地区活動以外のグループ活動に参加していない理由（複数回答）
※問27で「活動に参加していない」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
仕事や家事・介護・育児などが忙しい	156	31.6
自分の趣味や余暇活動を優先したい	110	22.3
何を、いつ、どこでやっているのかわからない	79	16.0
体力的に難しい（病気や障がいなどを含む）	64	13.0
行事や活動に興味がない	61	12.3
付き合いがわずらわしい	57	11.5
一人での参加は心細い	40	8.1
役員になっていない	24	4.9
活動場所へ行く交通手段がない	11	2.2
その他	32	6.5
特に理由はない	110	22.3
回答数	494	



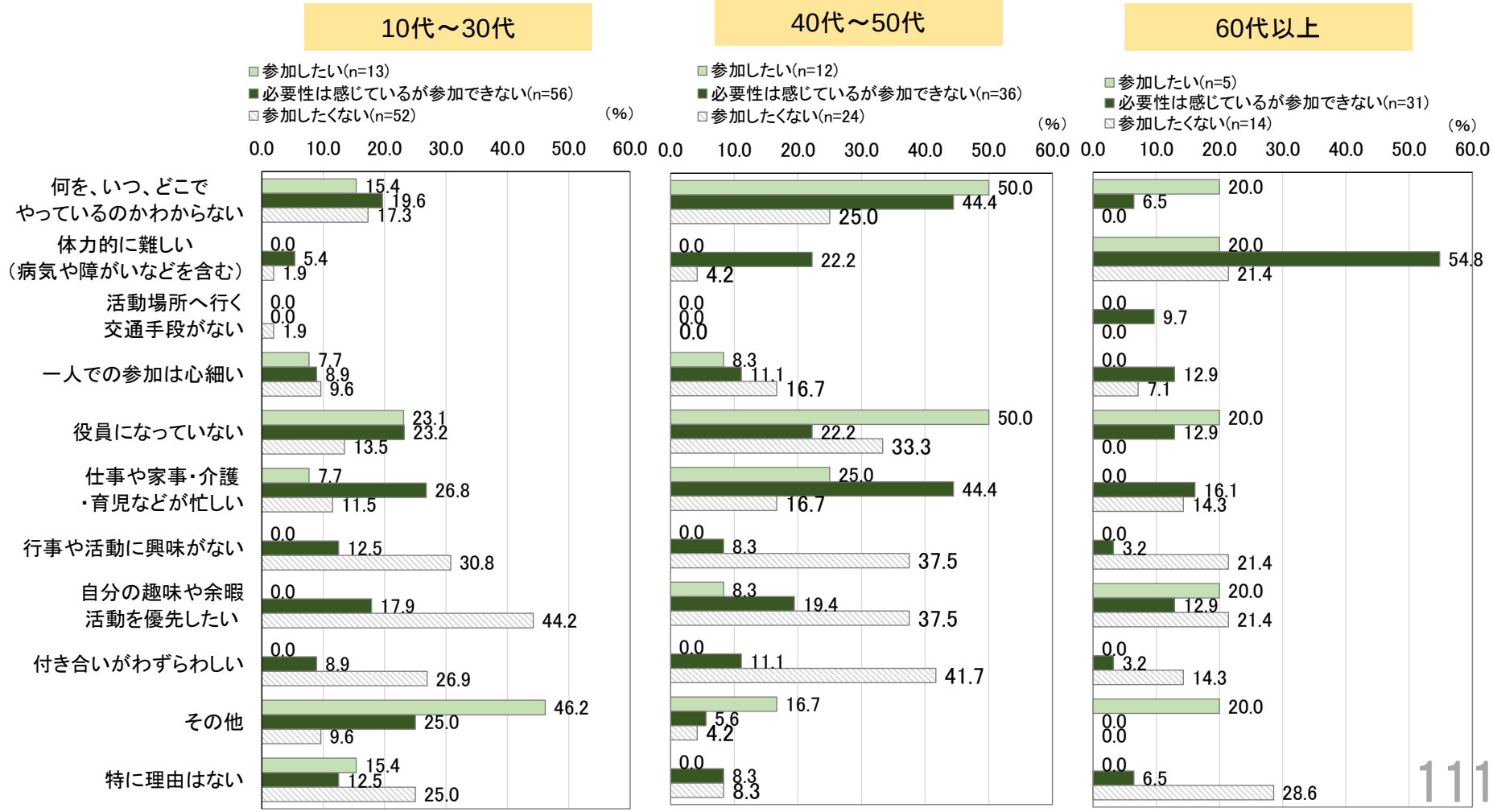
問29-2　今後のグループ活動への参加意向
※問27で「活動に参加していない」と回答した方のみ

	度数（人）	割合（%）
参加したい	73	17.5
参加したいが参加できない	162	38.9
参加したくない	181	43.5
合計	416	100.0



- 今後のグループ活動への参加意向別に、現在、活動に参加していない理由を見ると、10代～50代で「参加したいが参加できない」と回答した人の理由は「仕事や家事・介護・育児などが忙しい」が最も多い。
- 「参加したくない」と回答した人は、どの年代も「自分の趣味や余暇活動を優先したい」が最も多い。

今後のグループ活動への参加意向別　参加していない理由

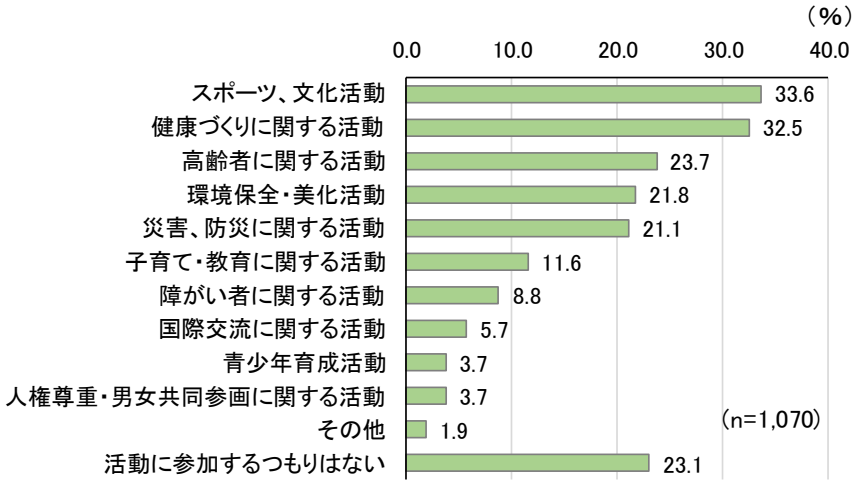


⑧今後参加したい活動/活動に参加する条件

- 今後参加したい活動は、「スポーツ、文化活動」が33.6%、「健康づくりに関する活動」が32.5%と高い。
- 地域をよくする活動に参加しやすくなる条件としては、「自分にあった時間や内容の活動がある」が72.2%で最も高くなっている。

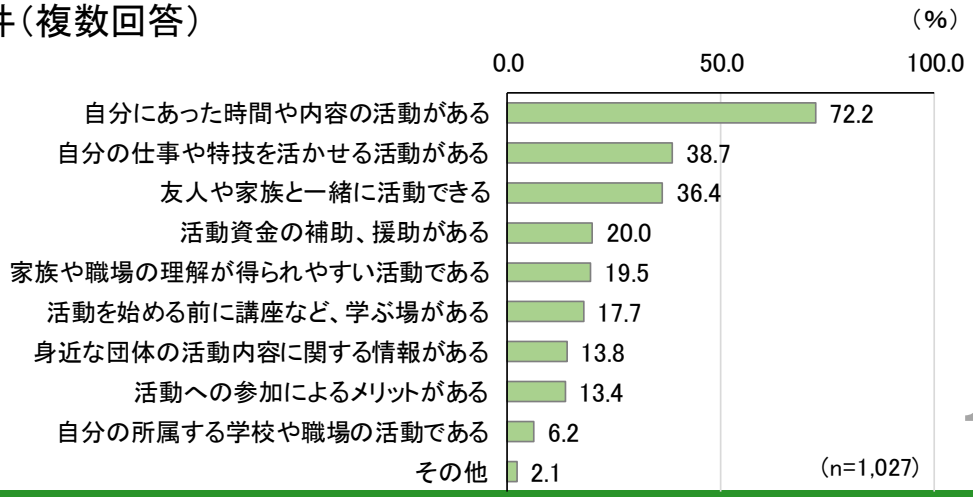
問30　今後参加したい活動（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
スポーツ、文化活動	360	33.6
健康づくりに関する活動	348	32.5
高齢者に関する活動	254	23.7
環境保全・美化活動	233	21.8
災害、防災に関する活動	226	21.1
子育て・教育に関する活動	124	11.6
障がい者に関する活動	94	8.8
国際交流に関する活動	61	5.7
青少年育成活動	40	3.7
人権尊重・男女共同参画に関する活動	40	3.7
その他	20	1.9
活動に参加するつもりはない	247	23.1
回答数	1,070	



問31　地域をよくする活動に参加しやすくなる条件（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
自分にあった時間や内容の活動がある	741	72.2
自分の仕事や特技を活かせる活動がある	397	38.7
友人や家族と一緒に活動できる	374	36.4
活動資金の補助、援助がある	205	20.0
家族や職場の理解が得られやすい活動である	200	19.5
活動を始める前に講座など、学ぶ場がある	182	17.7
身近な団体の活動内容に関する情報がある	142	13.8
活動への参加によるメリット（進学や就職に有利、ポイントが貯まるなど）がある	138	13.4
自分の所属する学校や職場の活動である	64	6.2
その他	22	2.1
回答数	1,027	



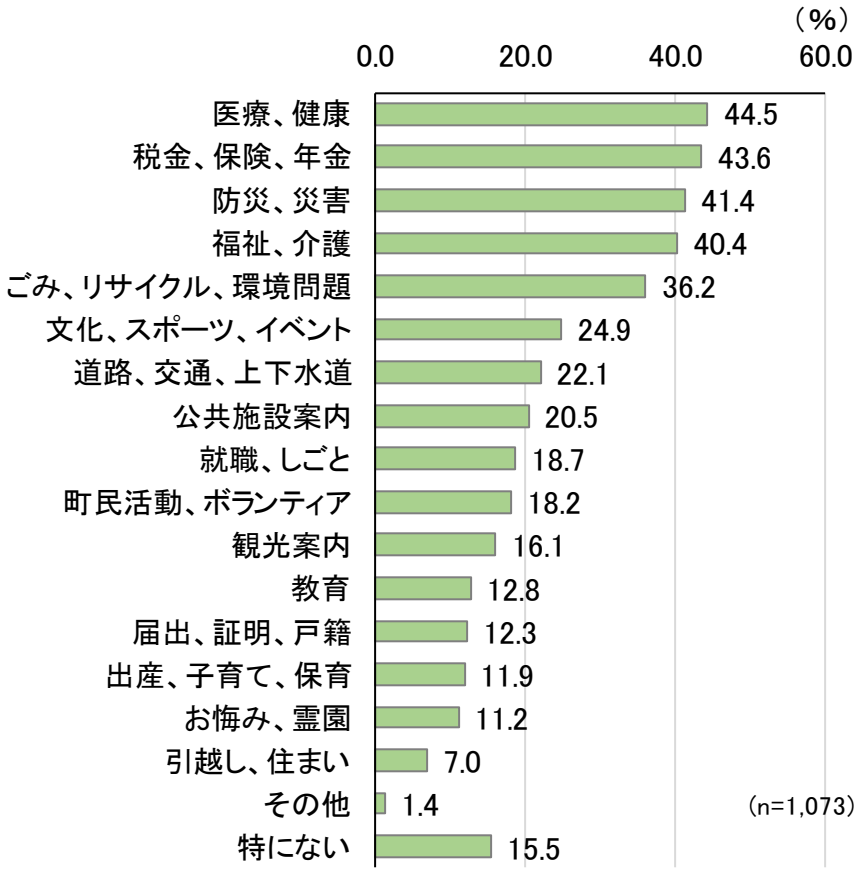
（2）町政情報の発信について

①町政に関して希望する情報

- 町政に対して希望する情報としては、回答者の4割以上が「医療、健康」「税金、保険、年金」「防災、災害」「福祉、介護」を挙げている。

問45　町政に関して希望する情報（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
医療、健康	477	44.5
税金、保険、年金	468	43.6
防災、災害	444	41.4
福祉、介護	433	40.4
ごみ、リサイクル、環境問題	388	36.2
文化、スポーツ、イベント	267	24.9
道路、交通、上下水道	237	22.1
公共施設案内	220	20.5
就職、しごと	201	18.7
町民活動、ボランティア	195	18.2
観光案内	173	16.1
教育	137	12.8
届出、証明、戸籍	132	12.3
出産、子育て、保育	128	11.9
お悔み、霊園	120	11.2
引越し、住まい	75	7.0
その他	15	1.4
特にない	166	15.5
回答数	1,073	

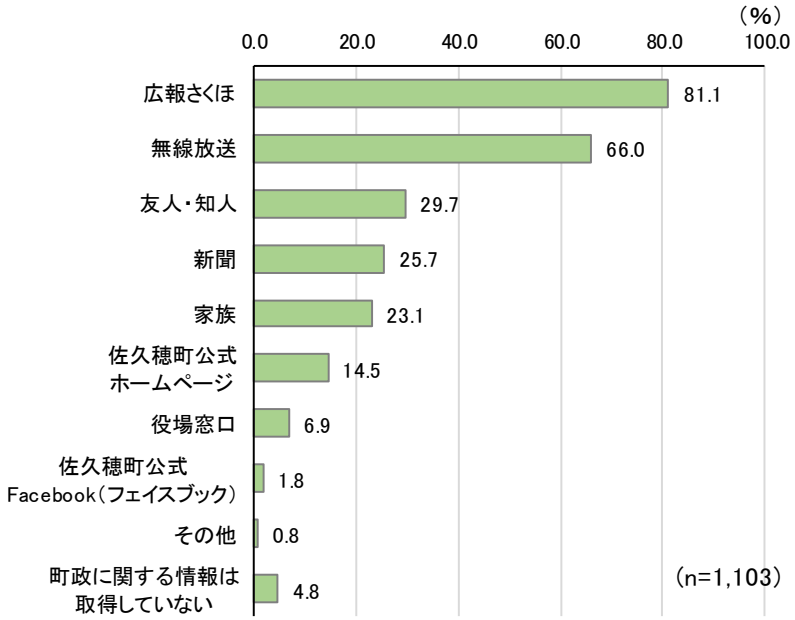


②町政情報の入手先/普段よく利用するSNS

- 町政情報の入手先としては「広報さくほ」が81.1%と最も多く、次いで「無線放送」が多い。
- 普段、よく利用するSNSとしては、「LINE（ライン）」が58.9%で最多となっている。

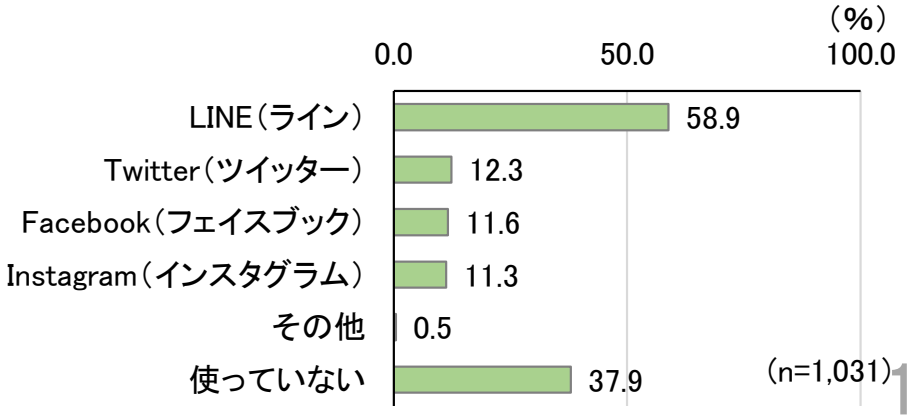
問47　町政に関する情報入手先（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
広報さくほ	895	81.1
無線放送	728	66.0
友人・知人	328	29.7
新聞	283	25.7
家族	255	23.1
佐久穂町公式ホームページ	160	14.5
役場窓口	76	6.9
佐久穂町公式Facebook（フェイスブック）	20	1.8
その他	9	0.8
町政に関する情報は取得していない	53	4.8
回答数	1,103	



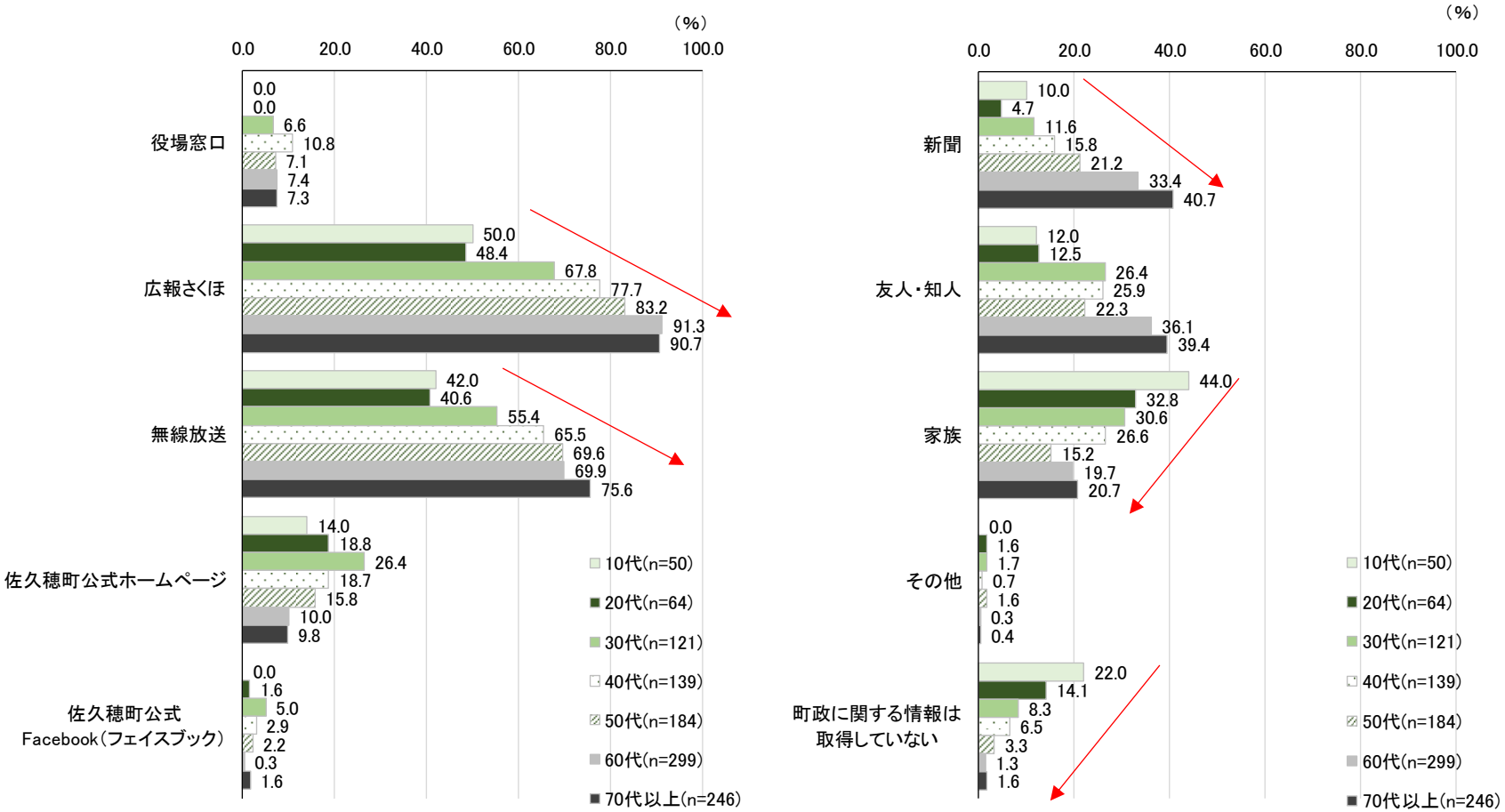
問48　普段、よく利用するSNS（複数回答）

	度数（人）	割合（%）
LINE（ライン）	607	58.9
Twitter（ツイッター）	127	12.3
Facebook（フェイスブック）	120	11.6
Instagram（インスタグラム）	116	11.3
その他	5	0.5
使っていない	391	37.9
回答数	1,031	



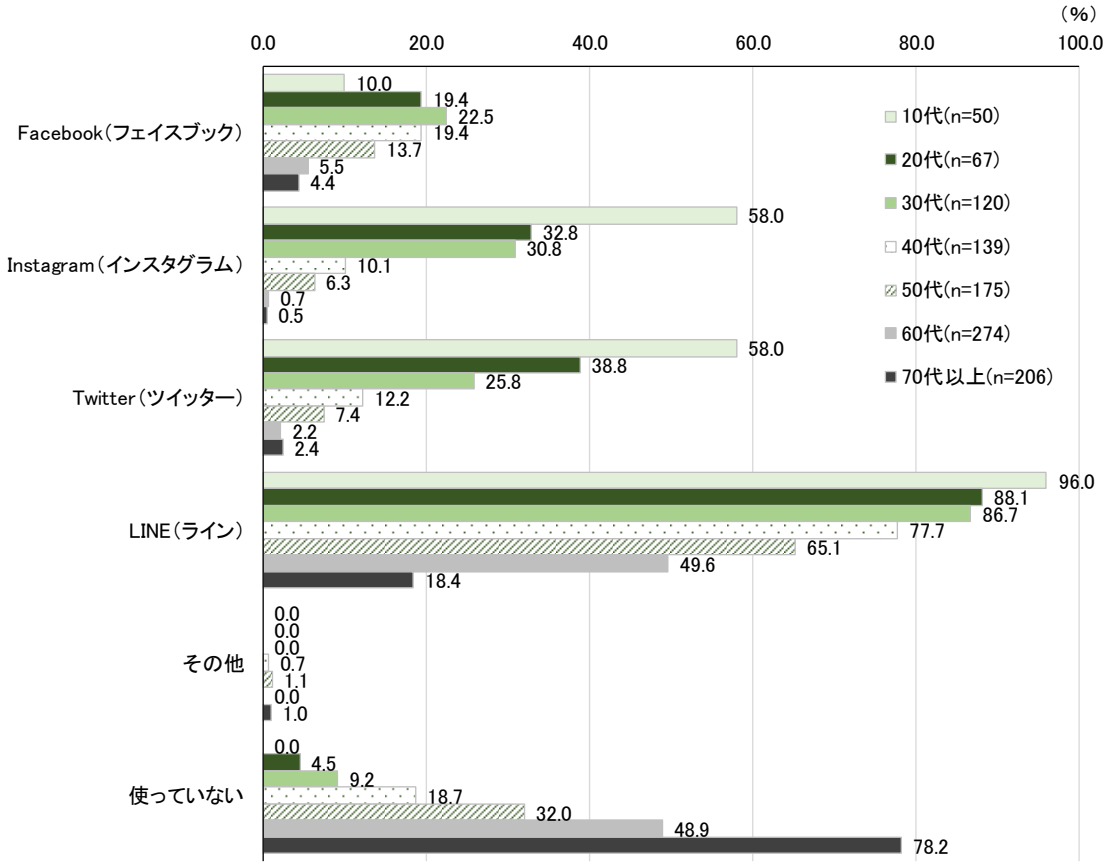
- 町政情報の入手先を年代別に見ると、どの年代も「広報さくほ」が最も多くなっているが、年代が上がるにつれて、「広報さくほ」と回答している人の割合が高くなる傾向が見られる。
- 一方で、年代が低いほど、「家族」や「町政に関する情報は取得していない」と回答する人の割合が高くなっている。

年代別　町政に関する情報の入手先



- 年代別に普段、よく利用するSNSを見ると、「使っていない」とする回答は70代以上で78.2%となっており、60代以下では5割を下回っている。
- 普段、よく利用するSNSとしては、どの年代でも「LINE（ライン）」が最も多く、年代は若くなるほど利用している人が多い傾向にある。

年代別　普段、よく利用するSNS



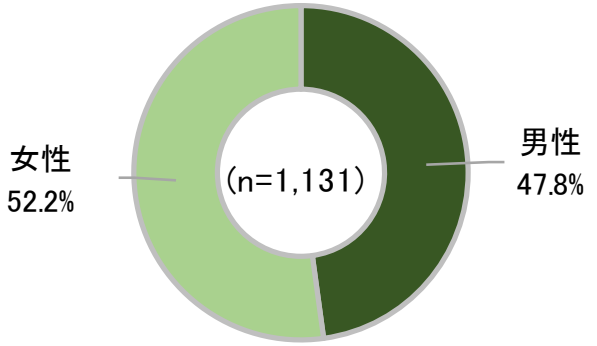
8. 回答者自身のことについて（回答者属性）

①回答者の性別/年代

- 回答者は、男性が47.8%で、女性が52.2%となっている。
- 回答者の年代は、60代が最も多く、ついで70代以上が多い。

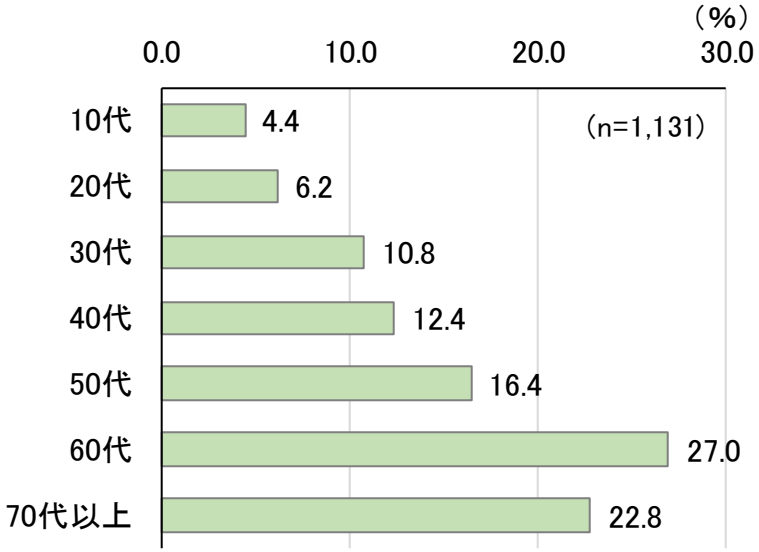
問1　回答者の性別

	度数（人）	割合（%）
男性	541	47.8
女性	590	52.2
合計	1,131	100.0



問2　回答者の年代

	度数（人）	割合（%）
10代	50	4.4
20代	70	6.2
30代	122	10.8
40代	140	12.4
50代	186	16.4
60代	305	27.0
70代以上	258	22.8
合計	1,131	100.0

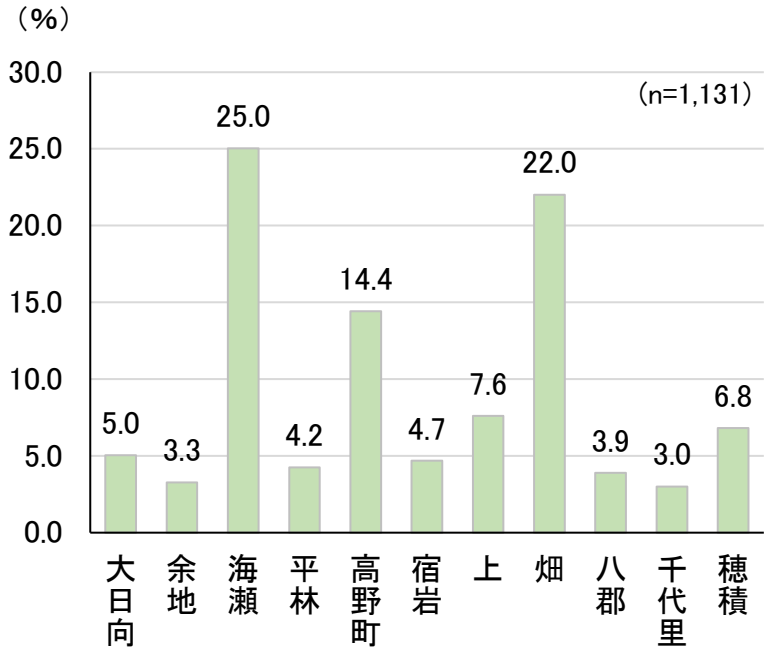


②回答者の居住地区（11地区）

- 回答者の居住地区は、海瀬地区が最も多く、ついで畑地区、高野町地区が多い。

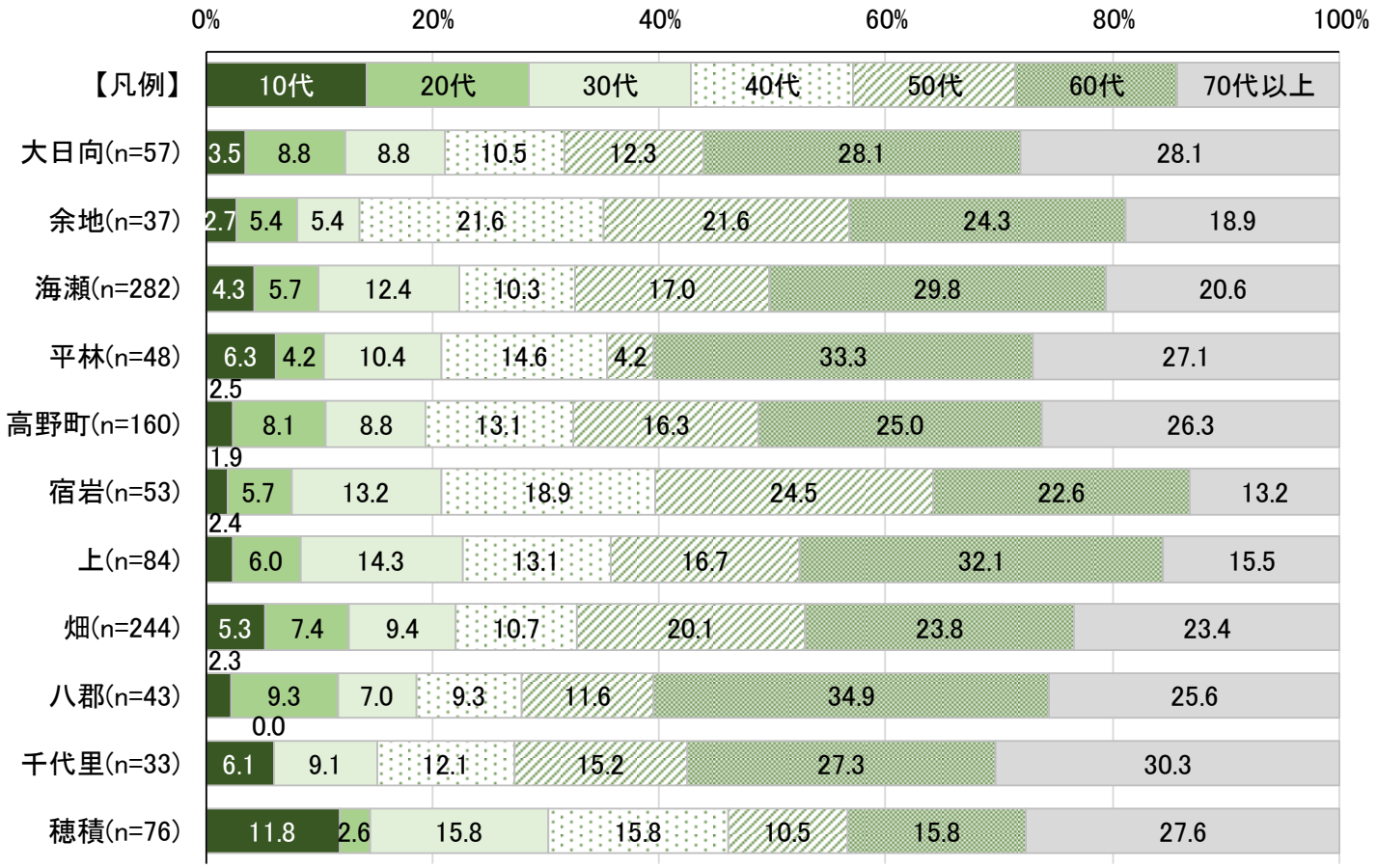
問3　回答者の居住地区

	度数（人）	割合（%）
大日向	57	5.0
余地	37	3.3
海瀬	283	25.0
平林	48	4.2
高野町	163	14.4
宿岩	53	4.7
上	86	7.6
畑	249	22.0
八郡	44	3.9
千代里	34	3.0
穂積	77	6.8
合計	1,131	100.0



- 地区別、年代別の回答者の割合は下記のようになっている。
- 30代以下の割合は、穂積地区が突出して多く、3割以上となっている。
- 60代以上の割合は、平林地区、八郡地区で6割以上となっている。

地区別　回答者の年代

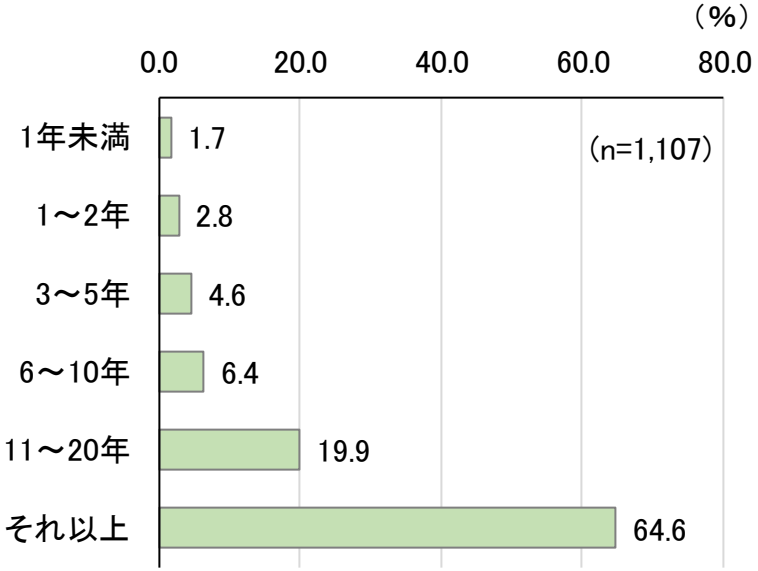


③現在の常会での居住年数/現在の同居状況

- 現在の常会での居住年数は、20年以上の人が最も多い。
- 同居状況は、一人暮らしは8.8%程度であり、9割以上の住民は同居家族がいる。

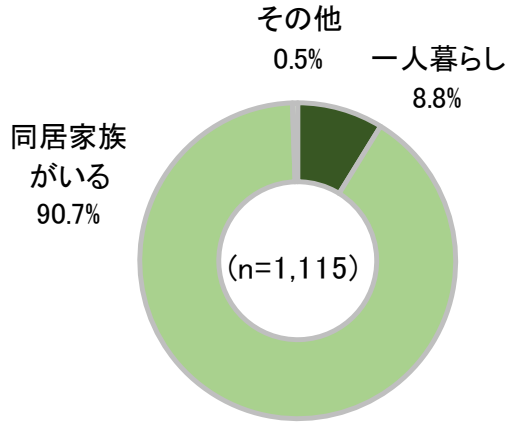
問4　現在の常会での居住年数

	度数（人）	割合（%）
1年未満	19	1.7
1～2年	31	2.8
3～5年	51	4.6
6～10年	71	6.4
11～20年	220	19.9
それ以上	715	64.6
合計	1,107	100.0



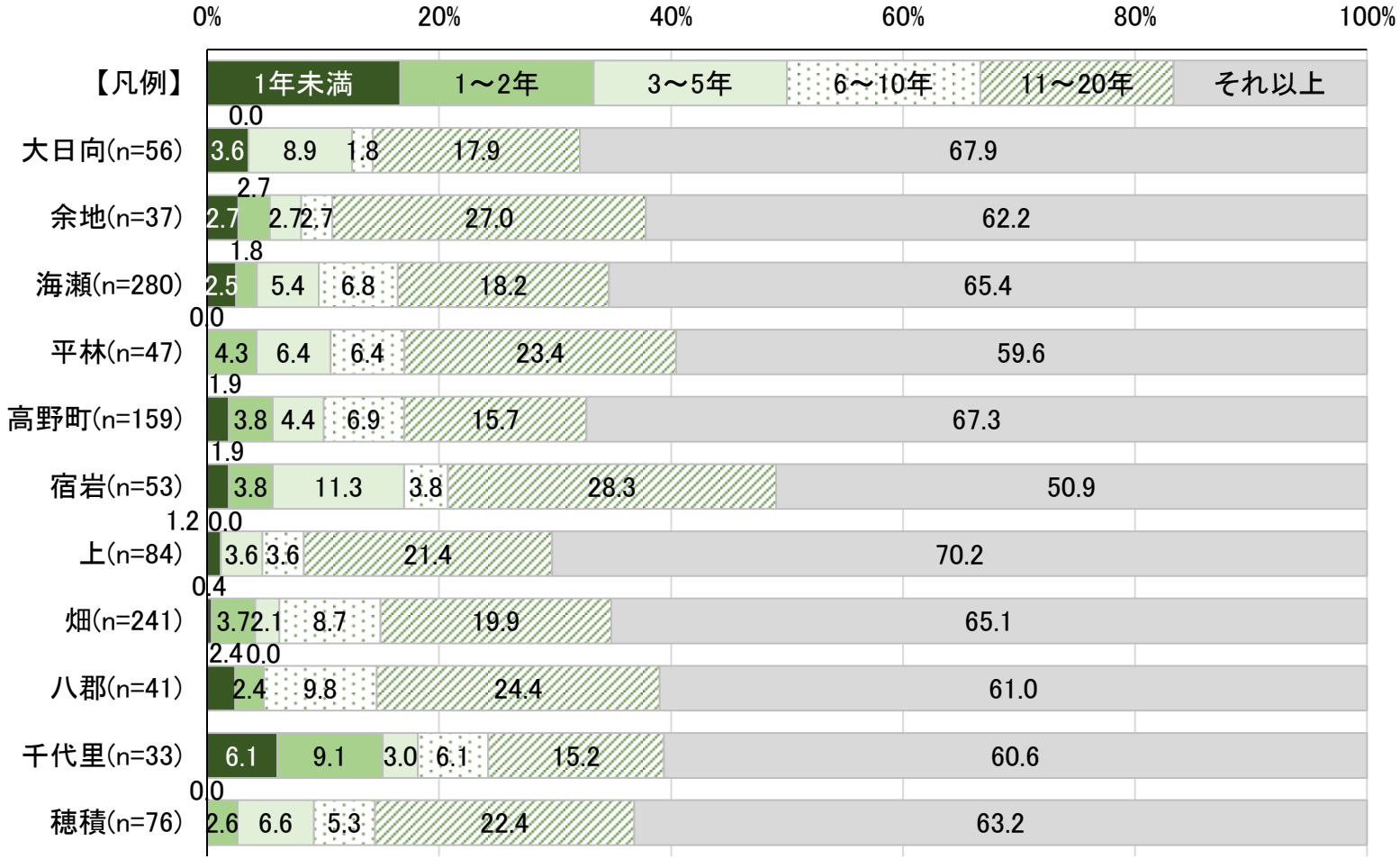
問5　現在の同居状況

	度数（人）	割合（%）
一人暮らし	98	8.8
同居家族がいる	1,011	90.7
その他	6	0.5
合計	1,115	100.0



- どの地区でも20年以上居住している人が最も多い。
- 居住年数5年未満の割合を見ると、千代里地区が最も高く、ついで宿岩地区、大日向地区となっている。

地区別　回答者の居住年数居住年数

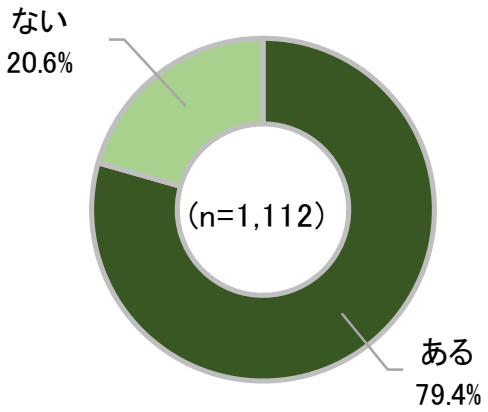


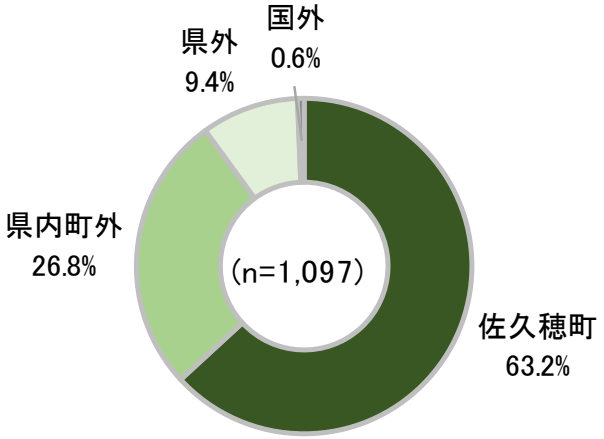
④町外での居住経験の有無/出身地

- 町外居住経験があると答えた住民は、79.4%となっている。
- 回答者の63.2%が佐久穂町出身者である。県外出身者（国外も含む）は9.4%となっている。

問6　町外での居住経験の有無

	度数（人）	割合（%）
ある	883	79.4
ない	229	20.6
合計	1,112	100.0



問7　回答者の出身地

	度数（人）	割合（%）
佐久穂町	693	63.2
県内町外	294	26.8
県外	103	9.4
国外	7	0.6
合計	1,097	100.0